

平成23年度
広島県立美術館年報

平成23年度
広島県立美術館年報



目 次

I. 沿革	2
II. 展覧会	
展覧会一覧	4
特別展	
1. 復興への願いを込めて ―コレクションで迎える広島県立美術館の歩み―	5
2. ワクワク！ドキドキ！夏休み子ども美術館	8
3. ウクライナの至宝 ―スキタイ黄金美術の煌き―	10
4. 抱きしめたい！近代日本の木彫展	13
5. 第58回日本伝統工芸展広島展	17
6. ―ユーモアのすすめ―福田繁雄大回顧展	20
所蔵作品展	24
III. 普及活動	
1. ネットワーク美術館展 「児玉希望と広島ゆかりの日本画家展」	40
2. 第63回広島県美術展	41
3. 博物館実習	42
4. 学校との連携事業 「美術作品鑑賞教室」	43
5. 新規作成ワークシート・リスト	46
6. 学校等による利用状況	47
7. 事業実施状況	49
8. 県民ギャラリー利用状況	57
9. 友の会事業報告	61
IV. 業務一覧	63
V. 入館者数一覧	74
VI. 美術品等収集状況	76
VII. 美術品等の貸出し	84
VIII. 関係法規	86
IX. 名簿	95

I 沿革

昭和31年	美術館建設の募金運動はじまる				広島県条例第9号)入館料
昭和38年4月	調査費計上	昭和52年2月			広島県美術展開催運営規則施行(昭和52年 広島県教育委員会規則第2号)
昭和39年4月	設計委託料計上				
10月	建設促進委員会開催	昭和53年10月			開館10周年記念展開催
昭和40年4月	整地費など計上	昭和54年3月			開館10周年記念「広島県立美術館所蔵作品集」発刊
昭和41年5月	文部省社会教育施設整備費補助金の交付内定	12月			収蔵庫拡張工事着工
12月	建設募金委員会発足	昭和55年2月			収蔵庫拡張工事完了
昭和42年1月	起工式挙行	4月			定宗一宏館長(非常勤)任命 広島県立美術館条例一部改正(昭和55年 広島県条例第19号)施設使用料
昭和43年3月	旧館竣工				
4月	広島県立美術館条例施行(昭和43年 広島 県条例第20号)	10月			広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和55年 広島県教育委員会規則第10号)
	広島県立美術館管理運営規則施行(昭和43 年 広島県教育委員会規則第1号)	昭和56年4月			広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和56年 広島県教育委員会規則第5号)課 の名称変更・入館料の免除 広島県立美術館美術品等取得基金条例施行 (昭和56年 広島県条例第5号 基金額1億円)
	加藤豊館長(常勤)任命				
6月	広島県立美術館協議会条例施行(昭和43年 広島県条例第38号)	10月			広島県美術品等取得基金運用規定制定 美術品等収集委員会設置要領制定
7月	広島県立美術館協力会結成	昭和57年3月			定宗館長辞職
9月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和43年 広島県教育委員会規則第13号)分 掌事務	4月			広島県立美術館条例一部改正(昭和57年 広島県条例第10号)入館料・施設使用料 阿川静明館長(非常勤)任命
21日	落成式挙行				
22日	旧館開館	9月			縮景園入園窓口を設置
10月	広島県立美術館美術品収集要領制定	昭和60年3月			阿川館長辞職
12月	広島県立美術館展示施設運営要領制定	4月			赤木博典館長(常勤)任命
昭和44年4月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和44年 広島県教育委員会規則第2号)職 員の職・職員の職務 館蔵品常設展開設	昭和61年10月			事務局職員による県立美術館整備計画検討 会議を設置
昭和46年4月	宮地貫一館長事務取扱任命	昭和62年2月			渋谷文庫開設
昭和47年1月	広島県立美術館友の会発足	3月			県立美術館整備計画検討会議, 整備構想案 をまとめる 赤木館長辞職
5月	浜本正弘館長事務取扱任命				
6月	佐々木司郎館長事務取扱任命	4月			吉岡典威館長(兼務)任命
8月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和47年 広島県教育委員会規則第11号)職 員の職	11月			県教育委員会, 広島県立美術館整備構想検 討委員会を設置, 委員8名を委嘱
	羽白幸雄館長(非常勤)任命	昭和63年4月			菅川健二館長(兼務)任命 広島県立美術館条例一部改正(昭和63年 広島県条例第7号)入館料・施設使用料 広島県立美術館美術品等取得基金, 1億円 を増額(基金額2億円)
11月	開館5周年記念「広島県立美術館所蔵作品集」発刊				
昭和48年6月	広島県立美術館条例一部改正(昭和48年 広島県条例第30号)	11月			広島県立美術館整備構想検討委員会, 整備 構想をまとめ県教育委員会に答申
	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和48年 広島県教育委員会規則第14号)補 助職員の職及び職務	平成元年3月			さところ文庫開設
10月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭和48 年 広島県教育委員会規則第19号)職員の職等	5月			広島県立美術館整備基金計画検討委員会を 設置, 委員18名を委嘱(座長 橋口収県商工 会議所連合会会長)
昭和49年3月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和49年 広島県教育委員会規則第4号)そ の他の職員の職	7月			広島県立美術館美術品等収集評価委員会を 設置, 委員6名を委嘱
昭和50年4月	広島県立美術館条例一部改正(昭和50年 広島県条例第25号)施設使用料	平成2年4月			広島県立美術館美術品等取得基金, 5億円 を増額(基金額7億円)
昭和51年4月	広島県立美術館条例一部改正(昭和51年				

12月	知事, 県議会本会議において「新美術館は隣接する縮景園の景観を損なうことなく, 両施設の一体化を図った文化ゾーンの一環として一体的に整備する必要がある」と答弁	成10年 広島県教育委員会規則第4号)
平成3年2月	知事, 県議会本会議において「基金設計に着手する」ことを提案	7月1日 辰野裕一館長(兼務) 就任
3月	県議会, 平成3年度予算案(基本設計予算)を可決	平成12年2月1日 広島県立美術館美術品等収集評価委員会設置要領一部改正
4月	広島県立美術館整備基本計画をまとめる美術品等特別収集に着手	平成13年3月26日 広島県博物館協議会条例施行(平成13年 広島県条例第3号) 広島県美術館協議会条例廃止
平成4年7月	施設利用業務休止。館蔵品常設展示室休室	29日 広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成12年 広島県教育委員会規則第5号) 入館料等の減免
9月	閉館記念式典挙行	7月10日 常盤豊館長(兼務) 就任
10月	事務所を広島市西区観音新町四丁目9-43に移転, 仮事務所とする	10月22日 広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成13年 広島県教育委員会規則第7号) 入館料の減免
	旧県立図書館及び旧県立美術館の解体工事に着手	12月20日 平山郁夫名誉館長辞任
	広島県立美術館美術品等取得基金, 10億円を増額(基金額10億円)	平成14年3月25日 広島県立美術館条例一部改正(平成14年 広島県条例第18号) 小・中・高校生の無料化
平成5年3月	解体工事, 整地完了	4月1日 広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成14年 広島県教育委員会規則第10号) 開館時間の変更
4月	新館建築工事安全祈願祭が挙行され, 工事に着手	平成16年7月1日 関靖直館長(兼務) 就任
12月	久保信保館長(兼務) 任命	平成17年12月20日 広島県立美術館条例一部改正(平成17年 広島県条例第57号) 展示施設等の利用許可の条件, 取消し等及び制限
	寺脇研館長(兼務) 任命	広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成17年 広島県教育委員会規則第16号) 開館時間表記の改正及び条例改正に伴う改正
	広島県立美術館美術品等取得基金, 10億円を増額(基金額30億円)	平成19年4月1日 榎田好一館長(兼務) 就任
平成6年5月	事務所を西区観音新町から広島市中区八丁堀3-2 幟会館(2階)に移転	6月18日 広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成19年 広島県教育委員会規則第9号) 休館日の変更及び条例改正に伴う改正
	広島県立美術館美術品等取得基金, 10億円を増額(基金額40億円)	12月25日 広島県立美術館条例一部改正(平成19年 広島県条例第56号) 学校教育法等の一部改正に伴う改正
平成7年4月	常廣泰登館長(専任) 任命	平成20年4月1日 指定管理者制度導入
	広島県立美術館美術品等取得基金, 5億円を増額(基金額45億円)	平成21年4月1日 所管先が広島県教育委員会生涯学習部文化課から広島県環境県民局総務管理部文化芸術課へ移行
12月	新館竣工	広島県立美術館の入館料に関する規則施行(平成21年 広島県規則第33号)
平成8年1月	新館鍵引渡し式を挙行	広島県美術館展開催運営規則(平成21年 広島県規則第34号)
4月1日	事務所を新館に移転	藤田雄山館長(兼務) 就任
4月1日	木曾功館長(兼務) 就任	12月1日 平田光章館長(兼務) 就任
7月1日	平山郁夫名誉館長就任	平成22年4月1日 抹香尊文館長(兼務) 就任
5日	広島県立美術館条例施行(平成8年 広島県条例第16号) 入館料・施設使用料	6月1日 広島県美術品等取得基金条例を廃止する条例の施行(平成22年 広島県条例第22号)
22日	広島県立美術館管理運営規則一部改定(平成8年 広島県教育委員会規則第9号) 施設使用料	6月28日 広島県立美術館条例一部改正(平成22年 広島県条例第31号) 施設使用料額の下限撤廃に伴う改正
10月5日	新館開館記念式挙行	平成23年4月1日 越智裕二郎館長(非常勤) 就任
6日	新館開館	6月29日 広島県立美術館評価委員会設置
	広島県立美術館美術品等取得基金, 5億円を増額(基金額50億円)	7月11日 広島県立美術館条例一部改正(平成23年 広島県条例第31号) 指定管理者による管理, 入館料の納付等および減免, 利用料金の納付等・減免及び収入
平成9年3月26日	広島県立美術館条例施行(平成9年 広島県条例第3号) 入館料・施設使用料	
4月1日	広島県立美術館管理運営規則(平成9年 広島県教育委員会規則第6号) 全面改定	
平成10年3月24日	広島県立美術館条例施行(平成10年 広島県条例第5号) 入館料等の納付	
	広島県立美術館管理運営規則一部改正(平	

Ⅱ 展覧会

展覧会一覧

特別展

No.	展 覧 会 名	会 期
1	復興への願いを込めて ーコレクションで辿る広島県立美術館の歩みー	平成23年 4 月21日(木)～ 6 月12日(日)
2	ワクワク！ ドキドキ！ 夏休み子ども美術館	平成23年 8 月11日(木)～ 8 月28日(日)
3	ウクライナの至宝 ースキタイ黄金美術の煌きー	平成23年 9 月13日(火)～11月13日(日)
4	抱きしめたい！ 近代日本の木彫展	平成23年11月29日(火)～平成24年 1 月15日(日)
5	第58回日本伝統工芸展広島展	平成24年 1 月25日(水)～ 2 月12日(日)
6	ーユーモアのすすめー 福田繁雄大回顧展	平成24年 2 月21日(火)～ 3 月31日(土)

所蔵作品展

	展 覧 会 名	会 期
彫刻 展示 スペース	芥川永の彫刻	平成23年 4 月19日(火)～ 7 月10日(日)
	空から海まで紺碧宇宙∞ ～加藤卓男・宮永理吉・木村芳郎	平成23年 7 月12日(火)～10月 2 日(日)
	彫刻家 圓鋳勝三の世界 Part 1	平成23年10月 4 日(火)～12月25日(日)
	彫刻家 圓鋳勝三の世界 Part 2	平成24年 1 月 2 日(月)～ 4 月15日(日)
第1室	アリスティード・マイヨール 《ウェルギリウスの農耕歌》～のどかなる情景～	平成23年 4 月19日(火)～ 7 月10日(日)
	哲学するアート～アタマで楽しむ西洋美術～	平成23年 7 月12日(火)～10月 2 日(日)
	ナチスに「退廃」の烙印をおされた美術家たち	平成23年10月 4 日(火)～12月25日(日)
	寓意としての機械～エルンスト 《流行に栄あれ、芸術よ墜ちろ》	平成24年 1 月 2 日(月)～ 4 月15日(日)
第2室	表現と技法 ツルツルからデコボコまで	平成23年 4 月19日(火)～ 7 月10日(日)
	画家の自画像と創作の現場	平成23年 7 月12日(火)～10月 2 日(日)
	没後100年 広島洋画界の先達・小林千古	平成23年10月 4 日(火)～12月25日(日)
	旅	平成24年 1 月 2 日(月)～ 4 月15日(日)
第3室	児玉希望 Part 1	平成23年 4 月12日(火)～ 5 月22日(日)
	児玉希望 Part 2	平成23年 5 月24日(火)～ 7 月3日(日)
	鳥を描く	平成23年 7 月 5 日(火)～ 8 月14日(日)
	花を愛でる	平成23年 8 月16日(火)～ 9 月25日(日)
	孤高の日本画家 船田玉樹	平成23年 9 月27日(火)～11月 6 日(日)
	深まりゆく秋	平成23年11月 8 日(火)～12月25日(日)
	歴史を彩る人々	平成24年 1 月 2 日(月)～ 2 月12日(日)
	春を待つ	平成24年 2 月14日(火)～ 4 月15日(日)
第4室	焼き物の諸相～館蔵品でつづる日本陶磁紀行～	平成23年 4 月12日(火)～ 7 月 3 日(日)
	広島にまつわる工芸作家	平成23年 7 月 5 日(火)～ 9 月25日(日)
	騎馬の民・トルクメン人の世界 ー装身具と民族衣装	平成23年 9 月27日(火)～12月25日(日)
	岩崎博染織コレクション受贈記念 シルクロードをめぐる布の旅	平成24年 1 月 2 日(月)～ 4 月15日(日)

会 期／平成23(2011)年4月21日(木)～平成23年6月12日(日)
主 催／広島県立美術館、
指定管理者イズミテクノ、中国新聞社
後 援／NHK広島放送局、中国放送、広島ホームテレビ、
テレビ新広島、広島エフエム放送、
FMちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、
尾道エフエム放送、FMはつかいち76.1MHz
協 賛／広島県信用組合
協 力／オリエンタルホテル広島、八丁座、サロンシネマ、
シネツイン本通り、シネツイン新天地
入 館 料／一 般 500(400)円
大学生 300(240)円
高校生以下は無料
※()内は前売・20人以上の団体料金
入館者数／31,322人(47日間)



3月11日に発生した大震災は、東日本を中心に未曾有の被害をもたらした。当館では、地震の影響により中止となった特別展「印象派の誕生」に代わり、震災復興を支援するための特別展を開催した。

現在、広島県立美術館が建つ場所には、戦前、日本で最も古い私立美術館といわれる「観古館」があった。「観古館」は、大正2年に旧広島藩主浅野家が伝来の家宝、古美術品を中心に展示する施設として設置。一般に公開され、人々に広く親しまれていたが、原爆によって消失した。

しかし、多くの県民の美術館再建を望む熱い願いに応え、その跡地に昭和43年広島県立美術館が開館。人々の温かい支援に支えられながら成長を続け、平成8年のリニューアルを経て現在に至っている。このような広島県立美術館の歴史を踏まえ、被災地復興への願いを込めて、戦後広島の文化復興の歴史を、広島県立美術館の代表的な所蔵品や写真資料などを通して多角的に紹介した。

(本展担当者：角田 新)

関連事業

(1) 講演会

①日 時：5月8日(日) 13:30～

講 師：越智裕二郎(広島県立美術館館長、前兵庫県立美術館参与)

演 題：「震災から立ち上がった美術館～兵庫県立美術館の場合～」

会 場：地階講堂

聴講者：60人

②日 時：5月21日(土) 14:00～

講 師：倉橋清方(元広島県立美術館学芸課長、元呉市立美術館館長)

演 題：「広島県立美術館の歴史～その創設と発展の奮闘秘話～」

会 場：地階講堂

聴講者：55人

(2) ギャラリートーク

日 時：毎週金曜日 11:00～/18:00～

講 師：当館学芸員



会 場：3 階企画展示室

聴講者：213人

(3) ミニ・ギャラリートーク

日 時：6 月 4 日(土)～6 月12日(日) 計 8 回(6 月 6 日は休館) いずれも15：00～

講 師：当館学芸員

会 場：3 階企画展示室内

聴講者：147人

【開催日・担当学芸員・テーマ】

6 月 4 日(土) 角田 新 つながってるね。作家と作家の意外な関係。

6 月 5 日(日) 石橋健太郎 漆の美・japan

6 月 7 日(火) 松田 弘 ピカソの版画作品《フランコの夢と嘘》に隠されたエピソードとは？

6 月 8 日(水) 藤崎 綾 鬚光の《窓辺の花》とその時代

6 月 9 日(木) 宮本真希子 作品と語り合うひとときを一緒に。

6 月10日(金) 永井 明生 児玉希望の魅力あれこれ

6 月11日(土) 福田 浩子 中央アジアのテキスタイルーシルクロードの刺繍と緋(かすり)

6 月12日(日) 山下 寿水 ダリのシュールな世界

(4) ワークショップ「被災地へ気持ちを届けよう」

1000名以上の参加者から、当館所蔵品をモチーフにした塗り絵カードに被災地への応援メッセージを描いてもらった。メッセージは当館3 階ロビーに展示し、その一部はホームページに掲載することで被災地へ思いを届けようと試みた。

日 時：4 月21日(木)～7 月10日(日)

(5) 原田真二ロビーコンサート ～県立美術館で復興ソングを披露～

日 時：5 月27日(金) 18：30～19：30

出 演：原田真二

会 場：1 階ロビー

聴講者：250人



主要関連番組

○ラジオ番組

4 / 26 尾道エフエム放送

5 / 18 エフエムふくやま「びんごピカイチ情報」

6 / 1 広島エフエム放送「オーバー・ザ・レインボー」

○テレビ番組

4 / 21 NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、ホームテレビ、テレビ新広島
(テープカット、開幕を取材・放送)

主要関連記事

○新聞

4 / 16 中国新聞：開催告知

4 / 18 読売新聞：文化面

4 / 21 中国新聞(夕刊)：開幕

4 / 21 産経新聞：開幕

4 / 22 中国新聞：開幕

4 / 22 神戸新聞(共同通信配信、東北でも数誌で掲載)

5 / 20 中国新聞：イベントナビ

5 / 24 中国新聞 文化面「新たな一歩へ 作家の思い」：記事 角田 新

5 / 27 朝日新聞：文化面

○雑誌等

『T J Hiroshima』2011年5月号

「復興を遂げた街・広島から発信する学芸員たちのメッセージとは」

印象派の誕生 ～ミレー、クールベ、モネ、ルノワール、ゴッホ～（開催中止）

当初会期／平成23(2011)年4月5日(火)～平成23年5月29日(日)

主 催／広島県立美術館、

指定管理者イズミテクノ、テレビ新広島、中国新聞社

後 援／フランス大使館、中国放送、広島テレビ、

広島ホームテレビ、広島エフエム放送、

F Mちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、

尾道エフエム放送、F Mはつかいち76.1MHz

協 賛／広島県信用組合

協 力／エールフランス航空、KLMオランダ航空、

石田あさきトータルファッション専門学校、

オリエンタルホテル広島

企画協力／ホワイトインターナショナル

入 館 料／一 般：1,200円 5人割 1,000円 前売・団体 900円

ペア前売 1,700円

高・大学生：800円 5人割 650円 前売・団体 600円

小・中学生：600円 5人割 450円 前売・団体 400円



1874年に開催された第1回印象派展を契機として、揺れ動く光をキャンバスに描写する「印象派」という新しい芸術様式が多くの人に知られるようになっていった。本展では、そうした印象派の画家たちに焦点を当てつつ、19世紀フランス絵画の流れを広くたどることにより、印象派が誕生した時代状況を分かりやすく紹介する予定であった。

ただし、東日本大震災直後はフランス国内の美術品を日本へ輸送することが一時的に停止されたため、84点の出品予定作品のうち52点が借用できなくなり、3月18日、本展の開催中止を決定した。なお、その後の輸送停止の解除に伴って、他の巡回先では展覧会が実施されている。

(本展担当者：周々木 朝香)

展覧会巡回先

愛媛県美術館 平成23年6月5日(日)～7月18日(月・祝)

沖縄県立博物館・美術館 平成23年7月28日(木)～9月11日(日)

熊本県立美術館 平成23年9月23日(金・祝)～11月6日(日)

2 ワクワク！ドキドキ！夏休み子ども美術館

会 期／平成23(2011)年8月11日(木)～平成23年8月28日(日)
 主 催／広島県立美術館、指定管理者イズミテクノ
 後 援／広島市、広島市教育委員会、広島県教育委員会、
 中国新聞社、NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、
 広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、
 FMちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、
 尾道エフエム放送、FMはつかいち76.1MHz
 協 力／岩国短期大学、鈴峯女子短期大学、
 比治山大学・同短期大学部、広島女学院大学、
 広島文化学園短期大学、広島文教女子大学、
 安田女子大学、広島芸術専門学校、
 石田あさきトータルファッション専門学校、
 FREE HEARTS、学び合う教師の会「創」、
 (社)広島県専修学校各種学校連盟、広島県立美術館友の会

入 館 料／無料

入館者数／8,870人(16日間)



夏休み期間中に幼児から高校生までの児童・生徒を対象に美術館及び美術作品に親しみ、また美術に興味を持てるよう、作品鑑賞や創作活動などの機会を提供した。3階企画展示室3室(延べ約1,300m²)をそれぞれお絵かきコーナー、積み木コーナー、作品展示コーナーとして、随時ワークショップ・コーナーを設営し、創造的な遊具の使用による遊びや、当館及び協力団体が行うワークショップ、作品鑑賞教材の作成、作品鑑賞会などを実施した。(本展担当者：石橋 健太郎)

実施ワークショップ一覧

日時	内容	講師	参加人数(対象)
8月11日(木)	紙コップでランドヨットを作る	藤原 逸樹 (安田女子大学)	72人(幼児・小学生)
8月12日(金)	画用紙で等身大の分身を作る	久保田 貴美子 (比治山大学短期大学部)	61人(幼児・小学生)
8月11～12日(木～金)	ファッションデザインコンテスト	石田 あさき (トータルファッション専門学校)	15人(中学・高校生)
8月13日(土)	割り箸と毛糸でドリームキャッチャーを作る	久保田 貴美子 (比治山大学短期大学部)	21人(幼児・小学生)
8月13日(土)	画用紙で等身大の分身を作る	久保田 貴美子 (比治山大学短期大学部)	40人(幼児・小学生)
8月14日(日)	作品鑑賞会(対話式鑑賞法)	三桝 正典 (広島女学院大学)	35人(小・中学生)
8月16日(火)	粘土で作るお菓子の家	沼本 秀昭 (鈴峯女子短期大学)	20人(幼児・小学生)
8月17日(水)	臨床美術カリキュラム(オイルパステルで作る色面とマチエール)	清水 久幸 (広島芸術専門学校)	4人(中学・高校生)

8月18日(木)	臨床美術カリキュラム (夏野菜を描く)	清水 久幸 (広島芸術専門学校)	47人(幼児・小学生)
8月19日(金)	牛乳パックで飛び出すおもちゃ 作り	半 直哉 (岩国短期大学)	10人(幼児・小学生)
8月19日(金)	ペットボトルで空気砲を作る	半 直哉 (岩国短期大学)	10人(幼児・小学生)
8月19日(金)	作品鑑賞会(対話式鑑賞法)	奥原 球喜 (広島文化学園短期大学)	8人(幼児・小学生)
8月20日(土)	絵本の読み聞かせ	三咲 順子 (女優)	76人(幼児・小学生)
8月20日(土)	仕舞ワークショップ	山下 寿水 (当館学芸員)	5人(中学・高校生)
8月21日(日)	ダンス・ワークショップ	中村 志津絵・島村 陽子 (FREE HEARTS)	29人(幼児・小学生)
8月23日(火)	作品鑑賞会(対話式鑑賞法)	石橋 健太郎 (当館学芸員)	30人(幼児・小学生)
8月23日(火)	画用紙で等身大の分身を作る	久保田 貴美子 (比治山大学短期大学部)	21人(幼児・小学生)
8月24日(水)	画用紙で等身大の分身を作る	久保田 貴美子 (比治山大学短期大学部)	40人(幼児・小学生)
8月24日(水)	作品鑑賞会(対話式鑑賞法)	石橋 健太郎 (当館学芸員)	10人(幼児・小学生)
8月25日(木)	作品鑑賞会(対話式鑑賞法)	石橋 健太郎 (当館学芸員)	21人(幼児・小学生)
8月26日(金)	風車を作る(ペットボトル)	若元 澄男 (比治山大学)	16人(幼児・小学生)
8月26日(金)	コマを作る(DM・絵葉書)	若元 澄男 (比治山大学)	20人(幼児・小学生)
8月26日(金)	飛行機を作る	若元 澄男 (比治山大学)	16人(幼児・小学生)
8月27日(土)	人や物を額で囲って絵画を作る	河林 奈央子・松崎 裕美・ 濱田 るみ子 (学びあう教師の会「創」)	36人(幼児・小学生)
8月28日(日)	ペットボトルで車を作る	佐伯 育郎 (広島文教女子大学)	20人(幼児・小学生)
8月28日(日)	ファッションデザインコンテス ト審査発表・表彰式	石田 あさき (トータルファッション専門学校)	35人(中学・高校生)
8月11日(木)～28日(日)	万国旗で作る巨大モナリザ (福田繁雄《世界からの微笑》制作)	—	—

主要関連番組・記事

リビングひろしま(8/6)、RCC「イブニングフォー」(8/7)、エフエムふくやま(8/9)

3 ウクライナの至宝 ―スキタイ黄金美術の煌き―

会 期／平成23(2011)年9月13日(火)～平成23年11月13日(日)

主 催／広島県立美術館、指定管理者イズミテクノ、
中国新聞社、中国放送

後 援／外務省、ウクライナ大使館、NHK広島放送局、
広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、
広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、
エフエムふくやま、尾道エフエム放送、
FMはつかいち76.1MHz、FMハムスター

特別協賛／メンテックワールド

協 賛／広島県信用組合

協 力／オリエンタルホテル広島、八丁座、サロンシネマ、
シネツイン本通り、シネツイン新天地、
Alambic(アランビック)、ラ・シガール、
比治山大学美術科・美術専攻、広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科

企画協力／株式会社ブレイントラスト

入 館 料／一 般 1,200円(900円)

高・大学生 800円(600円)

小・中学生 600円(400円)

入館者数／34,731人(62日間)



ロシア皇帝を魅了したスキタイならではの黄金製品。貴重な発掘資料を中心に、そこに表された様々な意匠を通して、スキタイの社会や宗教、死生観などを解き明かした。またウクライナを中心とした近年の発掘成果なども含め、ユーラシア大陸を舞台に東西を結んだ壮大な文化交流の姿を、約260点の展示資料によって紹介した。
(本展担当者：角田 新)

関連事業

(1) 講演会 1

①日 時：9月18日(金) 13:30～

講 師：林 俊雄(創価大学文学部教授)

演 題：「スキタイ黄金美術と動物文様」

会 場：地階講堂

聴講者：70人

(2) 講演会 2

②日 時：9月25日(日) 13:30～

講 師：道面 雅量(中国新聞社文化部記者)

演 題：「ウクライナってどんな国? その1 記者の見て歩き紀行」

会 場：地階講堂

聴講者：79人

(3) 記念講演会 3(美術館友の会共催)

日 時：10月8日(土) 14:00～

会 場：広島県立美術館 地階講堂

講 師：マリア・ペヴナ(在日ウクライナ大使館文化担当)

演 題：「ウクライナってどんな国？ その2 ようこそウクライナへ」

聴講者：80人

(4) ワークショップ 1

「スキタイ黄金美術にせまる～金属レリーフにチャレンジ」

日 時：10月9日(日) 10:00～、13:30～

講 師：広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科（金属造形）で学ぶ学生

会 場：3階ロビー

参加者：42人

(5) ワークショップ 2

「七宝でウクライナをイメージする ～アクセサリ作り」

日 時：10月23日(日) 10:00～、13:30～

講 師：粟根 仁志（七宝作家、日本工芸会正会員）

会 場：3階ロビー

参加者：32人

(6) ギャラリートーク

日 時：金曜日(11:00～、18:00～)、土曜日(15:00～)

平成23年9月16日、17日、23日、24日、30日、10月7日、14日、15日、21日、22日、28日、29日、
11月4日、5日、11日、12日

講 師：角田 新（当館主任学芸員）、宮本真希子（当館主任学芸員）

会 場：3階企画展示室

参加者：15～50人／回、計822人

(7) ちゅーピー美術サロン（中国新聞社主催）

日 時：9月30日(金) 14:00～

講 師：角田 新（当館主任学芸員）

会 場：3階ティールーム

参加者：17人

(8) よくわかる解説付き鑑賞会

日 時：10月1日(土) 14:30～

講 師：角田 新（当館主任学芸員）

会 場：地階講堂

参加者：50人

(9) 手話通訳解説付き鑑賞会

日 時：10月29日(土) 10:30～

講 師：角田 新（当館主任学芸員）

会 場：地階講堂

参加者：32人

(10) 食とアートと音楽と（ギャラリートーク）

日 時：10月31日(月)、11月7日(月) いずれも17:30～

講 師：角田 新（当館主任学芸員）

会 場：3階企画展示室

参加者：16～19人／回

(11) 広島交響楽団ギャラリーコンサート&解説付き鑑賞会（ギャラリートーク）

日 時：10月22日(土)、11月5日(土) いずれも17:30～

講 師：角田 新（当館主任学芸員）、宮本真希子（当館主任学芸員）

会 場：2階所蔵作品展示室・3階企画展示室

参加者：45～55人／回

(12) ウィークリーロビーコンサート

日 時：土曜日13:00～、10月21日(金) 18:00～

講 師：当館1階ロビー

会 場：県内音楽家による本展覧会にちなんだ演奏

参加者：23～140人／回、計773人

主要関連記事

中国新聞

- 8/8 社告、9/2 事業ガイド①、9/9 特設面、9/10 展示風景、9/13 開幕（夕刊）、
9/14 開幕／チューピーサロン募集、9/15～16「スキタイ輝きを追って」上・中・下、
9/19 天風録、9/20～24 作品連載「煌き黄金の風」①～⑤、9/28 一万人セレモニー、
10/1 林教授講演会、10/7 ニュースの窓、10/8 チェルノブイリ被災者のクラシツカヤさん、
10/14 会期折り返し地点／事業ガイド②、10/15 ウクライナ紹介、
10/16 ミュージアム企画（こども新聞）、10/19 ベヴナさん講演会、10/21 事業ガイド③、
10/22 寄稿（角田新、文化面）、10/25～29 留学生と巡る「ウクライナの至宝」展①～⑤、
10/28 事業ガイド④、10/30 ミュージアムで会いましょう、
11/4 ふみばこ「広響ギャラリーコンサート」、11/4 事業ガイド⑤

主要関連番組

中国新聞

- ラジオ 8/21 おいくら萬円(展覧会紹介)、9/11 おいくら萬円(展覧会紹介)、
9/16 ラジオカー・レポート(出演：宮本真希子)、9/18 おいくら萬円(出演：道面記者)、
9/19 午前様通信(出演：角田新)、9/22 バリシャキ(出演：角田 新)、
9/24 思いっきり土曜日(ラジオカー中継)、9/25 おいくら萬円(展覧会紹介)
10/8 思いっきり土曜日(出演：宮本真希子)、10/9 おいくら萬円(出演：道面記者)
○テレビ 8/28 エンタがR(みどころ案内、出演：角田新)、9/8 きら人(越智当館館長インタビュー)、
9/13 ニュース昼・夜(開会式)、9/27 ニュース昼・夜(1万人セレモニー)、
10/7 ニュース昼・夜(スキタイだいすきキャンペーン、チラシ配布)、
10/12 エンタがR(スキタイ・だいすきキャンペーン)、
10/12 イブニングふぉー(チケットプレゼント)
○その他 ふれあいチャンネル(CATV)：9/13「ア・ミュージアム・レター」
FM尾道：9/15 電話インタビュー(出演：角田 新)
ひろしまFM：9/16「アヤノスタイル」(出演：角田 新)、
10/1「オーバー・ザ・レインボー」(出演：角田 新)
FMはつかいち：9/21「よくばりファクトリー」(出演：角田 新)
FMふくやま：9/27 電話インタビュー(出演：角田 新)

カタログ内容

主催者あいさつ

親愛なる日本の皆様へ 駐日ウクライナ大使 ミコラ・クリニチ

「ウクライナの至宝」展 独立したウクライナ セルギイ・チャイコフスキー（ウクライナ国立歴史博物館総館長）

「スキタイ王侯の葬儀—トウスタ＝モヒーラ古墳を例にして—」 林 俊雄（創価大学文学部教授）

- 1 キンメリオイ時代（前9～前7世紀初）
- 2 スキタイ時代（前7～前3世紀）
- 3 サルマタイ時代（前2～後4世紀）
- 4 黒海北岸のギリシア系古代国家
- 5 中世の遊牧民（4～14世紀）
- 6 スラヴとキエフ＝ルーシ（4～14世紀）
- 7 ウクライナの装飾美術（16～19世紀）

年表

参考文献

作品リスト

巡回先

山梨県立博物館 平成24(2012)年3月17日～5月7日

大阪歴史博物館 平成24(2012)年9月29日～11月25日

4 抱きしめたい！ 近代日本の木彫展

- 会 期／平成23(2011)年11月29日(火)～
平成24(2012)年1月15日(日)
- 主 催／広島県立美術館、「近代日本の木彫展」実行委員会、
中国新聞社、日本経済新聞社
- 共 催／NHKプラネット中国
- 後 援／林野庁、NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、
広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、
FMちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、
尾道エフエム放送
- 協 賛／広島県信用組合
- 助 成／財団法人 地域創造
- 入 館 料／一 般：1,000円(800円)
高・大学生： 600円(400円)
小・中学生： 400円(300円)
※()内は前売・20人以上の団体料金
- 入館者数／10,400人(41日間)



経費や集客の面で、敬遠されがちな彫刻の展覧会にあって、今回、近代木彫というテーマで、木彫作家の顕彰、彫刻や木を活用した街づくりなど、共通の課題を抱える富山県高岡市、愛知県碧南市、および広島県という3つの県市が、当館を幹事館とする一つの実行委員会を組織し、共同企画展として実現できたことは、(財)地域創造の助成によるところが大きく、貴重な機会であった。また、展覧会についても、各館の来館者アンケートに好意的な感想が多く寄せられるなど、概ね好評で、当館では1万人を超える入場者を迎えることができた。当館では、平櫛田中、^{えんつばかつぞう}圓鐔勝三、水船六洲をはじめとするコレクションとあわせて、^{なかたにがんこ}中谷翫古など広島出身の作家を新たな切り口で、全国的に紹介することが可能となったが、中央で活躍した作家だけではなく、地域の作家を取り入れるという当初からの課題については、展示スペースや輸送経費等の問題で、多くを取り上げることができなかったことが惜しまれる。

(本展担当者：石川 哲子)

関連事業

(1) 木の体験コーナーの設置

概要：木工作家に依頼して六種の木(朴、楠、樺、桐、檜、櫟)を各辺5センチのサイコロ状に切ってもらい、それらを手にとって触れるコーナーの設置。

(2) ツアー

①「抱きしめよう！ 縮景園の緑たち」(広島県立美術館友の会共催)

日 時：11月5日(土) 13:30～

講 師：関 太郎(広島大学名誉教授、植物学)

会 場：講堂(聴講無料)

参加者：70人

※講演後に予定していた縮景園の散策は雨天により中止となり、縮景園の木々については講演の中で触れるにとどまった。

②「圓鋸作品探検ツアー in 平和公園」

日 時：12月3日(土) 13:30～

講 師：宮迫 卓督（圓鋸勝三彫刻美術館 前館長）

コース：中国新聞本社1階ロビー～広島平和記念公園～広島市児童公園

参加者：15人



(3) 講演会

日 時：12月4日(日) 13:30～

講 師：毛利 伊知郎（三重県立美術館副館長、本展企画アドバイザー）

演 題：「木の造形－日本近代を中心に」

会 場：講堂（聴講無料）

参加者：45人



(4) アーティスト・トーク（広島県立美術館友の会共催）

講 師：三沢 厚彦（彫刻家、本展出品作家）

日 時：12月17日(土) 13:00～

会 場：3階企画展示室ほか（要入館券）

参加者：120人

(5) ワークショップ

①「広島の木でオリジナル・マイ・箸を作ってみよう」（協力 広島県木材青年経営者協議会）

日 時：12月11日(日) 9:30～、11:00～、13:00～、14:30～（無料）

対 象：小学生以上

会 場：講堂

参加者：計45人

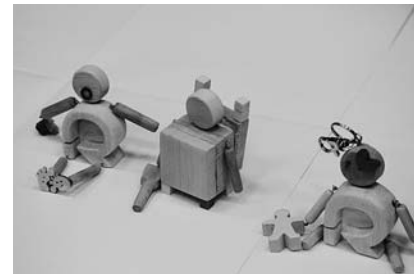
②「木が鳴る木!？」キーホルダーの笛づくり

日 時：12月23日(祝・金) 14:00～

講 師：三桝 明子（彫刻家）

会 場：講堂（参加料100円と特別展入館券の半券を提示）

参加者：22人



(6) 美術講座

①「圓鋸作品いろいろ」

講 師：石川 哲子(担当学芸員)

日 時：12月24日(土) 14:30～

会 場：講堂（聴講無料）

参加者：15人

②「木彫なう。－同時代木彫の動向」

講 師：石川 哲子(担当学芸員)

日 時：1月7日(土) 14:30～

会 場：講堂（聴講無料）

参加者：45人

(7) ギャラリートーク

講 師：石川 哲子(担当学芸員)

日 時：毎週金曜日（12月2日・9日・16日・23日、1月6日・13日）11:00～、
12月10日・1月14日 15:00～

会 場：企画展示室

参加者：5人(12/2)、12人(12/9)、35人(12/10)、16人(12/16)、17人(12/23)、
15人(1/6)、27人(1/13)、45人(1/14) 計172人

(8) ミニ・ギャラリートーク

講 師：石川 哲子(担当学芸員)

日 時：毎週金曜日（12月2日・9日・16日・23日、1月6日・13日）18時～

参加者：4人（12/2）、3人（12/9）、4人（12/16）、4人（12/23）、4人（1/6）、
60人（1/13）計79人

主要関連番組

(1) テレビ

NHK「日曜美術館」（アートシーン）8月28日

NHK広島「ひろもり」12月2日

広島ホームテレビ「Jステーション」12月9日

広島ケーブルテレビ ニュース 12月12日～16日

NHK広島「お好みワイドひろしま」12月25日

ふれあいチャンネル（ケーブルテレビ）「A Museum Letter」12月26日～30日

(2) ラジオ

FMふくやま「GO!GO!びんご」11月24日

FMちゅーピー「広島すまいるパフェ」12月1日

ひろしまFM「Over The Rainbow」12月14日

FMはつかいち「よくばりファクトリー」12月21日



主要関連記事

(1) 新聞

中国新聞 社告 10月28日

日経新聞全国版（アートライフ）11月20日

日経新聞全国版（社告）11月21日

中国新聞 特集(10段) 11月23日

読売新聞広島版・別刷り 県民情報（ワークショップ告知）11月23日

朝日新聞広島版（開催告知）11月25日

中国新聞（開会式）11月29日（夕刊）

中国新聞（開会式）11月30日

中国新聞 ふれあい面（ちゅーピーくらぶ美術サロン募集）11月30日

日経新聞広島版（開幕）11月30日

中国新聞（圓鋸作品探検ツアー）12月4日

読売新聞広島版・別刷り 県民情報（インフォメーション）12月7日

中国新聞 事業ガイド（事業PR面）12月9日 ふれあい面（ちゅーピーくらぶ招待券プレゼント）

中国新聞 文化面 ふみばこ（アーティスト・トーク告知）12月14日

日経新聞全国版（アートライフ）12月18日

中国新聞 文化面 寄稿「抱きしめたい！ 近代日本の木彫展」12月20日

中国新聞 文化面 ひととき（三沢厚彦アーティスト・トーク）12月23日

読売新聞 開催告知 12月23日

(2) 雑誌、フリー・ペーパー等

『リビングひろしま』1481号(11月26日号)

『いわみりびえ〜る』（フリー・ペーパー）VOL.112(11月27日号)

『Wink』（情報誌）12月号

『KURE：BAN』（情報誌）12月号

『トライアングル』（情報誌）12月号

『to you』（情報紙）

『月刊 ウェンディ』（フリー・ペーパー）12月号

『バスポート』（高速バス車内誌）12月号 vol.39



『Cue』（フリー・ペーパー）12月9日
『いわみりびえ〜る』（フリー・ペーパー）VOL. 114(12月25日号)
『不動産ニュース&スマイミー』1月10日号
「NHKデータ放送」

広告

(1) 新聞広告

中国新聞（朝刊・半5段）11回
11月27～29日、12月13日・14日・19日・21日・24日、1月6日・7日・14日
中国新聞（朝刊・全3段）2回 11月21日、12月4日
中国新聞（朝刊・半3段）8回
11月18日・19日・22日・24日、12月2日・15日・19日、1月10日
中国新聞（夕刊・半5段）3回 12月23日、1月10日・14日
中国新聞（夕刊・全3段）3回 12月15日・20日、1月4日
中国新聞別刷り（半5段）1回 11月
金座街商店街
懸垂幕 11月21日～1月15日
デジタルサイネージ（ビジョン広告）
JR広島駅改札口前 11月16日～1月15日
生協 前売り券販売広告 11月2回～12月4回 計6回

図録内容

ごあいさつ

Foreword

木の造形－日本近代を中心に 毛利 伊知郎

〔図版〕

プロローグ

1章 近代木彫の先覚者たち

Column 1 近代日本木彫史の隘路－木彫と「星取り方」について 藤井 明

2章 木彫作家の挑戦

Column 2 色めく色彩－彫刻と彩色 田中 修二

Column 3 彫刻を愛した耕三寺耕三 耕三寺 孝三

3章 逸脱する「木彫」

Column 4 「木」から考える、モノとコト 知念 理

広島近代木彫を見る 石川 哲子

模造制作からシカゴ万博へ 土生 和彦

近年開催された木彫展 山本 成子

富山県の木彫 山本 成子

作家・作品解説

関連年表

主要参考文献

作品リスト

展覧会巡回先

高岡市美術館 平成23年8月10日～9月19日

碧南市藤井達吉現代美術館 平成23年10月4日～11月13日

5 第58回日本伝統工芸展広島展

会 期／平成24(2012)年1月25日(水)～2月12日(日)
 主 催／広島県、広島県教育委員会、広島県立美術館、
 N H K 広島放送局、朝日新聞社、(公社)日本工芸会
 後 援／文化庁
 入 館 料／一 般 700円(500円)
 高・大学生 400円(200円)
 小・中学生 300円(100円)
 ※ ()内は前売・20人以上の団体料金
 入館者数／9,946人(19日間)



日本伝統工芸展は、日本の風土から生まれた世界に誇る工芸技術を継承・発展し、新しい時代の生活に即した美を築くことを目的にしています。広島展では、全入選作品616点及び遺作2点の中から重要無形文化財(人間国宝)の作品や受賞作品、広島県や中国地方からの入選作品を中心に陶芸108点、染織42点、漆芸44点、金工33点、木竹工40点、人形21点、諸工芸29点、合計319点を厳選して一堂に展示しました。日本の伝統を引き継ぐ優れた工芸作品を展示し、広く県民に鑑賞の機会を提供することにより、伝統工芸に対する理解を深め、地域文化の向上に資することに努めました。

(本展担当者：宮本 真希子)

広島県在住入選者

陶 芸	木村 芳郎	「碧釉粒状斑盤」
漆 芸	金城一國斎	「切金高盛絵箱「颯爽」」
	田代 昭夫	「藍胎水指「泉のわくころ」」
	馬船 宏明	「乾漆蒔髹八角箱」
木竹工	門田 篁玉	「千鳥編花籃」
諸工芸	栗根 仁志	「七宝箱「静韻に舞う」」
	菅坂 安子	「有線七宝幾何文蓋物「光彩の響き」」

関連事業

(1) 講演会

日 時：平成24年1月29日(日) 13:30～15:00

講 師：佐々木苑子(重要無形文化財「紬織」保持者)

演 題：「紬織に魅せられて」

会 場：地階講堂

聴講者：126人

(2) ギャラリートーク

平成24年1月27日(金) 田代 昭夫 (漆芸)

1月28日(土) 馬船 宏明 (漆芸)

2月3日(金) 菅坂 安子 (七宝)

2月4日(土) 木村 芳郎 (陶芸)

2月10日(金) 栗根 仁志 (七宝)

2月11日(土) 金城一国斎(漆芸)

時 間:11:00~11:40

場 所:企画展示室

参加者:約40~130人/回、計425人

(3) ワークショップ

内 容:漆でマグネットを作る

講 師:竹岡 亜依、舩岡 真伊、都野 夏未(広島市立大学芸術学部卒業生)

日 時:平成24年2月5日(日) 10:00~12:00、13:30~15:30

場 所:広島県立美術館 3階ロビー

参加者:35人

(4) フライデー・イブニング・トーク

平成24年1月27日(金) 染色について

2月3日(金) 金工について

2月10日(金) 木竹工について

時 間:18:00~18:30

場 所:企画展示室

講 師:宮本 真希子(当館主任学芸員)

参加者:6~20人/回、計41人

(5) 食とアートと音楽と(ギャラリートーク)

平成24年1月30日(月) 講師:石橋 健太郎(当館主任学芸員) 参加者:23人

2月6日(月) 講師:宮本 真希子(当館主任学芸員) 参加者:19人

こども鑑賞コース

(1) 出張授業

平成23年10月31日(月)	菅坂 安子(七 宝)	呉市立昭和東小学校	4-5年生	24人
11月8日(火)	小原よう子(陶 芸)	海田町立海田西小学校	4年生	30人
11月22日(火)	馬船 宏明(漆 芸)	東広島市立河内西小学校	3-6年生	41人
11月24日(金)	はたおと会(備後緋)	三原市立和本小学校	1-6年生	41人
12月2日(金)	小林 利幸(木 工)	坂町立小屋浦小学校	5-6年生	28人
平成24年1月18日(水)	山根 宏造(陶 芸)	廿日市市立阿品台東小学校	5年生	44人

(2) 団体鑑賞

平成24年2月2日(木)	広島市立翠町小学校	5年生	76人
2月6日(月)	廿日市市立津田小学校	4年生	38人
2月7日(火)	広島市立矢賀小学校	4年生	84人
2月8日(水)	呉市立阿賀小学校	4年生	93人

(3) 親子ガイドブックの作成・配布(学校、会場内)

B6版16ページ、6,000部(うち事前配布:10小学校、1,047部/2中学校、90部)

主要関連記事

朝日新聞

平成23年8月24日	県内入選者発表「伝統工芸展県内7人が入選」
11月1日	出張授業(呉市立昭和東小学校)「伝統工芸展入選七宝作家が授業」
11月25日	出張授業(三原市和本小学校) 「『いつか浴衣を』三原・和本小で児童 糸作り・機織りまなぶ」《備後版》
平成24年1月15日	社告
1月18日	広島展開幕告知「美と技 飽くなき追及」
1月19日	県内入選者作品紹介① 馬船宏明「乾漆蒔醤八角箱」 出張授業(廿日市市立阿品台東小学校) 「宮島御砂焼づくり 児童が挑戦 廿日市で伝統工芸展『出張授業』」
1月20日	県内入選者作品紹介② 菅坂 安子「有線七宝幾何文蓋物 “光彩の響”」
1月21日	県内入選者作品紹介③ 金城一国斎「切金高盛絵箱 “颯爽”」

- 1月22日 県内入選者作品紹介④ 栗根 仁志「静韻に舞う」
 1月23日 県内入選者作品紹介⑤ 木村 芳郎「碧釉粒状斑盤」
 1月25日 県内入選者作品紹介⑥ 門田 篁玉「千鳥編花籃」
 1月26日 県内入選者作品紹介⑦ 田代 昭夫「籃胎水指“泉のわくころ”」
 広島展開幕「“文化の精髓”ずらりと 広島展始まる」

中国新聞

- 平成23年12月3日 広島都市圏「ろくろ使って宮島細工学ぶ 坂の小屋浦小児童」
 平成24年1月19日 広島都市圏「伝統のお砂焼 子どもが挑戦 廿日市市」
 2月7日 文化欄「技に光る現代的感性 広島で日本伝統工芸展」

主要関連番組

NH K

- 平成23年9月25日「日曜美術館」現在(いま)を生きる美～第58回日本伝統工芸展(全国)
 平成24年1月16日～2月2日「ひろもり」県内入選作品(7点)紹介
 1月18日「お好みワイド」出張授業(廿日市市立阿品台東小学校)
 1月19日「おはよう中国」出張授業(廿日市市立阿品台東小学校)
 1月25日「ローカルニュース(昼、夕)」展覧会開幕
 2月10日「おはよう中国」展覧会開催周知

広島ホームテレビ

- 平成23年1月18日「Jステーション」出張授業(廿日市市立阿品台東小学校)

RCC中国放送

- 平成24年1月25日「ローカルニュース(昼)」 「イブニングフォー」 「RCCニュース6」 展覧会開幕

広島ホームテレビ

- 平成24年2月11日「あっぱれ! 熟年ファイターズ」広島が誇る伝統文化と芸能(金城一国斎、展覧会紹介)

HICATひろしまCATV

- 平成24年1月27日～30日「HICATほっとニュース」(1日6回)展覧会紹介

カタログ内容

趣旨 出品目録 出品図版

特別展示「わざを伝える」文化財保存事業報告「鍛金」伝承者養成研修会
 第58回日本伝統工芸展入選作品及び受賞作品の決定について

展覧会巡回先

東京	平成23年9月21日(水)～10月3日(月)	三越本店
名古屋	10月5日(水)～10月10日(月・祝)	名古屋栄三越
京都	10月12日(水)～10月17日(月)	京都高島屋
大阪	10月19日(水)～10月24日(月)	JR大阪三越伊勢丹
金沢	10月28日(金)～11月6日(日)	石川県立美術館
仙台	11月9日(水)～11月14日(月)	仙台三越
岡山	11月17日(木)～12月4日(日)	岡山県立美術館
松江	12月7日(水)～12月25日(日)	島根県立美術館
高松	平成24年1月2日(月)～1月22日(日)	香川県立ミュージアム
福岡	2月15日(水)～2月20日(月)	岩田屋本店
松山	2月28日(火)～3月5日(月)	松山三越

6 ユーモアのすすめ 福田繁雄大回顧展

会 期／平成24(2012)年2月21日(火)～平成24年3月31日(土)

主 催／広島県立美術館、

指定管理者イズミテクノ、広島テレビ、読売新聞社、
美術館連絡協議会

後 援／中国放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島、

広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、

エフエムふくやま、尾道エフエム放送、

FMはつかいち76.1MHz

協 賛／ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン、

広島県信用組合、トマトコーポレーション

協 力／二戸市シビックセンター福田繁雄デザイン館、

DNP文化振興財団、日本グラフィックデザイナー協会、

石田あさきトータルファッション専門学校

企画協力／DNPアートコミュニケーションズ

入 館 料／一般 1,100(900)円 高・大学生 700(500)円

ペアチケット 1,500円(前売限定) 中学生以下無料

※()内は前売・20人以上の団体料金

入館者数／33,778人(40日間)



世界的グラフィックデザイナー、福田繁雄の一大回顧展。DNP文化振興財団所蔵のポスター210点と、二戸市シビックセンター福田繁雄デザイン館所蔵の立体作品110点に加え、アイデアスケッチや、広島会場独自の資料、作品などを一堂に展示。福田繁雄作品の再制作や、東北復興支援チャリティ「やさしいハンカチ展」(企画：日本グラフィックデザイナー協会)、トリック・ポスター・コンテストなどの企画も併せて実施しながら、子どもから大人まで楽しめる、前人未到の視覚トリックの世界を紹介した。

(本展担当者：山下 寿水)

関連事業

(1) 講演会

①日 時：3月4日(日) 13:30～

講 師：タナカノリュキ(クリエイティブディレクター、映像ディレクター、アーティスト)

演 題：「福田繁雄(敬称略)×タナカノリュキ～美術教育からクリエイティブの現在まで」

会 場：地階講堂

聴講者：60人

②日 時：3月10日(土) 14:00～(広島県立美術館友の会共催)

講 師：浅葉 克己(アートディレクター)

演 題：「デザインは生き続ける。」

会 場：地階講堂

聴講者：85人

③日 時：3月17日(土) 13:30～(追加開催)

講 師：宋樹峰(大連理工大学講師)

演 題：「福田繁雄のデザイン表現とユーモア」



会 場：地階講堂

聴講者：29人

(2) よくわかる解説付き鑑賞会

日 時：2月25日(土) 14:30～

講 師：山下 寿水(当館学芸員)

会 場：地階講堂

聴講者：41人

(3) 美術講座

日 時：3月24日(土) 14:30～

講 師：山下 寿水(当館学芸員)

演 題：「福田繁雄のユーモア+西洋美術=???'」

会 場：地階講堂

聴講者：25人

(4) トリック・ポスター・コンテスト

応募作品数：18点

審 査 日 時：3月11日(日) 13:30～

審査委員長：浅葉 克己(アートディレクター)

審 査 委 員：縄田 健次(広島アートディレクターズクラブ会長、日本グラフィックデザイナー協会会員)、
オリシゲシュウジ(広島アートディレクターズクラブ正会員、日本グラフィックデザイナー協会会員)、
越智裕二郎(広島県立美術館長)

会 場：地階講堂

聴 講 者：25人

(5) 絵本の読み語り

日 時：3月18日(日) 10:30～/15:00～

講 師：藤村 直己(広島テレビアナウンサー)

会 場：3階ロビー

聴講者：65人

(6) ギャラリートーク

日 時：平成24年2月24日(金)、3月2日(金)、3月9日(金)、3月16日(金)、
3月23日(金)、3月30日(金) 各回11:00～/18:00～

平成24年3月3日(土)、3月17日(土)、3月31日(土) 各回15:00～

講 師：山下 寿水(当館学芸員)、周々木 朝香(当館主任学芸員)

会 場：3階企画展示室

聴講者：175人

(7) ワークショップ

①「フクダシゲオのおもちゃづくり！」

日 時：2月26日(日) 10:30～/15:00～

講 師：山下 寿水(当館学芸員)

会 場：3階ロビー

参加者：60人

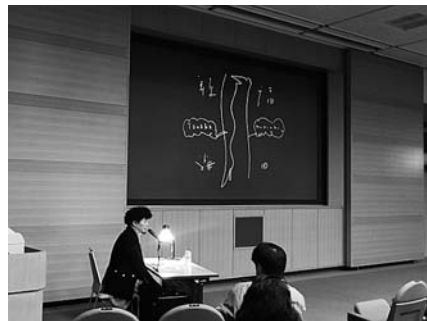
②「トリックアートを描いてみよう！」

日 時：3月25日(日) 10:30～/15:00～

講 師：山下 寿水(当館学芸員)

会 場：3階ロビー

参加者：48人



主要関連番組等

○ラジオ番組

2/16 FMちゅーピー「広島すまいるカフェ」(福田展紹介、出演：山下 寿水)

- 3／7 FMはつかいち「よくばりFactory」(福田展紹介、出演：山下 寿水)
 3／13 エフエムふくやま「おはようときめきタイム」(福田展紹介、出演：山下 寿水)
 3／20 広島エフエム放送「MORNING ALIVE」(福田展紹介、出演：山下 寿水)

○テレビ番組

広島テレビ

- 2／11 「エンタ広テレじゃん」(いよいよ開催) 11：40～
 2／15 「昼ニュース」(展示作業開始) 11：40～
 2／15 「テレビ派 夕方ニュース」(展示作業開始) 18：15～
 2／15 「ニュースゼロ 夜ニュース」(展示作業開始) 22：54～
 2／16 「テレビ派 知ったクコーナー」(福田展の魅力紹介) 16：50～
 2／17 「るるんカフェ」(福田展の魅力紹介) 10：00～
 2／20 「テレビ派 知ったクコーナー」(会場から生中継、出演：山下 寿水) 16：50～
 2／21 「昼ニュース」(本日開幕) 11：40～
 2／21 「テレビ派 夕方ニュース」(本日開幕) 18：15～
 2／21 「ニュースゼロ 夜ニュース」(展示作業開始) 22：54～
 2／28 「テレビ派 夕方ニュース」(関連イベント「食とアートと音楽と」紹介) 18：15～
 3／2 「昼ニュース」(1万人達成) 11：40～
 3／2 「テレビ派 夕方ニュース」(1万人達成) 11：40～
 3／2 「てっぺん」(ナイトミュージアム、出演：山下 寿水) 25：43～
 3／3 「エンタ広テレじゃん」(開催中) 11：40～
 3／9 「るるんカフェ」(福田展紹介、出演：山下 寿水) 10：00～
 3／10 「エンタ広テレじゃん」(開催中) 11：40～
 3／12 「テレビ派 街角クイズ」(作品クイズ) 16：50～
 3／13 「テレビ派 街角クイズ」(作品クイズ) 16：50～
 3／14 「テレビ派 街角クイズ」(作品クイズ) 16：50～
 3／15 「テレビ派 街角クイズ」(作品クイズ) 16：50～
 3／16 「テレビ派 街角クイズ」(作品クイズ) 16：50～
 3／16 「てっぺん」(福田展紹介、出演：山下 寿水) 25：43～
 3／19 「昼ニュース」(2万人達成) 11：40～
 3／19 「テレビ派 夕方ニュース」(2万人達成) 11：40～
 3／24 「エンタ広テレじゃん」(開催中) 11：40～
 3／29 「昼ニュース」(3万人達成) 11：40～
 3／29 「テレビ派 夕方ニュース」(3万人達成) 18：15～

NHK広島

- 2／22 「昼ニュース」(福田展開幕、出演：山下 寿水) 12：00～

ふれあいチャンネル

- 3／19-22、26-29「ア・ミュージアムレター」(福田展紹介、出演：山下 寿水)

主要関連記事

読売新聞

- 2／11 告知記事：朝刊
 2／15 国旗1104枚 モナリザ見える？：朝刊
 2／20 明日から開幕(半5段)：朝刊
 2／22 トリックアート満喫：朝刊
 2／27 子供アート 巨匠に挑む：朝刊
 3／3 ユーモア魅せられ一万人：朝刊
 3／3 作品連載①「影」へスポット 未知の世界：記事 山下 寿水：朝刊
 3／4 作品連載②細部こだわり リアリティ：記事 山下 寿水：朝刊

- 3／5 作品連載③あり得ない物まで創造：記事 山下 寿水：朝刊
- 3／6 作品連載④平和希求 どこかポジティブ：記事 山下 寿水：朝刊
- 3／7 作品連載⑤戦争への警告だけじゃない：記事 山下 寿水：朝刊
- 3／10 春休みは家族でトリックアート（半5段）：朝刊
- 3／14 福田繁雄展でトリックアート楽しむ：映像ニュース
- 3／17 春休みは家族でトリックアート（半5段）：朝刊
- 3／20 福田繁雄展 来館二万人：朝刊
- 3／26 視覚トリック親子で作る：朝刊
- 3／30 福田繁雄展 入場三万人：朝刊

産経新聞

- 2／23 立体作品に驚き：朝刊
- 3／21 やさしいハンカチで支援：朝刊

毎日新聞

- 3／15 毎日新聞 備後版 毎日美術館：記事 山下 寿水：朝刊

広島経済新聞

- 3／15 「広島でも復興チャリティー「やさしいハンカチ展」－購入したハンカチを被災地へ」

情報誌等

- 『色絵馬（広島県立美術館友の会会報）』2012年1月号
- 『美術の窓』2012年2月号
- 『to you』2012年2月号
- 『T J Hiroshima』2012年2月号
- 『T J Hiroshima』2012年3月号
- 『トライアングル』2012年3月
- 『Wink』2012年3月号
- 『Wink』2012年4月号「企画者のアートかく語りき。」：記事 山下寿水
- 『Wendy広島』2012年3月号
- 『くれえばん』2012年3月号
- 『ザ・マイカー』2012年3月号

カタログ内容

ごあいさつ

オゲシダクフのできるまで（盛本 直美）

図版

第1章 ポスター

もうひとつの「ユニバーサリティ」：福田繁雄のグラフィックデザインについて（平井 直子）

第2章 立体ほか

平面のような立体、立体のような平面（吉崎 元章）

作品リスト

福田繁雄年譜

主要文献目録

展覧会巡回先

三重県立美術館	平成23年7月9日（土）～9月4日（日）
川崎市市民ミュージアム	平成23年9月17日（土）～11月6日（日）
いわき市立美術館	平成23年11月12日（土）～12月18日（日）
高崎市美術館	平成24年4月14日（土）～6月24日（日）
札幌芸術の森美術館	平成24年7月14日（土）～9月2日（日）
岩手県立美術館	平成24年9月11日（火）～11月11日（日）

所蔵作品展

当館2階の常設展示スペース「所蔵作品展」では、展示室ごとに年4回（第3室は8回）の展示替えを行い、次のようにテーマを掲げて、当館所蔵作品を幅広く公開した。4期では、第4室で平成21年に寄贈を受けた岩崎博氏染織コレクション受贈記念展を開催し、図録を発行した。

入場者数／61,875人(327日間)

彫刻展示スペース

芥川永の彫刻 平成23年4月19日(火)～7月10日(日)

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
1	芥川 永	(大正4・1915～平成10・1998)	T子像	昭和11・1936年	高さ30	石膏	1点	国画会展
2	芥川 永		冬至の日	昭和40・1965年	高さ174	石膏	1点	第29回新制作協会展
3	芥川 永		おとなの影	昭和45・1970年	高さ62	ブロンズ	1点	第34回新制作協会展
4	芥川 永		遠くの音(太田川3)	昭和49・1974年	高さ68	石膏	1点	第38回新制作協会展
5	芥川 永		もどれない風(太田川2)	昭和49・1974年	高さ34	ブロンズ	1点	第38回新制作協会展
6	芥川 永		雲になった蛙(石膏原型)	昭和50・1975年	高さ42.5	石膏	1点	
7	芥川 永		雲になった蛙	昭和50・1975年	高さ39.5	ブロンズ	1点	第39回新制作協会展
8	芥川 永		たき火する人(かえる人／たき火)	昭和52・1977年	高さ84	ブロンズ	1点	第41回新制作協会展
9	芥川 永		コダイ	昭和54・1979年	32×24	紙・鉛筆	1面	
10	芥川 永		若いコダイ(石膏原型)	昭和54・1979年	高さ45.5	石膏	1点	
11	芥川 永		若いコダイ	昭和54・1979年	高さ46	ブロンズ	1点	第3回彫刻日動展
12	芥川 永		カンタリス(遠くの声3)	昭和59・1984年	高さ71	ブロンズ	1点	第48回新制作協会展

空から海まで紺碧宇宙∞～加藤卓男・宮永理吉・木村芳郎 平成23年7月12日(火)～10月2日(日)

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質	員数	出品歴等
1	加藤 卓男	(大正6・1917～平成17・2005)	青釉金彩鉢	昭和50年頃・ca1975	高25.5 径41.0	陶器	1口	
2	宮永 理吉	(昭和10・1935～)	パイプ	昭和47年・1972	高26.0 18.0×14.5	青磁	1点	
3	宮永 理吉		三角錐の中のブルー	昭和51年・1976	高31.0 30.0×30.0	陶	1点	
4	木村 芳郎	(昭和21・1946～)	青釉黒彩文大皿	昭和52年・1977	高8.0 径51.5	陶器	1口	
5	木村 芳郎		碧釉組鉢	昭和59年・1984	(大)高10.2 径30.5 (小)高6.5 径18.3	半磁器	1組	第31回日本伝統工芸展奨励賞
6	木村 芳郎		碧釉躍り篋文大皿	昭和62年・1987	高9.5 径57.0	半磁器	1口	

彫刻家 圓鰐勝三の世界 Part1 平成23年10月4日(火)～12月25日(日)

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
1	圓鰐 勝三	(明治38・1905～平成15・2003)	途上	昭和16・1941年(平成6・1994年鑄造)	高さ169	ブロンズ	1点	
2	圓鰐 勝三		タクト	昭和38・1963年	高さ165	テラバー	1点	第11回日彫展
3	圓鰐 勝三		こかげ	昭和49・1974年	高さ123.5	ブロンズ	1点	第6回改組日展
4	圓鰐 勝三		ムーランルージュの夜	昭和50・1975年	高さ91	木、金属	1点	
5	圓鰐 勝三		キリスト	昭和50・1975年	高さ58	テラコッタ	1点	
6	圓鰐 勝三		婦人像B	昭和51・1976年	高さ70	大理石	1点	
7	圓鰐 勝三		ページェント	昭和54・1979年	高さ116	木、銅板	1点	第11回改組日展
8	圓鰐 勝三		白い花	昭和57・1982年	高さ120	木、銅板	1点	第12回日彫展

彫刻家 圓鰐勝三の世界 Part2 平成24年1月2日(月・振)～4月15日(日)

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
1	圓鰐 勝三	(明治38・1905～平成15・2003)	途上	昭和16・1941年(平成6・1994年鑄造)	高さ169	ブロンズ	1点	
2	圓鰐 勝三		星羅	昭和35・1960年	高さ223	木・金属	1点	第3回新日展

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
3	圓鐔 勝三		タクト	昭和38・1963年	高さ165	テラゾー	1点	第11回日彫展
4	圓鐔 勝三		彫刻家K	昭和47・1972年	高さ38	テラコッタ	1点	
5	圓鐔 勝三		ムーランルーージュの夜	昭和50・1975年	高さ91	木、樹脂、金属	1点	
6	圓鐔 勝三		姫と大蛇	昭和53・1978年	高さ143.5	木、彩色	1点	第8回日彫展
7	圓鐔 勝三		道化師	昭和54・1979年	高さ72	木、彩色	1点	
8	圓鐔 勝三		誕生佛	昭和55・1980年	高さ94	ブロンズ	1点	
9	圓鐔 勝三		白い花	昭和57・1982年	高さ120	木、銅板	1点	第12回日彫展

※No.2《星羅》は、企画展示室で開催した「抱きしめたい！ 近代日本の木彫展」への出品のため、1／17から展示

第1室

アリスティード・マイヨール《ウェルギリウスの農耕歌》～のどかなる情景～ 平成23年4月19日(火)～7月10日(日)

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数など
1	アリスティード・マイヨール	(1861～1944)	ウェルギリウスの農耕歌	1950出版	33.7×25.3 33.7×50.6	紙・木版	挿画本及び挿画集より
2	ライオネル・ファイニンガー	(1871～1956)	海辺の夕暮	1927	45.0×77.0	画布・油彩	1面
3	ジュリオ・ゴンザレス	(1876～1942)	人物(鏡の前の女)	1934	高さ51.5	ブロンズ	1点
4	フランシス・ピカピア	(1879～1953)	アンピトリテ	1935頃	92.0×73.5	画布・油彩	1面
5	アレクサンダー・カーノルト	(1881～1939)	静物	1925	80.0×101.0	画布・油彩	1面
6	エーリッヒ・ヘッケル	(1883～1970)	木彫のある静物	1913	70.5×60.7	画布・油彩	1面
7	アンリ・ローランス	(1885～1954)	イヤリングをつけた女の顔	1921	高さ36.9	テラコッタ	1点
8	ベン・ニコルソン	(1894～1982)	1933(絵画)	1933	73.7×90.8	画布・油彩	1面
9	ヘンリー・ムーア	(1898～1986)	弦のある形	1939	高さ30.5	ブロンズ・弦	1点
10	ルネ・マグリット	(1898～1967)	人間嫌いたち	1942	54.0×73.0	画布・油彩	1面
11	アレクサンダー・コールドー	(1898～1976)	ヴァーティカル・ホワイ・フレーム	1936	高さ265.4	木・金属・ワイヤー	1点
12	バーバラ・ヘップワース	(1903～1975)	ネステイング・ストーンズ	1937	高さ19.0	大理石	1点
13	イサム・ノグチ	(1904～1988)	追想	1944(1983～84鑄造)	高さ125.7	ブロンズ	1点
14	サルバドール・ダリ	(1904～1989)	ヴェーナスの夢	1939	243.8×487.6	画布・油彩・パネル装	1面

哲学するアート ～アタマで楽しむ西洋美術～ 平成23年7月12日(火)～10月2日(日)

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数
1	ライオネル・ファイニンガー	(1871～1956)	海辺の夕暮	1927	45.0×77.0	画布・油彩	1面
2	ジュリオ・ゴンザレス	(1876～1942)	人物(鏡の前の女)	1934	高さ51.5	ブロンズ	1点
3	ジュリオ・ゴンザレス		鏡の前の女I	1936	24.0×12.0	紙・インク・パステル	1面
4	ジュリオ・ゴンザレス		鏡の前の女II	1936	25.0×15.0	紙・インク・パステル・鉛筆	1面
5	ジュリオ・ゴンザレス		鏡の前の女III	1936	22.0×14.0	紙・インク・パステル・鉛筆	1面
6	ジュリオ・ゴンザレス		鏡の前の女IV	1937	21.0×16.0	紙・インク・鉛筆	1面
7	ジュリオ・ゴンザレス		鏡の前の女の習作I	1937	33.0×24.0	紙・インク・鉛筆	1面
8	ジュリオ・ゴンザレス		鏡の前の女の習作II	1937	31.0×22.0	紙・インク・パステル・鉛筆	1面
9	パウル・クレー	(1879～1940)	何で走っているのだろう	1932	23.8×29.9	紙・インク・エッチング	1面
10	フランシス・ピカピア	(1879～1953)	アンピトリテ	1935頃	92.0×73.5	画布・油彩	1面
11	アレクサンダー・カーノルト	(1881～1939)	静物	1925	80.0×101.0	画布・油彩	1面
12	エーリッヒ・ヘッケル	(1883～1970)	木彫のある静物	1913	70.5×60.7	画布・油彩	1面
13	アンリ・ローランス	(1885～1954)	イヤリングをつけた女の顔	1921	高さ36.9	テラコッタ	1点
14	トーマス・ハート・ベントン	(1889～1975)	禁酒法の取締まり	1925頃	40.6×45.7	画布・油彩	1面
15	マン・レイ	(1890～1976)	贈り物	1921	20.2×14.8	写真	1面
16			黒と白	1924	20.7×28.9	写真	1面
17			覚めて見る夢の会	1924	20.6×28.7	写真	1面
18			アンドレ・ブルトン／ソラリゼーション	1930	30.3×24.3	写真	1面
19			写真機のあるセルフ・ポートレート	1932	29.7×20.3	写真	1面

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数
20			解剖台の上でミンと蝙蝠傘が偶然出会ったように美しい	1933	24.9×37.8	写真	1面
21			シュルレアリスム展におけるサルバドール・ダリのオブジェ	1936	26.0×21.2	写真	1面
22			マルセル・デュシャンのレディ・メイド「塩乾燥器」		27.0×37.7	写真	1面
23	ベン・ニコルソン	(1894～1982)	1933 (絵画)	1933	73.7×90.8	画布・油彩	1面
24	ヘンリー・ムーア	(1898～1986)	弦のある形	1939	高さ30.5	ブロンズ・弦	1点
25	ヘンリー・ムーア		彫刻のためのアイディア	1933	55.3×38.1	紙・木炭・インク	1面
26	ルネ・マグリット	(1898～1967)	人間嫌いだち	1942	54.0×73.0	画布・油彩	1面
27	アレクサンダー・コールドー	(1898～1976)	ヴァーティカル・ホワイ・フレーム	1936	高さ265.4	木・金属・ワイヤー	1点
28	ベン・シャーン	(1898～1969)	強制収容所	1944	61.0×61.0	板・テンペラ	1面
29	バーバラ・ヘップワース	(1903～1975)	ネステイング・ストーンズ	1937	高さ19.0	大理石	1点
30	ジョゼフ・コーネル	(1903～1972)	オブジェ (ポーリン・クック)	1932	高さ5.7	ミクストメディア	1点
31	イサム・ノグチ	(1904～1988)	追想	1944(1983～84鑄造)	高さ125.7	ブロンズ	1点
32	サルバドール・ダリ	(1904～1989)	ヴィーナスの夢	1939	243.8×487.6	画布・油彩・パネル装	1面

ナチスに「退廃」の烙印をおされた美術家たち 平成23年10月4日(火)～12月25日(日)

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数
1	アレクセイ・ヤヴレンスキー	(1864～1941)	パウハウス版 新ヨーロッパ版画集 第4集より 頭部	1921	17.7×12.4	紙・リトグラフ	1面
2	ヴァシリ・カンディンスキー	(1866～1944)	小さな世界	1922	35.6×28.0他	紙・木版・リトグラフ・ドライポイント 12枚組版画集	12面
3	ライオネル・ファイニンガー	(1871～1956)	パウハウス版 新ヨーロッパ版画集 第1集より 海辺の別荘	1921	32.7×38.2	紙・木版	1面
4	ライオネル・ファイニンガー		パウハウス版 新ヨーロッパ版画集 第1集より 散歩をする人	1921	48.3×34.7	紙・木版	1面
5	ライオネル・ファイニンガー		海辺の夕暮	1927	45.0×77.0	画布・油彩	1面
6	パウル・クレー	(1879～1940)	パウハウス版 新ヨーロッパ版画集 第1集より 内なる光に照らされた聖人	1921	39.0×26.8	紙・リトグラフ	1面
7	パウル・クレー		パウハウス版 新ヨーロッパ版画集 第1集より ホフマンの舞台	1921	35.5×26.0	紙・リトグラフ	1面
8	パウル・クレー		ある音楽家のための楽譜	1924	25.7×31.1	紙・水彩・インク	1面
9	パウル・クレー		お金を数える老人	1929	29.7×23.7	紙・エッチング	1面
10	アレクサンダー・カーノルト	(1881～1939)	静物	1925	80.0×101.0	画布・油彩	1面
11	エーリッヒ・ヘッケル	(1883～1970)	木彫のある静物	1913	70.5×60.7	画布・油彩	1面
12	マックス・ベックマン	(1884～1950)	ヤールマルクト	1921	各56.5×41.3	紙・ドライポイント 10枚組版画集	10面
13	マルク・シャガール	(1887～1985)	パウハウス版 新ヨーロッパ版画集 第4集より 散歩2	1922	17.4×14.6	紙・エッチング・ドライポイント	1面
14	クルト・シュヴィッターズ	(1887～1948)	メルツ394, ピナコテーク	1922	17.9×14.3	コラージュ	1面
15	オスカー・シュレンマー	(1888～1943)	パウハウス版 新ヨーロッパ版画集 第1集より 人物H2	1921	48.0×34.0	紙・リトグラフ	1面
16	オスカー・シュレンマー		パウハウス版 新ヨーロッパ版画集 第1集より 人物集合像K1	1921	48.8×33.8	紙・リトグラフ	1面
17	ヨハネス・イッテン	(1888～1967)	パウハウス版 新ヨーロッパ版画集 第1集より ことわざ	1921	35.5×24.7	紙・リトグラフ	1面
18	ヨハネス・イッテン		パウハウス版 新ヨーロッパ版画集 第1集より 白人の家(建築的スタディ)	1921	35.0×28.1	紙・リトグラフ	1面
19	ゲルハルト・マルクス	(1889～1981)	パウハウス版 新ヨーロッパ版画集 第1集より 猫	1921	38.0×55.0	紙・木版	1面
20	ゲルハルト・マルクス		パウハウス版 新ヨーロッパ版画集 第1集より ふくろう	1921	38.0×28.1	紙・木版	1面
21	ジョージ・グロス	(1893～1959)	群盗	1922	各70.0×51.0	紙・リトグラフ 9枚組版画集	9面
22	ゲオルク・ムッヘ	(1895～1987)	パウハウス版 新ヨーロッパ版画集 第1集より 動物の頭	1921	30.0×20.0	紙・エッチング	1面
23	ゲオルク・ムッヘ		パウハウス版 新ヨーロッパ版画集 第1集より エッチング	1921	30.0×20.0	紙・エッチング	1面

両大戦間の美術

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数
24	ジュリオ・ゴンザレス	(1876～1942)	人物(鏡の前の女)	1934	高さ51.5	ブロンズ	1点
25	アンリ・ローラン	(1885～1954)	イヤリングをつけた女の顔	1921	高さ36.9	テラコッタ	1点
26	アレクサンダー・コールドー	(1898～1976)	ヴァーティカル・ホワイ・フレーム	1936	高さ265.4	木・金属・ワイヤー	1点
27	ヘンリー・ムーア	(1898～1986)	弦のある形	1939	高さ30.5	ブロンズ・弦	1点
28	バーバラ・ヘップワース	(1903～1975)	ネステイング・ストーンズ	1937	高さ19.0	大理石	1点
29	サルバドール・ダリ	(1904～1989)	ヴィーナスの夢	1939	243.8×487.6	画布・油彩・パネル装	1面
30	イサム・ノグチ	(1904～1988)	追想	1944(1983～84鑄造)	高さ125.7	ブロンズ	1点

寓意としての機械〜エルンスト《流行に栄あれ、芸術よ墜ちろ》 平成24年1月2日(月・振)〜4月15日(日)

両大戦間の美術

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数
1	ライオネル・ファイニンガー	(1871〜1956)	海辺の夕暮	1927	45.0×77.0	画布・油彩	1面
2	ジュリオ・ゴンザレス	(1876〜1942)	人物 (鏡の前の女)	1934	高さ51.5	ブロンズ	1点
3	エーリッヒ・ヘッケル	(1883〜1970)	木彫のある静物	1913	70.5×60.7	画布・油彩	1面
4	アンリ・ローランス	(1885〜1954)	イヤリングをつけた女の顔	1921	高さ36.9	テラコッタ	1点
5	エル・リシツキー	(1890〜1941)	プロウン	1923	60.5×43.5	紙・インク・リトグラフ	6面
6	ベン・ニコルソン	(1894〜1982)	1933 (絵画)	1933	73.7×90.8	画布・油彩	1面
7	ヘンリー・ムーア	(1898〜1986)	弦のある形	1939	高さ30.5	ブロンズ・弦	1点
8	ルネ・マグリット	(1898〜1967)	人間嫌いたち	1942	54.0×73.0	画布・油彩	1面
9	アレクサンダー・コルダ	(1898〜1976)	ヴァーティカル・ホワイト・フレーム	1936	高さ265.4	木・金属・ワイヤー	1点
10	バーバラ・ヘップワース	(1903〜1975)	ネステイング・ストーンズ	1937	高さ19.0	大理石	1点
11	イサム・ノグチ	(1904〜1988)	追想	1944 (1983〜84鑄造)	高さ125.7	ブロンズ	1点
12	サルバドール・ダリ	(1904〜1989)	ヴィーナスの夢	1939	243.8×487.6	画布・油彩・パネル装	1面

小特集 (寓意としての機械〜エルンスト《流行に栄あれ、芸術よ墜ちろ》)

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数
13	フランシス・ピカビア	(1879〜1953)	アンピトリテ	1935頃	92.0×73.5	画布・油彩	1面
14	カルロ・カッラ	(1881〜1966)	パウハウス版 新ヨーロッパ版画集 第4集より 山師	1921	30.0×21.5	紙・インク・リトグラフ	1面
15	ジャン(ハンス)・アルプ	(1887〜1966)	目覚め	1938 (1983鑄造)	高さ47.5	ブロンズ	1点
16	ジョルジョ・デ・キリコ	(1888〜1978)	パウハウス版 新ヨーロッパ版画集 第4集より オレステスとピュラデス	1921	28.9×20.0	紙・インク・リトグラフ	1面
17	マックス・エルンスト	(1891〜1976)	流行に栄あれ、芸術よ墜ちろ	1919	45.5×33.0	紙・インク・リトグラフ	8面
18	マックス・エルンスト		博物誌	1926	43.0×26.0	紙・インク・コロタイプ	8面
19	マックス・エルンスト		オイディプス I	1934 (1992鑄造)	高さ62.0	ブロンズ	1点
20	マックス・エルンスト		オイディプス II	1934 (1992鑄造)	高さ66.0	ブロンズ	1点

第2室

表現と技法 ツルツルからデコボコまで 平成23年4月19日(火)〜7月10日(日)

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴など
1	日比野勇次郎	(元治元・1864〜?)	老人像			油彩・画布	1面	
2	小林 千古	(明治3・1870〜明治44・1911)	静物	明治33・34・1900・01年頃	23.3×32.5	油彩・板	1面	
3	小林 千古		母ヲキ肖像	明治36・38・1903・05年頃	68.0×51.0	油彩・画布	1面	
4	小林 千古		茶器と梅花	明治36・1903年	18.5×65.5	油彩・画布	1面	第10回白馬会展
5	南 薫造	(明治16・1883〜昭和25・1950)	風景(新橋)	昭和5・1930年	31.0×41.0	油彩・板	1面	
6	南 薫造		小童	明治42・1909年	60.5×49.8	油彩・画布	1面	
7	南 薫造		石割り	明治44・1911年	60.5×45.5	油彩・画布	1面	第6回文展
8	神田 周三	(明治27・1894〜昭和47・1972)	被爆後風景		56.6×84.0	油彩・紙	1面	
9	名井 萬亀	(明治29・1896〜昭和51・1976)	道	昭和31・1956年	197.0×100.0	油彩・画布	1面	第2回現代日本美術展
10	中谷ミユキ	(明治33・1900〜昭和52・1977)	パノパイヤ	昭和50・1975年	60.6×72.7	油彩・画布	1面	
11	新海 覚雄	(明治37・1904〜昭和43・1968)	抽象	大正13・1924年	37.0×65.0	油彩・砂・画布	1面	
12	鰐 光	(明治40・1907〜昭和21・1946)	帽子をかむる自画像	昭和18・1943年	60.0×50.0	油彩・画布	1面	
13	鰐 光		風景	昭和19・1944年	41.0×52.5	油彩・画布	1面	
14	藤本 忠雄	(明治41・1908〜昭和47・1972)	対立A	昭和43・1968年	124.5×164.0	カシュー・アクリル	1面	第35回独立美術展
15	角 浩	(明治42・1909〜平成6・1994)	ジプシーとドンキホーテ	昭和41・1966年	145.5×112.1	油彩・画布	1面	
16	岡部 繁夫	(明治45・1912〜昭和44・1969)	作品NR	昭和38・1963年	181.8×227.5	油彩・画布	1面	
17	菅井 汲	(大正8・1919〜平成8・1996)	ナショナル・ルート	昭和39・1964年	195.0×130.0	アクリル・画布	1面	
18	菅井 汲		河	昭和62・1987年	157.0×197.0	アクリル・画布	1面	

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴など
19	菅井 汲		カドミウム・レッド 11-12	平成 4・1992年	250.0×132.0×2	アクリル・画布	1 面	
20	金光 松美	(大正11・1922～平成4・1992)	AUGUST	昭和35・1960年	182.8×182.8	油彩・画布	1 面	
21	金光 松美		マウント・ホイットニー	昭和51・1976年	112.0×243.9	油彩・画布	1 面	
22	高橋 秀	(昭和5・1930～)	海	昭和38・1963年	90.0×72.7	ミクストメディア	1 面	
23	高橋 秀		Nagaré	昭和44・1969年	60.0×60.0	ラッカー・画布	1 面	
24	名柄 禎子	(昭和6・1931～)	白の残映	昭和50・1975年	193.9×260.6	油彩・画布	1 面	
25	入野 忠芳	(昭和14・1939～)	風成 94ー5	平成 6・1994年	162.1×162.1	油彩・画布	1 面	

画家の自画像と創作の現場 平成23年7月12日(火)～10月2日(日)

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴など
1	小林 千古	(明治3・1870～明治44・1911)	自画像	明治36～38・1903～05年頃	67.5×58.0	油彩・画布	1 面	
2	南 薫造	(明治16・1883～昭和25・1950)	ピアノ	大正10・1921年	103.0×83.1	油彩・画布	1 面	平和記念東京博覧会
3	南 薫造		自画像	昭和 4・1929年	41.0×31.3	油彩・板	1 面	
4	南 薫造		曝書	昭和21・1946年	65.1×80.3	油彩・画布	1 面	
5	小林 徳三郎	(明治17・1884～昭和24・1949)	部屋居の女	昭和20・1945年頃	53.0×45.5	油彩・画布	1 面	第27回春陽会展
6	田中 万吉	(明治28・1895～昭和20・1945)	自画像	大正 6・1917年	19.0×14.5	鉛筆・紙	1 面	
7	田中 万吉		自画像	大正 6・1917年	19.0×14.5	鉛筆・色鉛筆・紙	1 面	
8	田中 万吉		自画像	大正 7・1918年	31.1×23.3	水彩・コンテ・紙	1 面	
9	田中 万吉		自画像		31.3×23.3	水彩・コンテ・紙	1 面	
10	田中 万吉		自画像	大正 8・1919年	53.0×45.2	油彩・画布	1 面	
11	田中 万吉		自画像	昭和11・1936年頃	18.0×13.8	油彩・板	1 面	
12	山路 商	(明治36・1903～昭和19・1944)	T型定規のある静物	昭和 7・1932年	87.0×69.0	油彩・画布	1 面	第 6 回全関西展
13	山路 商		自画像		38.6× 27.2	鉛筆・紙	1 面	
14	山路 商		自画像	昭和17・1942年	26.0×19.2	油彩・板	1 面	
15	檜山 武夫	(明治39・1906～昭和 7・1932)	自画像(黄色い)		33.0×23.5	油彩・板	1 面	
16	檜山 武夫		自画像(右向き)		33.0×23.8	油彩・ボード	1 面	
17	檜山 武夫		自画像(左向き)		33.0×23.9	油彩・板	1 面	
18	檜山 武夫		自画像(右向き)		33.0×23.9	油彩・紙ボード	1 面	
19	檜山 武夫		自画像		73.0×53.1	油彩・画布	1 面	
20	檜山 武夫		機関庫	昭和 6・1931年	95.0×100.0	油彩・画布	1 面	第18回二科展
21	巖 光	(明治40・1907～昭和21・1946)	二重像	昭和16・1941年	24.5× 20.0	墨・紙	1 面	
22	巖 光		帽子をかむる自画像	昭和18・1943年	60.0×50.0	油彩・画布	1 面	
23	巖 光		窓辺の花(百合)	昭和19・1944年	71.0×59.0	油彩・画布	1 面	
24	巖 光		風景	昭和19・1944年	41.0×52.5	油彩・画布	1 面	
25	麻生 三郎	(大正 2・1913～平成12・2000)	自画像	昭和38・1963年	36.5×29.0	鉛筆・一部彩色・紙	1 面	
26	麻生 三郎		自己像	昭和64/平成元・1989年	130.3×162.1	油彩・画布	1 面	個展('90南天子画廊)
27	菅井 汲	(大正 8・1919～平成 8・1996)	自画像	昭和43・1968年	76.5×56.1	インク・紙(シルクスクリーン)	1 面	
28	菅井 汲		手A	昭和48・1973年	38.0×38.1	インク・紙(シルクスクリーン)	1 面	
29	菅井 汲		手B	昭和48・1973年	42.0×38.1	インク・紙(シルクスクリーン)	1 面	
30	菅井 汲		手C	昭和48・1973年	42.0×38.1	インク・紙(シルクスクリーン)	1 面	
31	菅井 汲		手D	昭和48・1973年	38.0×38.1	インク・紙(シルクスクリーン)	1 面	
32	菅井 汲		自画像	昭和49・1974年	75.4×51.4	インク・紙(シルクスクリーン)	1 面	

没後100年 広島洋画界の先達・小林千古 平成23年10月4日(火)～12月25日(日)

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴など
1	小林 千古	(明治3・1870～明治44・1911)	婦人像(正面)	明治26・1893年	47.5×40.0	鉛筆・コンテ・紙	1面	
2	小林 千古		婦人像	明治26・1893年	49.5×38.0	鉛筆・コンテ・紙	1面	
3	小林 千古		やし(静物)	明治26・1893年	34.0×44.0	油彩・画布	1面	

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴など
4	小林 千古		婦人像	明治27・1894年	46.0×36.0	鉛筆・コンテ・紙	1面	
5	小林 千古		婦人像(横)	明治27・1894年	35.5×38.0	鉛筆・コンテ・紙	1面	
6	小林 千古		子供石膏像	明治28・1895年	62.0×48.0	鉛筆・紙	1面	
7	小林 千古		子供石膏像	明治28・1895年	61.0×48.5	鉛筆・紙	1面	
8	小林 千古		男子裸立像	明治28・1895年	62.5×47.5	鉛筆・紙	1面	
9	小林 千古		男子裸立像	明治29・1896年	63.0×48.0	鉛筆・紙	1面	
10	小林 千古		男子裸立像	明治29・1896年	63.0×48.0	鉛筆・紙	1面	
11	小林 千古		男子裸立像	明治29・1896年	63.0×48.0	鉛筆・紙	1面	
12	小林 千古		ミルク・メイド	明治30・1897年	69.0×50.8	油彩・画布	1面	第10回白馬会展
13	小林 千古		男性裸体座像	明治30・1897年	68.0×48.0	油彩・画布	1面	
14	小林 千古		男性裸体背面立像	明治30・1897年	89.0×64.0	油彩・画布	1面	
15	小林 千古		裸婦正面立像	明治30・1897年	90.0×62.0	油彩・画布	1面	
16	小林 千古		母ワキ肖像	明治32・1899年頃	69.1×51.2	油彩・画布	1面	
17	小林 千古		佛・伊風景小スケッチ	明治33～34・1900～01年頃	31.2×24.0	油彩・画布	1面	
18	小林 千古		佛・伊風景小スケッチ	明治33～34・1900～01年頃	11.8×16.4	油彩・画布	1面	
19	小林 千古		佛・伊風景小スケッチ	明治33～34・1900～01年頃	16.6×12.0	油彩・厚紙	1面	
20	小林 千古		佛・伊風景小スケッチ	明治33～34・1900～01年頃	11.6×16.8	油彩・厚紙	1面	
21	小林 千古		佛・伊風景小スケッチ	明治33～34・1900～01年頃	17.8×11.9	油彩・板	1面	
22	小林 千古		佛・伊風景小スケッチ	明治33～34・1900～01年頃	17.8×11.9	油彩・板	1面	
23	小林 千古		人物画男子	明治33～34・1900～01年頃	32.0×24.0	油彩・画布	1面	
24	小林 千古		婦人3人像	明治34・1901年	37.0×43.0	油彩・画布	1面	
25	小林 千古		習作		145.5×107.5	油彩・画布	1面	
26	小林 千古		巖島大元公園	明治36・1903年	46.2×38.4	油彩・画布	1面	
27	小林 千古		茶器と梅花	明治36・1903年	18.5×65.5	油彩・画布	1面	第10回白馬会展
28	小林 千古		自画像	明治36～38・1903～05年頃	67.5×58.0	油彩・画布	1面	
29	小林 千古		華巖の滝	明治39・1906年	60.8×41.0	油彩・画布	1面	
30	南 薫造	(明治16・1883～昭和25・1950)	赤いトルコ帽の少年	明治37・1904年	29.8×22.4	油彩・キャンバスボード	1面	
31	南 薫造		美校一隅	明治37・1904年	45.6×60.6	油彩・画布	1面	
32	吉岡 満助	(明治22・1889～昭和20・1945)	戸山ヶ原	大正 7・1918年	45.5× 53.0	油彩・画布	1面	
33	吉岡 満助		牡丹	昭和 5・1930年	32.0×40.8	油彩・画布	1面	
34	顰 光	(明治40・1907～昭和21・1946)	屋根の見える風景	昭和 4・1929年	50.6×63.8	油彩・画布	1面	
35	顰 光		帽子をかむる自画像	昭和18・1943年	60.0×50.0	油彩・画布	1面	
36	菅井 汲	(大正 8・1919～平成 8・1996)	SOLEIL ET SOLEIL	昭和43・1968年	114.2×192.6	アクリル・画布	1面	
37	菅井 汲		SOLEIL BLEU	昭和44・1969年	235.5×236.0	アクリル・画布	1面	
38	菅井 汲		SOLEIL	昭和46・1971年	200.0×200.0	油彩・画布	1面	

旅 平成24年1月2日(月・振)～4月15日(日)

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質・形状	員数	出品歴
1	小林 千古	(明治 3・1870～明治44・1911)	ミルク・メイド	明治 30・1897年	69.0×50.8	油彩・画布	1面	第10回白馬会展
2			佛・伊風景小スケッチ	明治33～34・1900～01年頃	31.2×24	油彩・画布	1面	
3			茶器と梅花	明治 36・1903年	18.5×65.5	油彩・画布	1面	第10回白馬会展
4	南 薫造	(明治16・1883～昭和25・1950)	ノースモルトン風景	明治41・1908年	61.0×76.5	油彩・画布	1面	
5			パリ郊外	明治42・1909年	34.0×45.8	油彩・画布	1面	
6			台湾風景	昭和 5・1930年	31.8×40.8	油彩・板	1面	
7			犬吠岬	昭和15・1940	65.4×80.3	油彩・画布	1面	
8	和田 三造	(明治16・1883～昭和42・1967)	風景(パリ)	明治42～大正 4・1909～15年頃	62.5× 37.5	油彩・画布	1面	
9	小林 和作	(明治21・1888～昭和49・1974)	春の山	昭和 42・1967年	80.0×100.0	油彩・画布	1面	
10	田中 万吉	(明治28・1895～昭和20・1945)	サントロッペの漁港	大正13～昭和2・1924～27年	65.0×81.0	油彩・画布	1面	
11	名井 萬亀	(明治29・1896～昭和51・1976)	鰯網(二)	昭和 34・1959年	130.2×162.2	油彩・画布	1面	

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴など
12			六根清浄	昭和43・1968年	243.0×351.0	油彩・画布	1面	
13			宮古市浄土が濱	昭和48・1973年	112.0×162.8	油彩・画布	1面	
14	岡田 謙三	(明治35・1902～昭和57・1982)	北市場	昭和17・1942年	104.2×87.0	油彩・画布	1面	第29回二科展
15	山路 商	(明治36・1903～昭和19・1944)	大連風景	昭和6・1931年	24.5×32.9	油彩・画布	1面	
16	村井 正誠	(明治38・1905～平成11・1999)	スエズの朝	昭和7・1932年	46.0×55.0	油彩・画布	1面	第4回独立展
17	矢橋 六郎	(明治38・1905～昭和63・1988)	サン・ジャネット	昭和7・1932年	65.5×81.0	油彩・画布	1面	
18	檜山 武夫	(明治39・1906～昭和7・1932)	ブラットホーム	昭和5・1930年	60.0×73.0	油彩・画布	1面	第4回全関西展
19	巖 光	(明治40・1907～昭和21・1946)	海	昭和18・1943年	72.3×90.7	油彩・画布	1面	第1回新人画会展
20	太田 忠	(明治41・1908～昭和46・1971)	夕照	昭和39・1964年	162.0×131.0	油彩・画布	1面	
21	寺田 政明	(明治45・1912～平成元・1989)	二つの道	昭和29・1954年	116.9×91.2	油彩・画布	1面	
22	菅井 汲	(大正8・1919～平成8・1996)	月に旅立つ鬼	昭和38・1963年	162.0×130.2	アクリル・油彩・キャンバス	1面	
23			ナショナル・ルート	昭和39・1964年	195.0×130.0	アクリル・油彩・キャンバス	1面	
24			ソレイユ・エ・ソレイユ	昭和43・1968年	114.2×192.6	アクリル・キャンバス	1面	
25	宮崎 進	(大正11・1922～)	さいはて	昭和28・1953年	54.5×37.9	油彩・画布	1面	

第3室

児玉希望 No.1 平成23年4月12日(火)～5月22日(日)

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質・形状	員数	出品歴
1	児玉 希望	(明治31・1898～昭和46・1971年)	晩春	大正14・1925年	122.5×433.0	絹本彩色・屏風	八曲・隻	第6回帝展
2	児玉 希望		浅春	昭和5・1930年	266.0×176.0	絹本彩色・額装	1面	
3	児玉 希望		雨後	昭和5・1930年頃	72.0×86.0	絹本墨画彩色・軸装	1幅	
4	児玉 希望		飛泉淙々	昭和6・1931年	260.0×145.0	絹本彩色・額装	1面	第12回帝展
5	児玉 希望		山とよむ	昭和7・1932年	257.0×175.0	絹本彩色・額装	1面	第13回帝展
6	児玉 希望		猿猴捉月	昭和8・1933年	255.0×105.0	絹本彩色・額装	1面	第14回帝展
7	児玉 希望		黎明	昭和9・1934年	191.0×178.0	絹本彩色・額装	1面	第15回帝展
8	児玉 希望		荊軻	昭和14・1939年	各153.5×69.0	絹本彩色・額装	2面	第10回戊辰会展
9	児玉 希望		室内	昭和27・1952年	171.0×131.0	絹本彩色・額装	1面	第8回日展
10	児玉 希望		春のバンガロー	昭和29・1954年	65.0×87.0	絹本彩色・額装	1面	第5回日月社展
11	児玉 希望		裏町の雑間	昭和30・1955年	117.0×90.0	絹本彩色・額装	1面	第6回日月社展
12	児玉 希望		モンブラン	昭和32・1957年	104.7×117.0	絹本墨画・額装	1面	児玉希望個展(イタリア)
13	児玉 希望		梵唄(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	43.0×73.0	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
14	児玉 希望		海禾(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	57.0×67.0	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
15	児玉 希望		緑塊(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	55.0×72.0	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
16	児玉 希望		白崖(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	68.5×58.0	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
17	児玉 希望		雲似(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	59.0×69.5	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
18	児玉 希望		滴律(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	67.0×64.0	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
19	児玉 希望		地紋(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	60.0×63.0	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
20	児玉 希望		徑(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	59.0×72.5	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
21	児玉 希望		銀漾(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	46.0×50.0	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
22	児玉 希望		日午(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	40.0×56.0	絹本墨画金泥・額装	1面	新水墨画展
23	児玉 希望		金漾(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	60.0×49.0	絹本墨画金泥・額装	1面	新水墨画展
24	児玉 希望		円鎖(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	54.5×66.0	絹本墨画金泥・額装	1面	新水墨画展
25	児玉 希望		山	昭和35・1960年	97.0×134.5	絹本彩色・額装	1面	第3回新日展
26	児玉 希望		涅槃	昭和38・1963年	156.0×150.5	絹本彩色・額装	1面	第6回新日展
27	奥田 元宋	(明治45・1912～平成15・2003年)	泉響	昭和38・1963年	259.1×193.9	絹本彩色・額装	1面	第6回新日展
28	平山 郁夫	(昭和5・1930～平成21・2009年)	内海の春	昭和29・1954年	145.0×208.0	絹本彩色・額装	1面	第39回院展
29	平山 郁夫		ひととき	昭和31・1956年	106.0×76.0	絹本彩色・額装	1面	第11回春の院展

児玉希望 No.2 平成23年5月24日(火)～7月3日(日)

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質・形状	員数	出品歴
1	児玉 希望	(明治31・1898～昭和46・1971年)	暮春	昭和5・1930年	266.0×176.0	絹本彩色・額装	1面	第11回帝展
2	児玉 希望		雨後	昭和5・1930年頃	72.0×86.0	絹本墨画彩色・軸装	1幅	
3	児玉 希望		飛泉淙々	昭和6・1931年	260.0×145.0	絹本彩色・額装	1面	第12回帝展
4	児玉 希望		山とよむ	昭和7・1932年	257.0×175.0	絹本彩色・額装	1面	第13回帝展
5	児玉 希望		猿猴捉月	昭和8・1933年	255.0×105.0	絹本彩色・額装	1面	第14回帝展
6	児玉 希望		七面鳥	昭和13・1938年	137.0×144.0	絹本彩色・額装	1面	第2回新文展
7	児玉 希望		景清	昭和17・1942年	各209.5×77.0	絹本彩色・額装	1面	第5回新文展
8	児玉 希望		静物(卓上のりんご)	昭和27・1952年	58.0×51.0	絹本彩色・額装	1面	
9	児玉 希望		室内	昭和27・1952年	171.0×131.0	絹本彩色・額装	1面	第8回日展
10	児玉 希望		氷川	昭和30・1955年	208.0×171.0	絹本彩色・額装	1面	第11回日展
11	児玉 希望		奥多摩の家	昭和31・1956年	60.0×74.5	紙本金泥墨画・額装	1面	第7回日月社展
12	児玉 希望		山下橋付近	昭和31・1956年	60.0×72.5	紙本金泥墨画・額装	1面	第7回日月社展
13	児玉 希望		松林	昭和32・1957年	各153.0×354.0	絹本墨画・屏風	六曲一雙	児玉希望個展(イタリヤ)
14	児玉 希望		梵唄(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	43.0×73.0	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
15	児玉 希望		海禾(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	57.0×67.0	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
16	児玉 希望		緑塊(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	55.0×72.0	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
17	児玉 希望		白崖(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	68.5×58.0	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
18	児玉 希望		雲似(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	59.0×69.5	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
19	児玉 希望		滴律(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	67.0×64.0	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
20	児玉 希望		地紋(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	60.0×63.0	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
21	児玉 希望		徑(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	59.0×72.5	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
22	児玉 希望		銀漾(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	46.0×50.0	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
23	児玉 希望		日午(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	40.0×56.0	絹本墨画金泥・額装	1面	新水墨画展
24	児玉 希望		金漾(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	60.0×49.0	絹本墨画金泥・額装	1面	新水墨画展
25	児玉 希望		円鎖(新水墨画十二題)	昭和34・1959年	54.5×66.0	絹本墨画金泥・額装	1面	新水墨画展
26	児玉 希望		観音	昭和42・1967年	235.2×129.2	絹本彩色・額装	1面	第10回新日展
27	児玉 希望		降魔	昭和44・1969年	200.5×167.0	絹本彩色・額装	1面	第1回改組日展
28	奥田 元宋	(明治45・1912年～平成15・2003年)	泉響	昭和38・1963年	259.1×193.9	絹本彩色・額装	1面	第6回新日展
29	平山 郁夫	(昭和5・1930年～平成21・2009年)	内海の春	昭和29・1954年	145.0×208.0	絹本彩色・額装	1面	第39回院展
30	平山 郁夫		母子	昭和34・1959年	116.0×68.0	絹本彩色・額装	1面	第14回春の院展

鳥を描く 平成23年7月5日(火)～8月14日(日)

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質・形状	員数	出品歴
1			花鳥図	桃山～江戸時代(16～17世紀)	151.0×348.0	紙本彩色・屏風	六曲一隻	
2	宋 紫石	(正徳5・1715年～天明6・1786年)	柳下白鷄図	明和6・1769年	112.6×44.5	絹本彩色・軸装	1幅	
3	岡 岷山	(享保19・1734年～文化3・1806年)	仏法僧図	明和3・1766年	99.0×39.0	絹本彩色・軸装	1幅	
4	梶田 半古	(明治3・1870年～大正6・1917年)	月下鶉図		135.0×60.6	絹本彩色・軸装	1幅	
5	丸木 スマ	(明治8・1875年～昭和31・1956年)	小鳥の滝	昭和29・1954年	78.0×109.0	紙本彩色・軸装	1幅	
6	橋本 静水	(明治9・1876年～昭和18・1943年)	牡丹		54.5×71.8	絹本彩色・軸装	1幅	
7	川崎 小虎	(明治19・1886年～昭和52・1977年)	七面鳥	昭和29・1954年	112.0×104.0	紙本彩色・額装	1面	
8	大村 廣陽	(明治24・1891年～昭和58・1983年)	八重椿	昭和5・1930年	248.0×174.0	絹本彩色・額装	1面	第11回帝展
9	金島 桂華	(明治25・1892年～昭和49・1974年)	芭蕉孔雀図	明治45・1912年	各168.0×375.5	絹本彩色・屏風	六曲一雙	
10	児玉 希望	(明治31・1898年～昭和46・1971年)	晩春	大正14・1925年	122.5×433.0	絹本彩色・屏風	八曲一隻	第6回帝展
11	児玉 希望		暮春	昭和5・1930年	266.0×176.0	絹本彩色・額装	1面	第11回帝展
12	児玉 希望		七面鳥	昭和13・1938年	137.0×144.0	絹本彩色・額装	1面	第2回新文展
13	児玉 希望		空山春生	昭和15・1940年	69.0×83.0	絹本彩色・額装	1面	本山幽堂堂当代画跡竹器木刻展
14	和高 節二	(明治31・1898年～平成2・1990年)	鳥を聴く		67.2×48.3	紙本彩色・軸装	1幅	

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質・形状	員数	出品歴
15	綿谷行四郎	(明治33・1900年～昭和52・1977年)	冠鶴	昭和40・1965年	211.5×175.5	紙本彩色・額装	1面	第50回院展
16	丸木 位里	(明治34・1901年～平成7・1995年)	雨乞	昭和14・1939年	172.0×140.0	紙本彩色・額装	1面	第1回丸木位里・船田玉樹個展
17	丸木 位里		柳暗	昭和16・1941年	205.0×91.0	紙本墨画・額装	1面	第2回美術文化協会展
18	上村 松篁	(明治35・1902年～平成13・2001年)	緑雨	昭和33・1958年頃	56.2×66.6	紙本彩色・軸装	1幅	
19	奥田 元宋	(明治45・1912年～平成15・2003年)	柳鶯	昭和15・1940年	175.7×175.7	絹本彩色・額装	1面	第4回児玉希望画塾展
20	塩出 英雄	(明治45・1912年～平成13・2001年)	双鳩	昭和11・1936年	168.5×186.5	紙本彩色・屏風	二曲一隻	
21	善 鳩人	(大正5・1916年～平成元・1989年)	薄明	昭和36・1961年	110.0×158.0	紙本彩色・額装	1面	第25回新制作展
22	善 鳩人		巢(陽)	昭和41・1966年	152.0×182.0	紙本彩色・額装	1面	第30回新制作展
23	平山 郁夫	(昭和5・1930年～平成21・2009年)	広島生変図	昭和54・1979年	171.0×364.0	紙本彩色・屏風	六曲一隻	第64回院展

花を愛でる 平成23年8月16日(火)～9月25日(日)

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質・形状	員数	出品歴等
1			花鳥図	桃山～江戸時代(16～17世紀)	151.0×348.0	紙本彩色・屏風	六曲一隻	
2	小倉 武駿	(～天保10・1839年)	花籠図	江戸時代(19世紀)	96.0×43.0	絹本彩色・軸装	1幅	
3	川合 玉堂	(明治6・1873年～昭和32・1957年)	溪村春麓図	明治40・1907年	150.5×85.0	絹本墨画彩色・額装	1面	
4	橋本 静水	(明治9・1876年～昭和18・1943年)	紅梅		150.1×55.0	絹本彩色・軸装	1幅	
5	大村 廣陽	(明治24・1891年～昭和58・1983年)	八重椿	昭和5・1930年	248.0×174.0	絹本彩色・額装	1面	第11回帝展
6	金島 桂華	(明治25・1892年～昭和49・1974年)	牡丹	昭和23・1948年	各163.0×171.0	紙本彩色・屏風	二曲一双	第4回日展
7	楠 瓊州	(明治25・1892年～昭和31・1956年)	あやめ之図	昭和26・1951年	134.9×43.3	紙本彩色・軸装	1幅	
8	速水 御舟	(明治27・1894年～昭和10・1935年)	山茶花	大正3・1914年	124.5×50.5	絹本彩色・軸装	1幅	第3回赤曜会展
9	猪原 大華	(明治30・1897年～昭和55・1980年)	白梅	昭和43・1968年	203.2×134.7	紙本彩色・額装	1面	第11回新日展
10	片田 天玲	(明治30・1897年～昭和60・1985年)	彼岸まえ	昭和42・1967年	169.0×180.0	紙本彩色・屏風	二曲一隻	第8回日本南画院展
11	児玉 希望	(明治31・1898年～昭和46・1971年)	晩春	大正14・1925年	122.5×433.0	絹本彩色・屏風	八曲一隻	第6回帝展
12	児玉 希望		暮春	昭和5・1930年	266.0×176.0	絹本彩色・額装	1面	第11回帝展
13	児玉 希望		ひるさか ^り	昭和17・1942年	75.0×85.0	絹本彩色・額装	1面	第6回児玉画塾展
14	和高 節二	(明治31・1898年～平成2・1990年)	夏の花	昭和44・1969年	各153.6×165.5	紙本彩色・屏風	二曲一双	
15	片山 牧羊	(明治33・1900年～昭和12・1937年)	おぼろ	昭和2・1927年	244.8×173.0	絹本彩色・額装	1面	第8回帝展
16	大島 祥丘	(明治40・1907年～平成8・1996年)	牡丹	昭和54・1979年	111.2×161.2	紙本彩色・額装	1面	
17	奥田 元宋	(明治45・1912年～平成15・2003年)	溪澗春耀	平成3・1991年	37.7×112.7	紙本彩色・額装	1面	
18	奥田 元宋		溪澗秋耀	平成3・1991年	37.7×112.7	紙本彩色・額装	1面	
19	船田 玉樹	(大正元・1912年～平成3・1991年)	宇治の春	昭和29・1954年	180.0×242.0	紙本彩色・額装	1面	第39回院展
20	平山 郁夫	(昭和5・1930年～平成21・2009年)	内海の春	昭和29・1954年	145.0×208.0	紙本彩色・額装	1面	第39回院展
21	平山 郁夫		みのり	昭和36・1961年	152.0×60.0	紙本彩色・額装	1面	第16回春の院展
22	平山 郁夫		広島生変図	昭和54・1979年	171.0×364.0	紙本彩色・屏風	六曲一隻	第64回院展

小特集 孤高の日本画家 船田玉樹 平成23年9月27日(火)～11月6日(日)

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質・形状	員数	出品歴
1	丸木 スマ	(明治8・1875年～昭和31・1956年)	動物	昭和27・1952年	90.0×94.0	紙本彩色・軸装	1幅	童画展
2	丸木 スマ		蝶	昭和28・1953年	107.0×77.5	紙本彩色・軸装	1幅	女流画家協会展
3	丸木 スマ		きのこ	昭和28・1953年	108.0×77.5	紙本彩色・軸装	1幅	第38回院展
4	児玉 希望	(明治31・1898年～昭和46・1971年)	溪谷の秋	昭和18・1943年	153.5×69.0	絹本彩色・額装	1面	第7回児玉画塾展
5	和高 節二	(明治31・1898年～平成2・1990年)	谷間でみたひと	昭和38・1963年	182.0×120.0	紙本彩色・額装	1面	第6回新日展
6	綿谷行四郎	(明治33・1900年～昭和52・1977年)	宮島廻廊	昭和48・1973年	176.0×207.0	紙本彩色・額装	1面	第58回院展
7	丸木 位里	(明治34・1901年～平成7・1995年)	雨乞	昭和14・1939年	172.0×140.0	紙本彩色・額装	1面	第1回丸木位里・船田玉樹個展
8	丸木 位里		不動	昭和16・1941年	213.0×106.0	紙本彩色・額装	1面	第1回岩橋英達・丸木位里・船田玉樹三人展
9	丸木 位里		竹林	昭和39・1964年	各210.0×270.0	紙本墨画・屏風	二曲一双	第6回現代日本美術展
10	浜崎左髪子	(明治45・1912年～平成元・1989年)	青夜		115.7×90.8	紙本彩色・額装	1面	

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質・形状	員数	出品歴等
11	奥田 元宋	(明治45・1912年～平成15・2003年)	焔	昭和36・1961年	130.0×190.0	紙本彩色・額装	1 面	第4回新日展
12	船田 玉樹	(大正元・1912年～平成3・1991年)	花の夕	昭和13・1938年	180.0×359.3	紙本彩色・屏風	四曲一隻	第1 回歷程美術協会展
13	船田 玉樹		春の鐘	昭和25・1950年	180.0×68.0	絹本彩色・額装	1 面	第5回春の院展
14	船田 玉樹		すすきの原の秋	昭和25・1950年	180.0×68.0	絹本彩色・額装	1 面	ソ連における現代日本美術展
15	船田 玉樹		雪の灯ともし頃	昭和25・1950年	180.0×68.0	絹本彩色・額装	1 面	ソ連における現代日本美術展
16	船田 玉樹		宇治の春	昭和29・1954年	180.0×242.0	紙本彩色・額装	1 面	第39回院展
17	船田 玉樹		秋意	昭和32・1957年	207.0×161.0	紙本彩色・額装	1 面	第42回院展
18	善 鳩人	(大正5・1916年～平成元・1989年)	巢(冬壁)	昭和36・1961年	141.0×180.0	紙本彩色・額装	1 面	
19	桑原 清明	(大正12・1923年～平成19・2007年)	巴峽の朝	昭和43・1968年	165.0×225.0	紙本彩色・額装	1 面	第11回新日展
20	其阿弥赫土	(大正14・1925年～)	晩秋の記録	昭和49・1974年	154.0×123.7	紙本彩色・額装	1 面	
21	平山 郁夫	(昭和5・1930年～平成21・2009年)	ひととき	昭和31・1956年	106.0×76.0	紙本彩色・額装	1 面	第11回春の院展
22	平山 郁夫		母子	昭和34・1959年	116.0×68.0	紙本彩色・額装	1 面	第14回春の院展
23	平山 郁夫		みのり	昭和36・1961年	152.0×60.0	紙本彩色・額装	1 面	第16回春の院展

深まりゆく秋 平成23年11月8日(火)～12月25日(日)

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質・形状	員数	出品歴等
1			花鳥図	桃山～江戸時代	151.0×348.0	紙本彩色・屏風	六曲一隻	
2	竹内 栖鳳	(元治元・1864年～昭和17・1942年)	寒林帰牧図		各166.7×370.8	絹本墨画淡彩・屏風	六曲一双	
3	丸木 スマ	(明治8・1875年～昭和31・1956年)	きのこ	昭和28・1953年	108.0×77.5	紙本彩色・軸装	1 幅	第38回院展
4	川崎 小虎	(明治19・1886年～昭和52・1977年)	仔鹿の秋	昭和48・1973年	111.0×88.0	紙本彩色・額装	1 面	第5回改組日展
5	森谷南人子	(明治22・1889年～昭和56・1981年)	伯耆大山暮秋	昭和41・1966年	46.0×61.0	紙本彩色・額装	1 面	第17回広島県美術展
6	児玉 希望	(明治31・1898年～昭和46・1971年)	溪谷の秋	昭和18・1943年	153.5×69.0	絹本彩色・額装	1 面	第7回児玉画塾展
7	和高 節二	(明治31・1898年～平成2・1990年)	薪を入れる娘	昭和10・1935年	158.7×150.7	紙本彩色・屏風	二曲一隻	第1回再興中央美術展
8	和高 節二		柿	昭和12～13・1937～38年	53.0×63.0	紙本彩色・額装	1 面	
9	和高 節二		秋日和	昭和13・1938年	155.5×171.0	紙本彩色・屏風	二曲一隻	第1回現代美術展
10	和高 節二		柿	昭和37・1962年	89.0×113.7	紙本彩色・額装	1 面	第4回広島県在住代表美術家展
11	和高 節二		谷間でみたひと	昭和38・1963年	182.0×120.0	紙本彩色・額装	1 面	第6回新日展
12	和高 節二		柿	昭和44・1969年	57.7×79.0	紙本彩色・額装	1 面	
13	佐々木邦彦	(明治42・1909年～昭和47・1972年)	峠峰	昭和45・1970年	80.5×116.8	紙本彩色・額装	1 面	
14	奥田 元宋	(明治45・1912年～平成15・2003年)	焔	昭和36・1961年	130.0×190.0	紙本彩色・額装	1 面	第4回新日展
15	船田 玉樹	(大正元・1912年～平成3・1991年)	すすきの原の秋	昭和25・1950年	180.0×68.0	絹本彩色・額装	1 面	ソ連における現代日本美術展
16	船田 玉樹		秋意	昭和32・1957年	207.0×161.0	紙本彩色・額装	1 面	第42回院展
17	山中 雪人	(大正9・1920年～平成15・2003年)	七曜日	昭和33・1958年	各26.5×24.0	紙本彩色・額装	1面(7図)	
18	桑原 清明	(大正12・1923年～平成19・2007年)	巴峽の朝	昭和43・1968年	165.0×225.0	紙本彩色・額装	1 面	第11回新日展
19	其阿弥赫土	(大正14・1925年～)	晩秋の記録	昭和49・1974年	154.0×123.7	紙本彩色・額装	1 面	
20	平山 郁夫	(昭和5・1930年～平成21・2009年)	ひととき	昭和31・1956年	106.0×76.0	紙本彩色・額装	1 面	第11回春の院展
21	平山 郁夫		母子	昭和34・1959年	116.0×68.0	紙本彩色・額装	1 面	第14回春の院展
22	平山 郁夫		みのり	昭和36・1961年	152.0×60.0	紙本彩色・額装	1 面	第16回春の院展

歴史を彩る人々 平成24年1月2日(月・振)～2月12日(日)

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質・形状	員数	出品歴
1			厳島・鞍馬図	江戸時代	各153.5×340.0	絹本彩色・屏風	六曲一双	
2	松本 楓湖	(天保11・1840年～大正12・1923年)	天照大神と須佐之男命	明治41・1908年	164.0×75.0	絹本彩色・軸装	1 幅	
3	横山 大観	(明治元・1868年～昭和33・1958年)	井筒	明治30・1897年	135.6×83.5	紙本彩色・軸装	1 幅	
4	田中 頼璋	(明治元・1868年～昭和15・1940年)	唐美人図		224.0×93.0	紙本彩色・軸装	1 幅	
5	内畠 暁園	(明治7・1874年～大正6・1917年)	異国人物図		199.1×142.0	絹本彩色・額装	1 面	
6	橋本 静水	(明治9・1876年～昭和18・1943年)	一休禅師	大正7・1918年頃	138.0×50.7	絹本彩色・軸装	1 幅	

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質・形状	員数	出品歴
7	甲斐莊楠音	(明治27・1894年～昭和53・1978年)	横櫛	大正7・1918年	165.0×72.0	絹本彩色・額装	1面	第1回国画創作協会展
8	福田 恵一	(明治28・1895年～昭和31・1956年)	イスパニアに寄る常長	大正12・1923年	111.3×115.8	絹本彩色・軸装	1幅	日本美術展
9	福田 恵一		千利休	昭和17・1942年頃	41.0×52.0	絹本彩色・軸装	1幅	
10	児玉 希望	(明治31・1898年～昭和46・1971年)	荊軻	昭和14・1939年	各153.5×69.0	絹本彩色・額装	2面	第10回戊辰会展
11	児玉 希望		景清	昭和17・1942年	各209.5×77.0	絹本彩色・額装	2面	第5回新文展
12	児玉 希望		涅槃	昭和38・1963年	156.0×150.5	絹本彩色・額装	1面	第6回新日展
13	児玉 希望		降魔	昭和44・1969年	200.5×167.0	絹本彩色・額装	1面	第1回改組日展
14	益井三重子	(明治43・1910年～平成22・2010年)	大原女踊り	昭和47・1972年	169.3×214.5	紙本彩色・額装	1面	第57回院展
15	奥田 元宋	(明治45・1912年～平成15・2003年)	泉響	昭和38・1963年	259.1×193.9	紙本彩色・額装	1面	第6回新日展
16	山中 雪人	(大正9・1920年～平成15・2003年)	七曜日	昭和33・1958年	各26.5×24.0	紙本彩色・額装	1面(7図)	
17	平山 郁夫	(昭和5・1930年～平成21・2009年)	ひととき	昭和31・1956年	106.0×76.0	紙本彩色・額装	1面	第11回春の院展
18	平山 郁夫		天山南路 (昼)	昭和35・1960年	164.2×218.8	紙本彩色・額装	1面	
19	平山 郁夫		受胎霊夢	昭和37・1962年	179.5×178.8	紙本彩色・額装	1面	第47回院展

春を待つ 平成24年2月14日(火)～4月15日(日)

No	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質・形状	員数	出品歴等
1	竹内 栖鳳	(元治元・1864年～昭和17・1942年)	寒林帰牧図		各166.7×370.8	絹本墨画淡彩・屏風	六曲一雙	
2	田中 頼璋	(明治元・1868年～昭和15・1940年)	雪溪山水図	大正6・1917年頃	233.0×100.0	絹本彩色・軸装	1幅	
3	川合 玉堂	(明治6・1873年～昭和32・1957年)	溪村春麓図	明治40・1907年	150.5×85.0	絹本墨画彩色・額装	1面	
4	丸木 スマ	(明治8・1875年～昭和31・1956年)	椿のころ	昭和29・1954年	106.0×136.3	紙本彩色・額装	1面	
5	森谷南人子	(明治22・1889年～昭和56・1981年)	初春閑村	昭和13・1938年	116.0×195.0	紙本彩色・額装	1面	第2回新文展
6	福田平八郎	(明治25・1892年～昭和49・1974年)	雪の日	昭和7・1932年	144.0×50.4	紙本彩色・軸装	1幅	第1回六潮会展
7	猪原 大華	(明治30・1897年～昭和55・1980年)	椿	昭和42・1967年	115.0×72.0	紙本彩色・額装	1面	高島屋個展
8	猪原 大華		白梅	昭和43・1968年	203.2×134.7	紙本彩色・額装	1面	第11回新日展
9	片田 天玲	(明治30・1897年～昭和60・1985年)	二月	昭和41・1966年	160.0×360.0	紙本彩色・屏風	六曲一雙	
10	児玉 希望	(明治31・1898年～昭和46・1971年)	浅春	昭和5・1930年	266.0×176.0	絹本彩色・額装	1面	
11	児玉 希望		山とよむ	昭和7・1932年	257.0×175.0	絹本彩色・額装	1面	第13回日展
12	和高 節二	(明治31・1898年～平成2・1990年)	みやまの女	昭和6・1931年	221.5×228.6	紙本彩色・屏風	二曲一雙	
13	和高 節二		村の子供	昭和8・1933年	177.5×184.6	紙本彩色・屏風	二曲一雙	昭和8年度日本画会展
14	大島 祥丘	(明治40・1907年～平成8・1996年)	段園宿雪	昭和42・1967年	194.0×112.0	紙本彩色・額装	1面	東丘社展
15	奥田 元宋	(明治45・1912年～平成15・2003年)	泉響	昭和38・1963年	259.1×193.9	紙本彩色・額装	1面	第6回新日展
16	梶谷 竹水	(明治45・1912年～平成18・2006年)	野梅	昭和42・1967年	180.0×121.0	紙本彩色・額装	1面	第7回日本南画院展
18	船田 玉樹	(大正元・1912年～平成3・1991年)	雪の灯ともし頃	昭和25・1950年	180.0×68.0	絹本彩色・額装	1面	ソ連における現代日本美術展
17	佐藤 太清	(大正2・1913年～平成16・2004年)	東大寺暮雪	昭和50・1975年	223.0×168.0	紙本彩色・額装	1面	第7回改組日展
19	善 鳩人	(大正5・1916年～平成元・1989年)	巢 (冬壁)	昭和36・1961年	141.0×180.0	紙本彩色・額装	1面	
20	平山 郁夫	(昭和5・1930年～平成21・2009年)	内海の春	昭和29・1954年	145.0×208.0	紙本彩色・額装	1面	第39回院展
21	平山 郁夫		ひととき	昭和31・1956年	106.0×76.0	紙本彩色・額装	1面	第11回春の院展

第4室

焼き物の諸相～館蔵品でつづる日本陶磁紀行～ 平成23年4月12日(火)～7月3日(日)

特別展示「柿右衛門様式の優品」

No	作品名	制作年	寸法(cm)	材質等	員数
1	重要文化財伊万里色絵花卉文輪花鉢(柿右衛門様式)	江戸時代(17世紀後半)	口径24.4	磁器・色絵	1口
2	伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代(17世紀後半)	高44.0	磁器・色絵	1軀
3	伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代(17世紀後半)	高45.0	磁器・色絵	1軀

No	作品名	生没年	作品名	制作年	法量	材質等	員数	出品歴
1	加守田 章二	(1933・昭和8～1983・昭和58)	彩色壺	1971・昭和46	径25×高14	陶器	1口	
2	加守田 章二		炆筒	1968・昭和43頃	径34.7×高36.5	陶器	1口	
3	加守田 章二	(1927・昭和2～2003・平成15)	曲線彫文扁壺	1970・昭和45	奥行10×幅20×高27.1	陶器	1口	
4	松井 康成		練上茜手大壺	1988・昭和63	径32×高35	陶器	1口	
5	松井 康成	(1918・大正7～1987・昭和62)	練上華小紋屋形陶管	1990・平成2	22.2×29.8×19	陶器	1合	
6	田村 耕一		椿文壺	1978・昭和53	径23×高19	陶器	1口	
7	田村 耕一	(1894・明治27～1978・昭和49)	竹林に鶯図大皿	19・昭和60	径48×高10.5	陶器	1口	
8	浜田 庄司	(1883・明治16～1959・昭和34)	黒釉鑄流描大鉢	昭和30年代後半	径47.0 高13.8	陶器	1口	
9	北大路 魯山人		織部 不老長春字花生	1958・昭和33	径13.8×高28.2	陶器	1口	
10	北大路 魯山人	(1900・明治33～1968・昭和43)	織部魚鱗文組板角鉢	1950・昭和25	20×43.5×4.9	陶器	1枚	
11	加藤 土師萌	(1916・大正5～2005・平成17)	倣明嘉靖黄地紅彩菊牡丹文角鉢	1954・昭和29	18.9×18.7×4.8	磁器	1枚	
12	加藤 舜陶	(1914・大正3～1990・平成2)	碧彩鉢	1974・昭和49	径57×高17.8	陶器	1口	
13	鈴木 青々	(1919・大正8～1986・昭和61)	彩光石花瓶		口径11.5×高52	陶器	1口	
14	河本 五郎	(1894・明治27～1985・昭和60)	色絵脚付器「撩乱」		33×28×36	磁器	1点	
15	荒川 豊蔵	(1912・大正元～1990・平成2)	黄瀬戸竹花入	1967・68・昭和42・43	口径12.5×高24.5	陶器	1口	
16	塚本 快示		青白磁牡丹文平鉢	1965・昭和40	径43.8×高9.7	磁器	1口	
17	塚本 快示	(1890・明治23～1966・昭和41)	白瓷輪花唐草文大鉢	1980・昭和55	径38.3×高5.2	磁器	1口	
18	河井 寛次郎		呉州辰砂鉄葉草花文蓋付小壺		径12.5×高17.2	陶器	1合	
19	河井 寛次郎		辰砂草花文扁壺		7.5×11.8×19.9	陶器	1口	
20	河井 寛次郎		白地丸紋草花図隅切鉢		32.9×32.9×8.7	陶器	1枚	
21	河井 寛次郎	(1897・明治30～1984・昭和59)	呉州丸紋鉢		径39.5×高8.1	陶器	1口	
22	楠部 彌弍	(1939・昭和14～)	緑釉向日葵花瓶	1955・昭和30	径39.2×高34	陶器	1口	第7回京展
23	笹山 忠保	(1922・大正11～)	風の標識	1979・昭和54	奥行67×幅31×高70	陶器	1点	
24	藤平 伸		銀彩鳥壺	1971・昭和46	13.2×14×32.4	陶器	1口	
25	藤平 伸	(1918・大正7～1979・昭和54)	壺	1975・昭和50	口径20.5×高20.6	陶器	1口	
26	八木 一夫		盲亀	1978・昭和53	38.5×30×8	陶器	1点	
27	八木 一夫	(1920・大正9～1985・昭和60)	ブラックエコー	1978・昭和53	奥行15×幅13.5×高40	陶器	1組	
28	熊倉 順吉	(1935・昭和10～)	笑いの稽古	1974・昭和49	奥行20×幅45×高52	陶器	1点	
29	川上 力三	(1896・明治29～1967・昭和42)	廃景	1984・昭和59	45×45×75	陶器	1点	
30	金重 陶陽	(1899・明治32～1983・昭和58)	備前耳付水指		径21.9×総高21.8	陶器	1合	
31	藤原 啓	(1949・昭和24～)	備前花入	1977・昭和52	径10.5×高23.6	陶器	1口	
32	樂吉左衛門	(1930・昭和5～)	茶碗	1992・平成4	径13×高11	陶器	1口	
33	今井 政之		象嵌彩窯変ぎざみ香炉	2001・平成13	径14.5×高12	陶器	1合	
34	今井 政之		苔泥彩漕花壺	1975・昭和50	径40×高42.7	陶器	1口	
35	今井 政之	(1915・大正4～1991・平成3)	象嵌彩信楽早春の芸予大壺	2000・平成12	径41×高30.5	陶器	1口	
36	吉賀 大眉	(1940・昭和15～)	花口花器「暁雲」	1974・昭和49	径31.5×高37	陶器	1口	
37	十二代 三輪 休雪	(1940・昭和15～)	面会人	1976・昭和51	奥行35×幅47×高43	陶器	1点	

広島にまつわる工芸作家

平成23年7月5日(火)～9月25日(日)

特別展示「柿右衛門様式の優品」

No	作品名	年代	寸法(cm)	材質	員数
1	伊万里柿右衛門様式 色絵馬	江戸時代(17世紀後半)	高45.0	磁器・色絵	1口
2	伊万里柿右衛門様式 色絵馬	江戸時代(17世紀後半)	高44.3	磁器・色絵	1軀
3	重要文化財 伊万里色絵花卉文輪花鉢(柿右衛門様式)	江戸時代(17世紀後半)	口径24.4 高11.5	磁器・色絵	1軀

No	作者	生没年	作品名	制作年代	寸法(cm)	材質など	員数
4	金城三代一國斎	(1829・文政12～1915・大正4)	菊雲鶴文食籠	1902・明治35	高13.7 径22.3	漆	1合
5	六角紫水	(1867・慶応3～1950・昭和25)	蒔絵草花菓子銘々盆	1911・明治44	高1.0 13.5×14.6	漆	10枚

No	作者	生没年	作品名	制作年代	寸法(cm)	材質など	員数
6	清水 南山	(1875・明治8～1948・昭和23)	波に龍文水瓶	1937・昭和12	高33.0 径13.0	銀・彫金	1合
7	藤本初代陶津	(1875・明治8～1967・昭和42)	碧耀彩花瓶	1956・昭和31	高24.0 口径16	陶器	1口
8	迦洞 無坪	(1891・明治24～1947・昭和22)	聖徳太子摂政像	1941・昭和16	高44.5 長辺32.0	陶器	1体
9	田中 一米	(1894・明治27～1945・昭和20)	黒楽焼耳付花入	1940・昭和15	高20.3 径10.0	陶器	1口
10	林万寿人	(1896・明治29～1985・昭和60)	鑄造四方花瓶	1970・昭和45	高18.3 31.3×41.0	銅	1口
11	高中惣六	(1899・明治32～1974・昭和49)	乾漆菓子器	1971・昭和46	高8.0 径26.0	乾漆・螺鈿	1合
12	小松初代寿山	(1902・明治35～1991・平成3)	黒壇拭漆盆	1978・昭和53	高6.5 口径40.5	黒檀	1枚
13	金城五代一國斎	(1906・明治39～1991・平成3)	高盛絵四季寄花硯箱	1980・昭和55	高27.0 23.0×4.7	漆	1合
14	花房 花子	(1908・明治41～1999・平成11)	紅象	1966・昭和41	135.0×92.0	染・額装	1点
15	藤本 肇(二代陶津)	(1914・大正3～2001・平成21)	器「泥彩」	1968・昭和43	高60.0 口径20.0	陶器	1口
16	門田 篁玉	(1916・大正5～)	変形広口花器	1979・昭和54	高35.9 38.5×27.0	竹	1口
17	杉谷 富代	(1924・大正13～)	滯船	1969・昭和44	166.0×96.0	染・額装	1点
18	小林健一郎	(1924・大正13～)	櫛丸盆	1987・昭和62	高4.2 径40.0	櫛	1枚
19	栗根昭二郎	(1925・大正14～)	七宝菓子器「游」	1979・昭和54	高6.5 径17.0	ガラス・銀	1合
20	高中隆二	(1926・昭和元～)	乾漆花瓶	1967・昭和42	高35.7 28.0×45.0	漆	1口
21	西本 瑛泉	(1928・昭和3～)	縄文真如	1982・昭和57	高20.3 径10.0	陶器	1口
22	小松二代寿山	(1926・昭和4～)	松丸盆	1980・昭和55	高4.0 径45.0	松	1枚
23	今井 政之	(1930・昭和5～)	泥彩魚文壺	1974・昭和49	高54.6 口径8.2	陶器	1口
24	皿谷 緋佐子	(1930・昭和5～)	野菜文壺	1975・昭和50	高39.0 胴径37.8	陶器	1口
25	藤川 素子	(1931・昭和6～)	始元	1971・昭和46	220.0×81.0	ビロード・ベニヤ板張	1点
26	山根 寛斎	(1933・昭和8～2010・平成22)	玉椿空彩箱	1990・平成2	高18.6 31.0×15.2	玉椿・神代櫛	1合
27	伊藤 顕	(1936・昭和11～1969・昭和44)	種子	1966・昭和41	168.0×110.0	銅・鍍金	1点
28	高橋 通子	(1936・昭和11～)	紫陽花文花瓶	1984・昭和59	高15.7 径15.5	ガラス・銀	1口
29	奥田 小由女	(1936・昭和11～)	孤愁	1975・昭和50	高33.5 82.0×44.5	木・桐粉・胡粉	1体
30	渡辺 溥子	(1938・昭和13～)	紬織着物「月影」	1999・平成11	桁68.0 丈171.5	絹・紬・経緯緋	1領
31	木村 芳郎	(1946・昭和21～)	碧釉蹄篋文鉢	1989・平成元	高13.0 径71.0	陶器	1口
32	山下 了是	(1946・昭和21～)	釣山涼々	1979・昭和54	180.0×170.0	染・額装	1点

騎馬の民・トルクメン人の世界一装身具と民族衣装

平成23年9月27日(火)～12月25日(日)

特別展示：柿右衛門様式の優品

No	作品名	制作年代	寸法(cm)	材質など	員数
1	重要文化財 伊万里色絵花卉文輪花鉢（柿右衛門様式）	江戸時代 17世紀後半	口径24.4、高11.5	磁器、色絵	1口
2	伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代 17世紀後半	高45.0	磁器、色絵	1軀
3	伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代 17世紀後半	高44.3	磁器、色絵	1軀

No	制作地または民族名	作品名	制作年代	寸法(cm)	材質など	員数
4	テケ族、トルクメン人	女性用被衣(チルピ)	19世紀	総丈126.0	絹、絹刺繍、裏に木綿	1領
5	テケ族、トルクメン人	女性用被衣(チルピ)	19世紀	総丈125.0	絹、絹刺繍、裏に木版木綿	1領
6	テケ族、トルクメン人	女性用被衣(チルピ)	19世紀	総丈124.0	絹、絹刺繍、裏に木版木綿	1領
7	テケ族、トルクメン人	女性用被衣(チルピ)	1920年頃	総丈125.0	木綿、刺繍	1領
8	テケ族、トルクメン人	女性用被衣(チルピ)	20世紀	総丈111.5	木綿、刺繍	1領
9	テケ族、トルクメン人	女性用被衣(チルピ)	20世紀	総丈122.0	木綿、刺繍	1領
10	テケ族、トルクメン人	外衣	1900年頃	丈115.2	絹	1領
11	ヨムート族、トルクメン人	女性用外衣	1900年頃	丈115.5	絹	1領
12	ヨムート族、トルクメン人	女性用外衣	19世紀	丈95.9	木綿	1領
13	ヨムート族、トルクメン人	女性用上衣(コイネク)	1930年以前	丈122.5	絹	1領
14	ヨムート族、トルクメン人	女性用上衣(コイネク)	1930年以前	丈120.5	絹、見返しプリント木綿	1領
15	テケ族、トルクメン人	女性用上衣(コイネク)	1930年以前	丈148.7	絹	1領

No	制作地または民族名	作品名	制作年代	寸法(cm)	材質など	員数
16	ヨムート族、トルクメン人	男性用上衣	1900年頃	丈66.1	絹、麻	1 領
17	ヨムート族、トルクメン人	男性用上衣	19世紀	丈65.4	絹、絹刺繍、見返しプリント木綿	1 領
18	ヨムート族、トルクメン人	女性用脚衣	19世紀	丈81.4	絹、木綿	1 枚
19	ヨムート族、トルクメン人	刺繍裂(女性用脚衣)	19世紀	丈40.7	絹、絹刺繍、木綿	1 対
20	テケ族、トルクメン人	女性用革靴	1900年頃	長25	革	1 足
21	テケ族、トルクメン人	花嫁用頭飾り	19世紀前半	高31.0	銀、鍍金、カーネリアン	1 点
22	北ヨムート族、トルクメン人	花嫁用頭飾り	19世紀前半	高17.0(下げ飾り除く)	銀、鍍金、カーネリアン	1 点
23	北ヨムート族、トルクメン人	花嫁用頭飾り	1923/24(ヒジュラ暦1342)年	高14.7(下げ飾り除く)	銀、鍍金、ガラス	1 点
24	ヨムート族、トルクメン人	未婚女性用帽子(グッパ)	19-20世紀	高15.5、径18.0	銀、鍍金、カーネリアン、絹布	1 点
25	テケ族、トルクメン人	未婚女性用帽子飾り(グッパ)	19世紀中期	高8.5	銀、鍍金、カーネリアン	1 点
26	ジャファバイ・ヨムート族、トルクメン人	未婚女性用帽子飾り(グッパ)	19世紀後半	径32.5	銀	1 点
27	テケ族、トルクメン人	頭飾り(オウルメ)	19世紀中期	幅40.0	銀	1 連
28	エルサリ族、トルクメン人	頭飾り(イルディルジチュ)	19世紀前半	幅39.0	銀、カーネリアン	1 点
29	テケ族、トルクメン人	頭飾り(マンライリク)	19世紀後期	幅50.0	銀	1 連
30	西ヨムート族、トルクメン人	頭飾り(サンジャリク)	19世紀前半	幅42.0	銀、鍍金、カーネリアン	1 点
31	西ヨムート族、トルクメン人	頭飾り(サンジャリク)	19世紀中期	幅40.0	銀、鍍金、カーネリアン	1 点
32	西ヨムート族、トルクメン人	頭飾り(ジャンナ)	19世紀中期	幅35.0	銀	1 対
33	エルサリ族または北ヨムート族、トルクメン人	頭飾り(シンシレ)	19世紀前半	幅32.0	銀	1 連
34	エルサリ族、トルクメン人	頭飾り(シンシレ)	19-20世紀	高40.0、幅37.0	銀	1 連
35	西ヨムート族、トルクメン人	こめかみ飾り(アダムリク)	19世紀初期	長39.0	銀、鍍金、カーネリアン	1 対
36	エルサリ族、トルクメン人	こめかみ飾り(テネチル)	19世紀初期	長57.0、59.0	銀、カーネリアン	1 対
37	テケ族、トルクメン人	こめかみ飾り(テネチル)	19世紀中期	長26.0	銀	1 対
38	ジャファバイ・ヨムート族、トルクメン人	耳飾り(グラク・ハルカ)	19-20世紀	高8.0、9.5	銀	4 対
39	ジャファバイ・ヨムート族、トルクメン人	耳飾り(グラク・ハルカ)	19世紀後期	径9.5	銀	1 対
40	ヨムート族、トルクメン人	耳飾り(グラク・ハルカ)	18-19世紀	径8.0	銀	1 対
41	西ヨムート族、トルクメン人	耳飾り(グラク・ハルカ)	18世紀	径6.1	銀、トルコ石またはガラス	1 対
42	テケ族、トルクメン人	首胸飾り(ブカウ)	19世紀後半	幅24.0	銀、鍍金、カーネリアン	1 組
43	チョレスム族、トルクメン人	首胸飾り(ブカウ)	19世紀中期	高28.0、幅19.0	銀、カーネリアン、トルコ石	1 連
44	北ヨムート族、トルクメン人	首胸飾り(ブカウ)	19世紀中期	幅15.0	銀	1 組
45	テケ族、トルクメン人	首胸飾り(ブカウ)	19世紀後半	高6.0、幅15.0	銀	1 組
46	テケ族、トルクメン人	護符入れ(ヘイケル)	18世紀	幅11.0	銀、鍍金、カーネリアン、革	1 点
47	テケ族、トルクメン人	護符入れ(ヘイケル)	19世紀初期	幅11.0	銀、鍍金、カーネリアン、革	1 点
48	テケ族またはヨムート族、トルクメン人	護符入れ(クムシュドガ)	18-19世紀	幅12.0	銀	1 点
49	ヨムート族またはテケ族、トルクメン人	護符入れ(クムシュドガ)	19世紀中期	幅16.0	銀	1 点
50	西ヨムート族、トルクメン人	護符入れ(クムシュドガ)	19-20世紀	幅9.2	銀、鍍金、トルコ石、ガラス	1 点
51	テケ族、トルクメン人	胸飾り(ボズベント)	18世紀	径8.0	銀、鍍金、カーネリアン	1 枚
52	テケ族、トルクメン人	胸飾り	19世紀中期	径11.0	銀、鍍金、カーネリアン	1 枚
53	ジャファバイ・ヨムート族、トルクメン人	飾りボタン(グルヤカ)	1924/25(ヒジュラ暦1343)年	径13.0	銀、鍍金、ガラス	1 点
54	テケ族、トルクメン人	胸飾り(ゴンジュク)	18世紀	幅20.0	銀	1 枚
55	テケ族、トルクメン人	胸飾り(ゴンジュク)	19-20世紀	幅19.0	銀、鍍金、トルコ石またはガラス	1 点
56	テケ族または北ヨムート族、トルクメン人	胸飾り(ゴンジュク)	18世紀	幅28.0	銀	1 枚
57	テケ族、トルクメン人	護符入れ(トゥマル)	18世紀後半	幅27.0	銀、鍍金、カーネリアン	1 点
58	西ヨムート族、トルクメン人	護符入れ(トゥマル)	18世紀後半	幅27.0	銀	1 点
59	西ヨムート族、トルクメン人	護符入れ(トゥマル)	18世紀	幅25.0	銀、鍍金、カーネリアン	1 点
60	サルイク族、トルクメン人	護符入れ(トゥマル)	19世紀前半	幅17.5	銀、鍍金、カーネリアン、ガラス	1 点
61	サルイク族、トルクメン人	留め飾り(チャブラズ)	19世紀前半	幅24.0	銀	1 対
62	ヨムート族、トルクメン人	留め飾り(チャブラズ)	19世紀後半	幅22.0	銀	1 対
63	テケ族、トルクメン人	背飾り(アシク)	1806/07(ヒジュラ暦1221)年	高26.5	銀、鍍金、カーネリアン	1 枚
64	ヨムート族、トルクメン人、ブハラ	背飾り(アシク)	19世紀前半	高22.0	銀、鍍金、カーネリアン、革	1 枚
65	ヨムート族、トルクメン人、イラン	背飾り(アシク)	19-20世紀	高22.0	銀、鍍金、カーネリアン	1 枚

No	制作地または民族名	作品名	制作年代	寸法(cm)	材質など	員数
66	ジャファバイ・ヨムート族、トルクメン人	背飾り(アシク)	19-20世紀	高21.5	銀、鍍金、カーネリアン	1面
67	サルイク族、トルクメン人	背飾り(アシク)	19世紀中期	高21.5	銀	1枚
68	北ヨムート族、トルクメン人	背飾り(アシク)	19世紀初期	高11.0	銀、鍍金、カーネリアン	1対
69	トルクメン人	背飾り(アシク)	19世紀後半	高5.5、幅5.0	銀	1枚
70	テケ族、トルクメン人	背飾り(ゴシヤ・アシク)	1907/08(ヒジュラ暦1325)年	高15.0	銀、鍍金、カーネリアン	1枚
71	ジャファバイ・ヨムート族、トルクメン人	背飾り(サチュリク)	19世紀初期	長54.5	銀、鍍金、カーネリアン、ガラス	1枚
72	ジャファバイ・ヨムート族、トルクメン人	背飾り(サチュモンジュク)	19世紀前半	長54.5	銀	1枚
73	テケ族、トルクメン人	腕飾り(ビレジク)	1907/08(ヒジュラ暦1325)年	高18.5	銀、鍍金、カーネリアン	1対
74	テケ族、トルクメン人	腕飾り(ビレジク)	19世紀中期	高9.7	銀、鍍金、カーネリアン	1対
75	ヨムート族、トルクメン人、イラン	腕飾り(ビレジク)	19世紀中期	高5.9	銀、鍍金、カーネリアン	1対
76	エルサリ族、トルクメン人	腕飾り(ビレジク)	19-20世紀	高1.7	銀	1対
77	トルクメン人、アフガニスタン北部	腕飾り(ビレジク)	19世紀中期	高4.5	銀、ガラス	1対
78	オラム族、トルクメン人	腕飾り(ビレジク)	19世紀中期	高8.6	銀	1対
79	トルクメン人	指輪(ユズユク)	19世紀	径2.4	銀、カーネリアン	1点
80	トルクメン人	指輪(ユズユク)	19世紀	径2.4	銀、カーネリアン	1点
81	トルクメン人	指輪(ユズユク)	19世紀	径2.2	銀、カーネリアン	1点
82	トルクメン人	指輪(ユズユク)	19世紀	径2.1	銀、カーネリアン	1点
83	トルクメン人	指輪(ユズユク)	19世紀-20世紀初頭	最大のもの 径2.2	銀、鍍金、カーネリアン、ガラス	11点
84	トルクメン人	指輪(ユズユク)	19-20世紀	最大のもの 径2.2 長3.8	銀、鍍金、カーネリアン	2点1対
85	サルイク族、トルクメン人	指輪(ユズユク)	19世紀	最大のもの 径2.2	銀、カーネリアン	4点
86	テケ族、トルクメン人	指輪(ユズユク)	19世紀後期	径2.2 長5.9	銀、鍍金、カーネリアン、ガラス	1点
87	テケ族、トルクメン人	指輪(ユズユク)	19世紀	最大のもの 径2.2	銀、鍍金、カーネリアン、ガラス	5点
88	トルクメン人、アフガニスタン北部	指輪(ユズユク)	19世紀	最大のもの 径2.6	銀、鍍金、カーネリアン、ガラス	6点
89	ジャファバイ・ヨムート族、トルクメン人	指輪(キュケンリ・ユズユク)	19世紀中期	径2.4 長20	銀、鍍金、カーネリアン	1連
90	エルサリ族、トルクメン人	指輪(キュケンリ・ユズユク)	19世紀後期	径2.4 長15	銀、カーネリアン	1連
91	エルサリ族またはヨムート族、トルクメン人	指輪(キュケンリ・ユズユク)	19世紀前半	最大のもの 径2.2 長32	銀、ガラス	1対
92	ヨムート族、トルクメン人	指輪(キュケンリ・ユズユク)	19-20世紀	最大のもの 径2.2 長18	銀、カーネリアン	1対
93	エルサリ族、トルクメン人	手飾り(キュケンリ・ユズユク)	20世紀初期	径2.4 装飾板6×5	銀、カーネリアン、ガラス	1連
94	テケ族、トルクメン人	男児用背飾り	19世紀	幅14.5	銀、鍍金、カーネリアン、トルコ石	1点
95	テケ族、トルクメン人	男児用下げ飾り	19-20世紀	長22.7	銀	1点
96	ジャファバイ・ヨムート族、トルクメン人	男児用背飾り(オク・ヤイ)	20世紀初期	高23.5、幅22.3	銀	1点
97	ヨムート族、トルクメン人または北部アフガニスタン	女性用頭布(グイナーチ)	20世紀	243.0×220.2	絹	1枚
98	ヨムート族、トルクメン人または北部アフガニスタン	女性用頭布(グイナーチ)	20世紀	196.5×203.0	絹	1枚
99	エルサリ族、トルクメン人	刺繍靴	19世紀中期	15.9×10.2	絹刺繍、裏にプリント木綿	1枚
100	テケ族、トルクメン人	刺繍靴	19世紀	19.6×11.3	刺繍	1枚
101	エルサリ族、トルクメン人	刺繍靴	19世紀	14.1×9.6	木綿布、絹刺繍	1枚
102	ヨムート族、トルクメン人	刺繍靴	19世紀	55.2×37.0	刺繍	1枚
103	ヨムート族、トルクメン人	刺繍靴	20世紀初頭	15.3×10.2	刺繍	1枚
104	テケ族、トルクメン人	花嫁用頭飾り(エグメ)	19世紀中期	幅23.0	銀、鍍金、カーネリアン、絹布、木版木綿	1点
105	テケ族、トルクメン人	護符入れ(トゥマル)	19世紀中期	幅29.0	銀、鍍金、カーネリアン	1点
106	西ヨムート族、トルクメン人	護符入れ(クムシユドガ)	19世紀中期	幅7.0	銀、鍍金、色ガラス	1点
107	北ヨムート族またはテケ族、トルクメン人	首胸飾り(ブカウ)	18世紀	幅15.0	銀	1組
108	北ヨムート族またはテケ族、トルクメン人	首胸飾り(ブカウ)	19世紀初期	幅15.0	銀	1組
109	西ヨムート族、トルクメン人	首胸飾り(ブカウ)	19世紀中期	幅16.0	銀、鍍金、カーネリアン	1組
110	ヨムート族、トルクメン人、イラン	首胸飾り(ブカウ)	19世紀前半	幅11.5	銀、鍍金、カーネリアン、色ガラス	1点
111	エルサリ族、トルクメン人	護符入れ(ボズベント)	19世紀前半	高4.0、幅14.0	銀	1点
112	エルサリ族、トルクメン人	護符入れ(ボズベント)	18世紀	高2.5、幅9.5	銀	1点

岩崎博染織コレクション受贈記念 シルクロードをめぐる布の旅 平成24年1月2日(月・振)～4月15日(日)

No	制作地または採集地	作品名	制作年代	寸法(cm)	材質など	員数
1	イエメン	多色経縞布	19～20世紀	175×120	木綿	1枚
2	イラン	ペイズリー文金銀更紗	19世紀	193×157	木綿 金銀彩	1枚
3	イラン	子ども用札拝布(ジャイナマズ)	19～20世紀	50×42	木綿 木版	1枚
4	イラン	子ども用札拝布(ジャイナマズ)	19～20世紀	51.5×41.5	木綿 木版	1枚
5	イラン	円形更紗	20世紀	径114	木綿 木版	1枚
6	イラン	樹木に鳥文刺繍裂	18～19世紀	85×45	絹 刺繍 スパンコール	1枚
7	イラン	毛織錦	19～20世紀	88×98	羊毛	1枚
8	ウズベキスタン	刺繍布(スザニ)	19～20世紀	197×130	木綿 絹刺繍	1枚
9	ウズベキスタン	刺繍布(スザニ)	19～20世紀	215×157	木綿 絹刺繍	1枚
10	ウズベキスタン	刺繍布(スザニ)	19～20世紀	249×196	木綿 絹刺繍	1枚
11	ロシア	花卉文更紗	19～20世紀	78×83.5	木綿	1枚
12	インド	クリシュナ文更紗	19～20世紀	170×106	木綿 手描 雲母	1枚
13	インド	花文金糸織布	19～20世紀	75×76.5	絹 金糸織	1枚
14	インド	小花文更紗	18世紀	274×95	木綿 手描 媒染防染	1枚
15	インド	更紗裂	18～19世紀初	44×46.5	木綿 手描 媒染防染	1枚
16	インド	ターバン(モトゥラ)	19～20世紀	幅19.5	木綿 巻き絞り	1枚
17	インド、グジャラート	ミラー刺繍布	19～20世紀	78×43	木綿 刺繍 ミラー	1枚
18	インド、グジャラート	ミラー刺繍布	19～20世紀	80×45	木綿 刺繍 ミラー	1枚
19	インド、グジャラート	ミラー刺繍布	19～20世紀	78×42	木綿 刺繍 ミラー	1枚
20	インド、グジャラート	ミラー刺繍布	19～20世紀	85×47	木綿 刺繍 ミラー	1枚
21	インド、グジャラート	格子文ミラー刺繍布	20世紀	180×127	木綿 刺繍 ミラー	1枚
22	インド、グジャラート	ミラー刺繍飾り布	19～20世紀	52.5×92	木綿 刺繍 ミラー	1枚
23	インド、グジャラート	刺し子袋	19～20世紀	82.5×57	木綿 刺繍	1枚
24	ミャンマー	緯緋布	19～20世紀	273×85.5	絹 緯緋	1枚
25	ミャンマー／チベット	タンカ	18～19世紀	97×49	絹 手描き	1枚
26	ラオス	蝶文布	19～20世紀	656×20	絹 縫取織	1枚
27	ラオス	鳥文布	19～20世紀	640×23	絹 縫取織	1枚
28	タイ	金糸織布	19～20世紀	283×86	絹 金糸	1枚
29	インドネシア	経緋布	19～20世紀	151×119	木綿 経緋	1枚
30	インドネシア	緯緋金糸織布	19～20世紀	301×57.5	絹 緯緋 金糸	1枚
31	インドネシア	カイン・パンジャン	19～20世紀	212×89	木綿 バティック	1枚
32	インドネシア	カイン・パンジャン	19～20世紀	195×90	木綿 バティック	1枚
33	中国	刺繍袋	19～20世紀	11×11.5 全長34	絹 刺繍	1枚
34	中国、雲南	刺繍帯	19～20世紀	157×12	木綿 刺繍 金属	1枚
35	中国、雲南	刺繍帯	19～20世紀	146×12	木綿 刺繍 金属	1枚
36	中国、雲南	刺繍帯	19～20世紀	158×11	木綿 刺繍 金属	1枚
37	中国、雲南	刺し子袋	19～20世紀	40×59	木綿 刺し子	1枚
38	朝鮮半島	白地印金布	19～20世紀	160×15.5	絹 印金	1枚
39	朝鮮半島	朱地印金布(アブテンギ)	19～20世紀	93×7	絹 印金	1枚
40	朝鮮半島	朱地印金布(トウラクテンギ)	19～20世紀	94×22.5	絹 印金	1枚

海のシルクロードを渡った日本の磁器と漆器

No	作品	制作年代	寸法(cm)	材質など	員数
41	草花蒔絵螺鈿書見台	桃山～江戸初期	高34.0 幅32.3	木 漆 蒔絵 螺鈿	1基
42	鮫皮張草花獣蒔絵螺鈿大筆筒	桃山～江戸初期	89.0×65.0×52.0	木 漆 鮫革 蒔絵 螺鈿	1棹
43	重要文化財 伊万里色絵花弁文輪花鉢(柿右衛門様式)	江戸時代 17世紀後半	口径24.4、高11.5	磁器 色絵	1口
44	伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代 17世紀後半	高45.0	磁器 色絵	1軀
45	伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代 17世紀後半	高44.3	磁器 色絵	1軀

Ⅲ 普及活動

1 ネットワーク美術館展

児玉希望と広島ゆかりの日本画家展

会 期／平成23年12月2日(金)～平成24年1月9日(月・祝)

休 館 日／12月14日(水)、年末年始(12月26日～1月1日)

会 場／奥田元宋・小由女美術館

(〒728-0023 三次市東酒屋町453-6)

主 催／奥田元宋・小由女美術館、広島県立美術館

共 催／中国新聞社、中国放送

後 援／広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、

広島エフエム放送、

三次ケーブルビジョン、三次市、三次市教育委員会

入 館 料／一般 800(700)円 ペアチケット 1,500円

高大生 400(300)円

中学生以下無料

※()内は20名以上の団体及び前売り

入館者数／3,013人(うち児童生徒数179人)



「広島県美術館ネットワーク」加盟館と広島県立美術館が協同し、県立美術館が所蔵する美術作品を、地域の身近な美術館で鑑賞する機会を提供するとともに、鑑賞学習キットを活用した児童・生徒の団体鑑賞の開催等により、学校による美術館の利用を促進し、地域と美術館及び学校との連携を深めることを目的として開催した。本展では、奥田元宋の師である児玉希望の作品を中心に、広島県出身の日本画家の作品を当館所蔵作品の中から選定。ふるさとの生んだ巨匠の作品を交えながら現代日本画の流れをわかりやすく示すことにより、県民の身近な芸術家への理解を深め、郷土の芸術・文化への関心と誇りを高める契機となるよう配慮した。

(本展担当者：永井 明生)

関連事業

(1) 団体学習鑑賞会

12月19日(月)	13:45～15:15	三次市立甲奴小学校6年生	(16人)
12月20日(火)	13:45～15:15	三次市立甲奴小学校5年生	(14人)
12月21日(水)	10:00～11:40	三次市立八幡小学校全校児童	(32人)

(2) ギャラリー・トーク

一般来館者を対象とする当館学芸員による作品解説会

12月11日(日) 11:00～、14:00～



その他

ガイドブック 作品鑑賞の参考となるガイドブックを作成し、会場等で配布する。

(A5判8ページ 3,000部)



2 第63回広島県美術展

この展覧会は「広く県民から美術作品を公募し、優れた作品を展示することにより、創作活動の振興を図るとともに、鑑賞の機会を提供し、もって芸術文化の向上に資すること」を目的に、昭和24年以来開催している。第63回展では、応募点数1,285点のうち499点が入選。うち、受賞作品55点（大賞7点、優秀賞12点、奨励賞36点）。

主催
広島県

共催
尾道市教育委員会／三原市／福山市教育委員会／庄原市教育委員会／世羅町教育委員会／三次市教育委員会／安芸高田市教育委員会／府中市教育委員会／中国新聞社

後援
NHK広島放送局／中国放送／広島テレビ／広島ホームテレビ／テレビ新広島／広島エフエム放送／FMちゅーピー76.6MHz／エフエムふくやま／尾道エフエム放送／FMはつかいち76.1MHz

開催会場、期間および観覧者数

市町名	会 場	会 期	観覧者数
広島市（中央展）	広島県立美術館	7月19日(火)～7月31日(日)	6,884人
尾道市	尾道市御調文化会館大ホール	8月10日(水)～8月14日(日)	390人
三原市	三原リージョンプラザ展示ホール	8月17日(水)～8月21日(日)	682人
福山市	ふくやま美術館	8月24日(水)～8月28日(日)	1,759人
庄原市	庄原市田園文化センター	8月31日(水)～9月4日(日)	296人
世羅町	世羅町せら文化センター	9月7日(水)～9月11日(日)	334人
三次市	美術館あーとあい・きさ	9月14日(水)～9月18日(日)	302人
安芸高田市	安芸高田市民文化センター	9月21日(水)～9月25日(日)	1,017人
府中市	府中市生涯学習センター	9月28日(水)～10月2日(日)	535人

合計 12,199人

入 賞 者 名 簿

絵 画 系	◎灰 谷 眞由美	◎石 崎 将 浩	○加 藤 宣 也	○井 嶋 玲 和
	○馬 本 雅 文	○北 村 信 弘	栗 延 康 子	山 脇 初 子
	小 野 平 治	佐々木 詩 歩	藤 井 正 勝	佐々木 俊 明
	守 本 光 一	尾 川 積	松 浦 皆 子	友 澤 正
	前 田 珠 紀	上敷領 美津枝		
彫 塑 系	◎品 川 知 枝	○森 近 伸 男	金 崎 友里恵	三 澤 はじめ
	◎佐々木 し ず	○坂 木 節 夫	○馬 舩 宏 明	内 畠 志津子
	山 本 敏 之	三 浦 初 音	森 本 妙 子	池 田 恵 子
書 系	◎山 根 臥 遊	○木 本 孝 枝	○宍 道 一 陽	加 藤 眞利子
	開 原 ひろこ	徳 永 桜 仙	篠 崎 華 月	傳 五 美
	二 宮 悦 子	山 口 愛 子	横 段 洋 子	
写 真 系	◎渡 辺 紘 機	○長 束 晃	○清 水 潔 士	杉 森 義 人
	傳 道 秀 樹	寺 野 博 文	岡 本 定	田 部 昌 子
	佐 伯 育 郎	鹿 田 義 彦		
デザイン系	◎田 中 宏 典	○小 林 見菜子	児 玉 尊 子	
	岡 村 早 紀・足 立 亜 弥			

※◎は大賞、○は優秀賞、無印は奨励賞

3 博物館実習

大学及び短期大学における博物館学講座の単位習得の一環として、博物館学を履修する学生を一時的に受け入れ、博物館現場における知識及び技能を修得させることにより、人材の育成を図ることを目的として実施している。

開設日時とカリキュラム、および受入先は次のとおり。

開設日時と内容

8月17日(水)	9:30~10:00	開講あいさつ
	10:00~11:00	オリエンテーション
	11:00~12:00	美術館と学芸活動
	13:00~14:00	所蔵作品展見学
	14:00~15:00	館内見学
8月18日(木)	15:00~16:00	ミニ企画展実習(1 概論)
	9:30~12:00	作品取扱い実習・調書作成(平面)
	13:00~16:00	作品取扱い実習・調書作成(立体)
8月19日(金)	9:30~10:30	「夏休みこども美術館」展見学
	10:30~12:00	展覧会を取材する(館内取材・短評作成)
	13:00~16:00	ミニ企画展実習(2 企画—討議)
8月20日(土)	9:30~12:00	鑑賞教材を使った授業開発
	13:00~16:00	ミニ企画展実習(3 企画—立案)
8月22日(月)	9:30~12:00	ミニ企画展実習(4 企画—集約)
	13:00~16:00	ミニ企画展実習(5 企画—制作)
8月23日(火)	9:30~12:00	ミニ企画展実習(6 企画—制作発表準備)
	13:00~14:30	ミニ企画展実習(7 発表)
	15:00~16:00	受講生ディスカッションⅡ

受入先

沖縄県立芸術大学、京都造形芸術大学、東京大学、比治山大学、広島女学院大学、広島市立大学、広島大学(計22人)

ミニ企画展実習

メインカリキュラムの「ミニ企画展実習」では、数点の所蔵作品によって特別展を企画する、という課題にとりくんだ。人文系、芸術系など異なった専攻の学生から出されたアイデアが融合されることにより、各班が個性的な企画や関連イベント、広報戦略等を提案した。企画テーマでは、命や生活、光など、東日本大震災の影響を受けた内容が主に発案された。提案された展覧会名、展示作品は次のとおりである。

①	空・風・海 ～ココロすずしく行こう～
	奥田元宋《待月》、木村芳郎《碧釉踊篋文鉢》、児玉希望《河童》、森野圓象《静かな海》
②	光が照らすアート サマーライトミュージアム ―夜を歩く暗闇の中の光美術展―
	青木憲郎《本と子供》、其阿弥赫土《晩秋の記録》、ライオネル・ファイニンガー《海辺の夕暮》、水船六洲《燭明り》、吉原英雄《蟻の観察》
③	おじゃましーす! ひろしまの昔ばなし
	《巖島図》、石谷柑園《三段峡》、小野鉄之助《尾道水道》、片山牧羊《おぼろ》、児玉希望《河童》
④	いのちの輝き ―たまごからホネまで―
	《伊万里柿右衛門様式色絵馬》、寺田政明《生と死の凝視》、平山郁夫《受胎霊夢》、バーバラ・ヘップワース《ネスティング・ストーンズ》、丸木スマ《動物》

(統括責任者：藤崎 綾)

4 学校との連携事業

美術作品鑑賞教室

事業内容

所蔵作品や鑑賞補助教材を活用した鑑賞授業を実施することにより、美術館と学校及び地域との連携を図る方策を調査・研究及び提案することを目的とする。

平成23年度は、当館所蔵作品を学校に持参しての美術作品鑑賞教室に加え、ネットワーク美術館展（P.40参照）との関連授業を含めて、計7校で実施。20-21年度に作成したアートカードについては、22年度に県内小中学校で検証授業を実施したことをふまえ、引き続き貸し出しを行い、その普及・浸透に努めた。
(担当：永井 明生)

実施形態

主に次の二形態により実施した。

- (1) 鑑賞授業A（所蔵作品を学校に搬入・展示して行う鑑賞授業）
- (2) 鑑賞授業B（ネットワーク美術館展（P.40参照）の関連授業）

(1) 鑑賞授業A（所蔵作品を学校に搬入・展示して行う鑑賞授業）

①呉市立三津口小学校（全校児童・70人）

実施日時／平成23年12月6日（火）14：00～15：00

鑑賞作品／南薫造《日の出》、和高節二《仔牛誕生》、児玉希望《春のバンガロー》、

吉原英雄《ガラスの向こう側》、芥川永《雲になった蛙》、熊倉順吉《笑いの稽古》

授業目標／実際に作品の鑑賞をする中で、学年に応じてそれぞれの作品のテーマやよさを理解し、いろいろな表現の仕方を知るとともに、表現意欲や関心をより一層持ち、進んで自分の作品に取り入れていこうとする気持ちを持たせる。

授業内容／作品名をふせた6点の作品を順次鑑賞したのちに、「美術作品鑑賞ワークシート」に「一口感想」を書き込む。「何が描かれているか」「表現された人や動物は何をしているか」「どんな物語を思い浮かべるか」などを考えながら、各作品の題名を各人で考えてワークシートに記入する。作品名発表を経て、実際の作品名を示す。

②尾道市立木ノ庄東小学校（全校児童・47人）

実施日時／平成23年12月15日（木）1～3学年 14：00～14：45

4～6学年 14：50～15：35

鑑賞作品／児玉希望《空山春生》《奥多摩の家》《静物（卓上のりんご）》《春のバンガロー》
《河童》

授業目標／絵画の鑑賞を通じて、作品のテーマや良さを理解し、いろいろな表現の仕方を知ること为目标とする。具体的には、広島県出身の日本画家・児玉希望の作品5点を鑑賞し、学年に応じて、描き方の異なる静物画や風景画の良さを味わい、その表現の工夫を学ぶことを目指す。

授業内容／作品鑑賞時の諸注意を確認ののち、5点の作品を順番に鑑賞していく。あらかじめ準備したワークシートに、「作者が表現したかったこと」「思ったこと・気づいたこと」を各自書き込む。その際、「絵からどんなお話が聞こえているか、想像しよう」という投げかけを行い、児童の自由な感性に基づく感想を引き出す。その後、自分の考え

を発表し、自分以外の絵の見方・感じ方についても触れさせる。

③尾道市立瀬戸田小学校（6年生・48人）

実施日時／平成24年1月13日（金）11：00～12：00

鑑賞作品／児玉希望《河童》、同《春のバンガロー》、丸木位里《不動》、同《牛》、橋本雅邦《風神雷神》

授業目標／現代版「百鬼夜行図」制作に向けて、著名な画家の絵画作品を鑑賞して「妖怪」の様々な表現方法を知る（近隣の耕三寺が所蔵する「百鬼夜行図」についての事前学習を行っている）。また、同一作家による描法の異なる作品2点を見比べることにより、表現の多様性について学ぶ。

授業内容／「妖怪」的なものが描かれた3作品（児玉希望の《河童》、丸木位里の《不動》、橋本雅邦の《風神雷神》）を鑑賞し、形や色、筆使いなどを手がかりに自分の思いを「ワークシート」に記入する。また、同一作家による対照的な表現の作品（児玉希望《春のバンガロー》、丸木位里《牛》の鑑賞も行い、その感想を話し合う。

④呉市立音戸小学校（3～6年生・123人）

実施日時／平成24年1月17日（火） 3～4学年 13：50～14：20

5～6学年 14：30～15：00

鑑賞作品／児玉希望《鷺》、同《驟雨来》、和高節二《ひなた》、船田玉樹《春の鐘》

授業目標／作品鑑賞のマナーを学ぶとともに、作品の鑑賞を通じて1点1点にこめられた作者の思い、表現したかったことを考える。また、感想の発表によって交流を図り、新しい見方などの発見につなげる。

授業内容／「動物の表現」として児玉希望の《鷺》と和高節二の《ひなた》を、「風景の表現」として児玉希望の《驟雨来》と船田玉樹の《春の鐘》をそれぞれ対比的に鑑賞。各作家による表現の違いに着目しつつ、ワークシートに「思ったこと・気づいたこと」「作者が表現したかったこと」を記入する。

(2) 鑑賞授業B（ネットワーク美術館展(P.40参照)の関連授業)

①三次市立甲奴小学校（6年生・16人）

実施日時／12月19日（月）13：45～15：15

実施内容／水墨画の技法について学習していたため、それらを中心に鑑賞を希望された。当館作成のワークシート「児玉希望作品と水墨画」を基に、対話をしながら児玉希望《七面鳥》、第1会場の作品、第3会場の抽象画を鑑賞し、その後「児玉希望と広島ゆかりの日本画家展こどもガイドブック」を使用して、各会場を鑑賞した。

②三次市立甲奴小学校（5年生・14人）

実施日時／12月20日（火）13：45～15：15

実施内容／奥田元宋の師匠である児玉希望を中心に学習を希望された。担当教諭作成のワークシート「奥田元宋の師匠・児玉希望の絵を見てみよう！」を基に、対話をしながら第1会場の作品、第3会場の抽象画を鑑賞し、その後「児玉希望と広島ゆかりの日本画家展こどもガイドブック」を使用して、各会場を鑑賞した。同校は鑑賞教育作品に関して熱心に取り組んでおり、自分の意見を自由に発言することに慣れているため、様々

な意見が出された。

③三次市立八幡小学校（全校児童・32人）

実施日時／12月21日（水） 10：00～11：40

実施内容／高・低学年2グループに分かれ、常設展と企画展「児玉希望と広島ゆかりの日本画家展」を鑑賞。常設展は奥田元宋・小由女美術館ボランティアガイドが案内。企画展は、各グループ30分程度と時間が短かったため、「児玉希望と広島ゆかりの日本画家展子どもガイドブック」に沿って各会場を鑑賞。



5 新規作成ワークシート・リスト

来館者の鑑賞を支援するため、おおむね小学校高学年以上を対象とした所蔵作品のワークシートを作成している。平成23年度は新たに7種類のワークシートを作成し、合わせて276種となった。

No	所蔵作品番号	作者名	作品名	制作年	技法・材質
1	O-635	名井萬亀	宮古市浄土が濱	1973(昭和48)年	油彩・キャンバス
2	O-496	寺田政明	さかな(悲哀)	1943(昭和18)年	油彩・板
3	PG-47	マン・レイ	ローズ・セラヴィ (マルセル・デュシャン)	1921年	ゼラチン・シルバー・プリント
4	HB-36		お祈りのための布 (ジャイナマズ)		木綿・絹と金糸の刺しゅう
5	SD-15	ヘンリー・ムーア	弦のある形	1939年	ブロンズ・弦
6	J-320	児玉希望	河童	1955(昭和30)年頃	絹・彩色・額装
7	J-312	里見雲嶺	管絃祭之図	1917(大正6)年	絹・彩色・軸装

ワークシート作例

J-320

河童
1955(昭和30)年頃
絹・彩色・額装



こども希望 1898(明治31)年～1971(昭和46)年
現在の広島県安芸高田市高宮町生まれ。伝統的な日本画を勉強して、風景や人物、動植物などを描きました。その一方で西洋の絵の描き方も学び、また墨を使った新しい表現も試みています。

広島県立美術館

HB-36

お祈りのための布(ジャイナマズ)
木綿・絹と金糸の刺しゅう



イスラム教では一日に5回、聖地に向かってお祈ります。お祈りの時、床に敷く布はジャイナマズやナクと呼ばれます。

広島県立美術館

水の中に立って、踊るような姿勢で、ぶくぶくと口から泡を吐き出している河童。
手足の指も、水底に生える草と同じような形で、ひょろひょろと頼りない感じ。
どこを見つめているのやら、何とも間の抜けた表情を浮かべています。

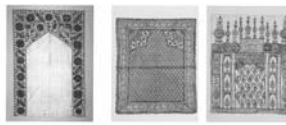
この河童、ちょっと口をあけて、何かしゃべっているようにも見えます。
あなたなら、この河童が何と言っていると思いますか？



ミフラーブ(聖龕)と呼ばれるアーチ型は、聖地に向けて配置されたイスラム教寺院(モスク)礼拝堂内の正面の壁に表現されます。



ジャイナマズはこのミフラーブを表したもので、お祈りする方向(キブラ)へ向けて、この上でお祈りします。ジャイナマズは、刺しゅうや染めの他、じゅうたんでも作られます。



豪華な絹や金糸の刺しゅうのあるジャイナマズ

子ども用のジャイナマズ

6 学校等による利用状況

No	学校名	所在地	利用年月日	生徒	引率	計
1	広島県立大竹高等学校	広島県大竹市白石1丁目3-1	4月28日	33	2	35
2	岡山市立瀬戸中学校	岡山県岡山市東区瀬戸町瀬戸444	5月8日	20	1	21
3	岡山市立福田中学校	岡山県岡山市南区山田544-3	5月10日	28	0	28
4	笠岡市矢掛町中学校組合立小北中学校	岡山県笠岡市甲弩1810-3	5月12日	24	0	24
5	岡山市立石井中学校	岡山県岡山市北区下伊福上町10-9	5月13日	27	0	27
6	岡山市立福浜中学校	岡山県岡山市南区三浜町2丁目3-26	5月13日	4	0	4
7	倉敷市立郷内中学校	岡山県倉敷市林620番地	5月17日	58	2	60
8	笠岡市立笠岡東中学校	岡山県笠岡市西大島新田15番地の3	5月17日	33	1	34
9	白浜町立三舞中学校	和歌山県西牟婁郡白浜町安居635番地	5月18日	5	2	7
10	岩国市立灘中学校	山口県岩国市藤生町2丁目25-1	5月19日	32	0	32
11	岩国市立平田中学校	山口県岩国市平田6丁目10-33	5月19日	44	0	44
12	倉敷市立黒崎中学校	岡山県倉敷市玉島黒崎6057	5月20日	23	0	23
13	岩国市立麻里布中学校	山口県岩国市室の木町2丁目7番11号	5月24日	64	2	66
14	鹿児島県名瀬市立金久中学校	鹿児島県奄美市名瀬塩浜町15-10	5月24日	24	0	24
15	山口県平生町立平生中学校	山口県平生町大字曾根1844番地	5月25日	26	0	26
16	岐阜市立藍川中学校	岐阜県岐阜市芥見4丁目157番地	5月26日	20	0	20
17	周南市立岐陽中学校	山口県周南市大字徳山4915番地	5月26日	34	0	34
18	中津川市立阿木中学校	岐阜県中津川市阿木6006番地	5月26日	8	0	8
19	静岡市立末広中学校	静岡県静岡市葵区末広町41番地	5月26日	137	9	146
20	広島市立国泰寺中学校	広島県広島市中区国泰寺1丁目1-41	5月27日	523	27	550
21	下松市立久保中学校	山口県下松市大字山田122番地	5月27日	36	0	36
22	防府市立小野小学校	山口県防府市大字奈美633番地の1	5月27日	8	1	9
23	明石市立藤江小学校	兵庫県明石市藤江235番地	5月27日	22	0	22
24	岩国市立岩国中学校	山口県岩国市錦見2丁目5-80	5月27日	39	0	39
25	三原市立大和中学校	広島県三原市大和町大具2280	6月7日	44	7	51
26	中川学園 広島総合教育専門学校	広島県広島市東区愛宕町3-14	6月7日	23	1	24
27	鹿児島市立郡山中学校	鹿児島県鹿児島市郡山町1500	6月7日	46	0	46
28	中川学園 広島総合教育専門学校	広島県広島市東区愛宕町3-14	6月10日	24	1	25
29	広島県立広島特別支援学校	広島県広島市安佐北区倉掛2丁目47-1	6月10日	10	10	20
30	兵庫県明石市立中崎小学校	兵庫県明石市中崎1丁目4番1号	6月17日	24	1	25
31	岐阜県池田町立池田中学校	岐阜県揖斐郡池田町草深485番地の1	7月3日	26	0	26
32	広島市立伴中学校	広島県広島市安佐南区沼田町大字伴3759	7月14日	21	1	22
33	広島県立広島井口高等学校	広島県広島市西区井口明神2丁目11-1	7月20日	42	2	44
34	東広島市立黒瀬中学校	広島県東広島市黒瀬町丸山82番地1	7月28日	16	1	17
35	広島県三次市立八次中学校	広島県三次市島敷町1860番地	8月9日	22	1	23
36	岩国市立平田中学校	山口県岩国市平田6丁目10-33	8月30日	9	1	10
37	広島市教育委員会学校教育部生徒指導課(ふれあい教室北)	広島県広島市安佐北区可部3丁目19-22	9月22日	6	5	11
38	神奈川県八州学園高等学校	神奈川県横浜市西区桜木町7丁目42番地	9月23日	21	0	21
39	洲本市立洲本第二小学校	兵庫県洲本市山手2丁目1-51	9月28日	13	2	15
40	岡山県井原市立芳井中学校	岡山県井原市芳井町吉井4052	9月30日	6	0	6
41	広島市立大芝小学校	広島県広島市西区大芝1丁目25-18	10月5日	92	4	96
42	江田島市立江田島小学校	広島県江田島市江田島町中央4丁目18-1	10月7日	46	3	49
43	瀬戸内高校	広島県広島市東区尾長西2丁目12-1	10月27日	47	2	49
44	安田学園	広島県広島市中区白鳥北町1-41	10月31日	84	3	87
45	安田学園	広島県広島市中区白鳥北町1-41	11月2日	80	3	83

No	学校名	所在地	利用年月日	生徒	引率	計
46	安田学園	広島県広島市中区白島北町1-41	11月4日	40	2	42
47	広島市立緑井小学校	広島県広島市安佐南区緑井4丁目31番1号	11月24日	147	0	147
48	広島市立矢野西小学校	広島県広島市安芸区矢野西4丁目5番1号	12月7日	86	0	86
49	広島市立真亀小学校	広島県広島市安佐北区真亀5丁目28-1	12月7日	77	4	81
50	広島市立井口台小学校	広島県広島市西区井口台3丁目5-1	12月8日	95	5	100
51	広島市立可部小学校	広島県広島市安佐北区可部4丁目9-1	12月8日	120	4	124
52	広島市立古田台小学校	広島県広島市西区古田台1丁目5番1号	12月21日	51	0	51
53	広島女学院中学校	広島県広島市中区上幟町11-32	1月10日	45	1	46
54	広島女学院中学校	広島県広島市中区上幟町11-32	1月11日	89	1	90
55	広島女学院中学校	広島県広島市中区上幟町11-32	1月12日	46	3	49
56	広島女学院中学校	広島県広島市中区上幟町11-32	1月13日	46	3	49
57	広島市立白島小学校	広島県広島市中区西白島町26番3号	1月13日	80	0	80
58	広島市湯来西小学校	広島県広島市佐伯区湯来町多田2416	1月17日	26	0	26
59	広島市立五月が丘中学校	広島県広島市佐伯区五月が丘2丁目23番1号	1月20日	68	0	68
60	広島市立安小学校	広島県広島市安佐南区上安2丁目7番56号	1月24日	92	0	92
61	江田島市立切串小学校	広島県江田島市江田島町切串1丁目11番2号	1月31日	55	0	55
62	広島市立久地南小学校	広島県広島市安佐北区安佐町大字久地4477-2	2月1日	34	0	34
63	広島市立翠町小学校	広島県広島市南区翠4丁目10-1	2月2日	74	3	77
64	大野中学校	広島県廿日市市大野原4丁目2-60	2月2日	16	0	16
65	広島市立翠町小学校	広島県広島市南区翠4丁目10番1号	2月2日	79	0	79
66	廿日市市立津田小学校	広島県廿日市市津田2740番地	2月6日	41	0	41
67	廿日市市立津田小学校	広島県廿日市市津田2740	2月6日	37	3	40
68	広島市立矢賀小学校	広島県広島市東区矢賀2丁目10-67	2月7日	81	4	85
69	広島市立彩が丘小学校	広島県広島市佐伯区河内南2丁目10番1号	2月7日	71	0	71
70	広島市立矢賀小学校	広島県広島市東区矢賀2丁目10番67号	2月7日	87	0	87
71	呉市立阿賀小学校	広島県呉市阿賀南2丁目1-1	2月7日	98	0	98
72	呉市立阿賀小学校	広島県呉市阿賀南2丁目1-1	2月8日	89	5	94
73	三原市立南小学校	広島県三原市宮沖3丁目15番1号	2月9日	162	0	162
74	広島市立竹屋小学校	広島県広島市中区鶴見町8番49号	2月10日	48	0	48
75	広島市立古田台小学校	広島県広島市西区古田台1丁目5番1号	2月14日	51	0	51
76	石見養護学校	島根県邑智郡邑南町中野2384-18	2月21日	27	8	35
77	海田町立海田西小学校	広島県安芸郡海田町南つくも町12番3号	2月24日	66	0	66
78	三次市立甲奴小学校	広島県三次市甲奴町梶田5番地	3月1日	16	0	16
79	広島大学附属小学校	広島県広島市南区翠1丁目1-1	3月5日	80	0	80
80	広島市立吉島東小学校	広島県広島市中区吉島東3丁目2-7	3月6日	13	5	18
81	安芸郡府中町立府中緑ヶ丘中学校	広島県安芸郡府中町緑ヶ丘3-18	3月7日	3	4	7
82	小井手ファッションビューティ専門学校	広島県広島市南区金屋町1-20	3月9日	94	7	101
83	呉市立倉橋東中学校	広島県呉市倉橋町12612	3月13日	23	0	23
84	周防大島町立大島中学校	山口県大島郡周防大島町大字西屋代2598番地	3月15日	36	1	37
85	広島県立広島中央特別支援学校	広島県広島市東区戸坂千足2丁目1-4	3月16日	2	2	4
86	廿日市市立阿品台中学校	広島県廿日市市阿品台東1番1号	3月19日	269	0	269
87	広島市立宇品中学校	広島県広島市南区宇品東五丁目1番51号	3月21日	251	0	251
計				4,985	160	5,145

7 事業実施状況

事業名	事業内容	実施期間
展覧会開催事業 入館者数 198,140 名		
所蔵作品展 入館者数 61,875 名	広島県ゆかりの美術作品、日本とアジアの工芸作品、1920-30年代の美術作品をテーマとする当館の所蔵作品を展示し、県民の鑑賞に供した。	常時
特別展 入館者数 136,265 名	県民に多様な美術作品の鑑賞機会を提供し本県の芸術文化の向上に資するため、特別展を開催した。	
復興への願いを込めて展 入館者数 31,322 名	3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の復興支援を目的として、戦後広島 の文化復興の歴史を広島県立美術館の代表的な所蔵品や写真資料などを通して 多角的に紹介した。	平成23年4月21日 ～6月12日
広島県主催事業 第63回広島県美術展 入館者数 7,029 名	県民の創作活動の奨励と鑑賞の機会を提供するための公募展を開催した。 応募総数1,285点 大賞7点、優秀賞12点、奨励賞36点、入選数499点	平成23年7月19日 ～7月31日
ワクワク！ドキドキ！ 夏休み子ども美術館 入館者数 8,870 名	夏休み期間中に幼児から高校生までの児童・生徒を対象に、子どもたちが美 術館及び美術作品に親しみ、また興味を持てるよう作品鑑賞や創作活動等の機 会を提供した。	平成23年8月11日 ～8月28日
ウクライナの至宝 スキタイ黄金美術の煌き 入館者数 34,731 名	紀元前7-8世紀に登場し、黒海周辺に強大な国家を建設した民族・スキタイ の文化を、王の墳墓に副葬された黄金の装身具を中心に紹介した。	平成23年9月13日 ～11月13日
抱きしめたい！ 近代日本の木彫展 入館者数 10,400 名	日本の近代木彫に焦点をあて、明治期から現代にかけて木による造形表現が どのように受け継がれてきたのかを検証し、その魅力を紹介した。	平成23年11月29日 ～平成24年1月15日
第58回日本伝統工芸展 入館者数 10,135 名	わが国の優れた工芸技術を受け継ぐ陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、 諸工芸を、人間国宝から新進気鋭の若手まで、広島県内作家を始め、日本を代 表する作家の作品319点で紹介した。	平成24年1月25日 ～平成24年2月12日
ユーモアのすすめ 福田繁雄大回顧展 入館者数 33,778 名	視覚のトリックを利用した独自の作風によって「日本のエッシャー」ともよ ばれた福田繁雄の回顧展としてポスター・立体作品を展示し、「遊び」と「ユー モア」に根ざしたデザインを紹介した。	平成24年2月21日 ～3月31日
学習支援事業	所蔵作品展、特別展等それぞれの事業に応じた学習の機会を提供することにより、県民の美術作品に対する関心を高め、理解を深めた。	
一般		
美術講演会		
898 名		
60 名	「震災から立ち上がった美術館～兵庫県立美術館の場合～」 講師：越智裕二郎（広島県立美術館長）	平成23年5月8日 （13：30～）
55 名	「広島県立美術館の歴史～その創設と発展の奮闘秘話～」 講師：倉橋清方（元広島県立美術館学芸課長）	平成23年5月21日 （14：00～）
70 名	「スキタイ黄金美術と動物文様」 講師：林 俊雄（創価大学文学部教授）	平成23年9月18日 （13：30～）
79 名	「ウクライナってどんな国？ その1」 講師：道面雅量（中国新聞社文化部記者）	平成23年9月25日 （13：30～）
80 名	「ウクライナってどんな国？ その2」 講師：マリア・ベヴナ（在日ウクライナ大使館文化担当）	平成23年10月8日 （14：00～）
70 名	「抱きしめよう！縮景園の緑たち」 講師：関 太郎（広島大学名誉教授）	平成23年11月5日 （13：30～）
45 名	「木の造形－日本近代を中心に」 講師：毛利伊知郎（三重県立美術館副館長）	平成23年12月4日 （13：30～）
120 名	「アーティスト・トーク」 講師：三沢厚彦（彫刻家）	平成23年12月17日 （13：00～）
19 名	「木のテレバシー」 講師：有江淳二（日本樹木保護協会・樹医）	平成24年1月8日 （14：30～）

事業名			事業内容	実施期間
	126名		「紬織に魅せられて」 講師：佐々木苑子（重要無形文化財「紬織」保持者）	平成24年1月29日 （13：30～）
	60名		「福田繁雄×タナカノリユキ～美術教育からクリエイティブの現在まで」 講師：タナカノリユキ （クリエイティブディレクター、映像ディレクター、アーティスト）	平成24年3月4日 （13：30～）
	85名		「デザインは生き続ける。」 講師：浅葉克己（アートディレクター）	平成24年3月10日 （14：00～）
	29名		「福田繁雄のデザイン表現とユーモア」 講師：宋 樹峰（大連理工大学講師）	平成24年3月17日 （13：30～）
シンポジウム	350名		「アートによる街づくりと美術館」 講師：蓑 豊、村上 勇、西沢立衛、山根基世、越智裕二郎	平成23年7月24日 （13：30～）
ギャラリートーク	2,870名		特別展等について、展覧会場で作品に接しながら、分かりやすく作品解説をした。	
	360名 (213名)		復興への願いを込めて展 〔ギャラリートーク〕 当館主任学芸員 角田 新	平成23年 4月22日、4月29日 5月6日、5月13日 5月20日、5月27日 6月3日、6月10日
	(147名)		〔ミニギャラリートーク〕 当館主任学芸員 角田 新 ✧ 主任学芸員 石橋健太郎 ✧ 学芸企画監兼学芸課長 松田 弘 ✧ 主任学芸員 藤崎 綾 ✧ 主任学芸員 宮本真希子 ✧ 主任学芸員 永井 明生 ✧ 主任学芸員 福田 浩子 ✧ 学 芸 員 山下 寿水	6月4日 6月5日 6月7日 6月8日 6月9日 6月10日 6月11日 6月12日
	822名		ウクライナの至宝 スキタイ黄金美術の煌き展 〔ギャラリートーク〕 当館主任学芸員 角田 新 ✧ 主任学芸員 宮本真希子	平成23年9月16日 9月17日、9月23日 9月24日、9月30日 10月7日、10月14日 10月15日、10月21日 10月22日、10月28日 10月29日、11月4日 11月5日、11月11日 11月12日
	251名 (172名)		近代日本の木彫展 〔ギャラリートーク〕 当館主任学芸員 石川 哲子	平成23年 12月2日、12月9日 12月10日、12月16日 12月23日 平成24年 1月6日、1月13日 1月14日
	(79名)		〔ミニギャラリートーク〕 当館主任学芸員 石川 哲子	平成23年 12月2日、12月9日

事業名			事業内容	実施期間
				12月16日、12月23日 平成24年 1月6日、1月13日
	446名 〔425名〕 (45名) (50名) (40名) (110名) (50名) (130名)	日本伝統工芸展 〔ギャラリートーク〕 漆芸作家 田代 昭夫 漆芸作家 馬舩 宏明 七宝作家 菅坂 安子 陶芸作家 木村 芳郎 七宝作家 栗根 仁志 漆芸作家 金城一國斎		平成24年 1月27日 1月28日 2月3日 2月4日 2月10日 2月11日
	〔41名〕	〔フライデイ・イブニング・トーク〕 当館主任学芸員 宮本真希子		1月27日 2月3日 2月10日
	175名	福田繁雄大回顧展 当館学芸員 山下 寿水 〃 主任学芸員 周々木朝香		平成24年 2月24日、3月2日 3月3日、3月9日 3月16日、3月17日 3月23日、3月30日 3月31日
	584名 (8月 83名) (9月 78名) (10月 117名) (11月 60名) (12月 66名) (1月 65名) (2月 71名) (3月 44名)	所蔵作品展 〔ミニギャラリートーク〕 当館学芸企画監兼学芸課長 松田 弘 〃 主任学芸員 宮本真希子 〃 主任学芸員 角田 新 〃 主任学芸員 石橋健太郎 〃 主任学芸員 福田 浩子 〃 主任学芸員 石川 哲子 〃 主任学芸員 永井 明生 〃 主任学芸員 藤崎 綾 〃 主任学芸員 周々木朝香 〃 学芸員 山下 寿水		平成23年8月以降、 毎週土・日曜日に 開催
	232名 (19名) (16名) (11名) (22名) (20名) (23名) (19名) (14名) (27名) (17名) (24名) (20名)	食とアートと音楽と 〔ギャラリートーク〕 当館主任学芸員 角田 新 当館主任学芸員 藤崎 綾 当館主任学芸員 永井 明生 当館主任学芸員 石川 哲子 当館主任学芸員 石橋健太郎 当館主任学芸員 宮本真希子 当館学芸員 山下 寿水		平成23年10月31日 11月7日 11月17日 11月24日 11月29日 平成24年 1月30日 2月6日 2月22日 2月27日 3月6日 3月12日 3月21日

事業名	事業内容	実施期間
よくわかる解説つき美術鑑賞会・ 手話通訳つき鑑賞会	特別展等について、鑑賞前に作品の見どころ等をわかりやすく解説した。	
123名		
50名 32名	ウクライナの至宝 当館主任学芸員 角田 新	平成23年10月1日 平成23年10月29日 (※10月29日は手話通訳つき)
41名	福田繁雄大回顧展 当館学芸員 山下寿水	平成24年2月25日
美術講座	特別展等に関連したテーマのもと、学芸員を講師として開催した。	
85名		
15名	「圓鋳作品いろいろ」 講師：当館主任学芸員 石川 哲子	平成23年12月24日
45名	「木彫なう。ー同時代木彫の動向」 講師：当館主任学芸員 石川 哲子	平成24年1月7日
25名	「福田繁雄のユーモア+西洋美術=??」 講師：当館学芸員 山下 寿水	平成24年3月24日
ワークショップ	所蔵作品及び特別展等に関連したワークショップを開催した。	
1,292名		
37名 (25名) (12名)	県美コレクションを描いてみよう♪春	平成23年5月20日 5月21日
68名 (32名) (36名)	県美コレクションを描いてみよう♪夏	平成23年8月20日 8月21日
41名 (11名) (30名)	県美コレクションを描いてみよう♪秋	平成23年11月5日 11月6日
44名 (25名) (19名)	県美コレクションを描いてみよう♪冬	平成24年2月11日 2月12日
50名 (10名) (5名) (35名)	「創作ファッションデザインコンテスト」 講師：石田あさきトータルファッション専門学校 (8月28日：審査発表・表彰式開催)	平成23年8月11日 8月12日 8月28日
72名	「カコイイ・紙コップランドヨットを作ろう！」 講師：藤原逸樹（安田女子大学）	平成23年8月11日
162名 (61名) (40名) (21名) (40名)	「分身を作ろう」 講師：久保田貴美子（比治山大学短期大学部）	平成23年8月12日 8月13日 8月23日 8月24日
21名	「ドリームキャッチャーを作ろう」 講師：久保田貴美子（比治山大学短期大学部）	平成23年8月13日
35名	「絵とおしゃべり～何が聞こえてくるかな?～」 講師：三樹正典（広島女学院大学）	平成23年8月14日
20名	「粘土で作ろう!! 素敵なかawaiiお菓子の家」 講師：沼本秀昭（鈴峯女子短期大学）	平成23年8月16日
51名 (4名) (47名)	「脳いきいきワークショップ臨床美術のカリキュラムを体験」 講師：清水久幸（広島芸術専門学校）	平成23年8月17日 8月18日

事業名			事業内容	実施期間
		10名	「牛乳パックで手作りおもちゃを作ろう！ー空飛ぶヘビー」 講師：半 直哉（岩国短期大学）	平成23年8月19日
		10名	「ペットボトルでおもちゃを作ろう！ーペットボトル空気砲ー」 講師：半 直哉（岩国短期大学）	平成23年8月19日
		8名	「美術作品と語ろう！」 講師：奥原球喜（広島文化学園短期大学）	平成23年8月19日
		76名	「絵本のお話を聞こう！」 講師：三咲順子（女優）	平成23年8月20日
		5名	「簡単！ はじめてのお能体験」 講師：当館学芸員 山下寿水	平成23年8月20日
		29名	「カラダであそぼ!! ダンスであそぼ!!」 講師：中村志津枝、島村陽子（FREE HEARTS）	平成23年8月21日
		61名 (30名) (10名) (21名)	「美術作品とお話しましょう！」 講師：当館主任学芸員 石橋健太郎	平成23年8月23日 8月24日 8月25日
		16名	「つくってあそぼ！ はくのわたしの“かざぐるま”」 講師：若元澄男（比治山大学）	平成23年8月26日
		20名	「つくってあそぼ！ はくのわたしの“こま”」 講師：若元澄男（比治山大学）	平成23年8月26日
		16名	「つくってあそぼ！ はくのわたしの“ひこうき”」 講師：若元澄男（比治山大学）	平成23年8月26日
		36名	「額に入ってすてきな絵！」 講師：河林奈央子、松崎裕美、濱田るみ子 (学びあう教師の会「創」)	平成23年8月27日
		20名	「つくって、おさんぽ！ ペットカー」 講師：佐伯育郎（広島文教女子大学）	平成23年8月28日
		—	万国旗で作る巨大モナリザ	平成23年8月11日 ～8月28日
		42名	「スキタイ黄金美術にせまる～金属レリーフにチャレンジ」 講師：若山裕昭（広島市立大学）	平成23年10月9日
		32名	「七宝でウクライナをイメージする～アクセサリー作り」 講師：栗根仁志（七宝作家）	平成23年10月23日
		45名	「広島の木でオリジナル・マイ箸を作ってみよう」 協力：広島県木材青年経営者協議会	平成23年12月11日
		22名	「木が鳴る木!? キーホルダーの笛づくり」 講師：三桝明子（彫刻家）	平成23年12月23日
		23名	「気軽にアニメーション ゾエロトープで遊ぼう！」 講師：堀尾 充（比治山女子短期大学）	平成24年1月21日
		26名	「自分や友達の顔をアニメのキャラクターのように描いてみよう」 講師：斉藤克幸（比治山大学）	平成24年1月22日
		20名	「巨大モビールをつくろう！」 講師：丸橋光生（広島市立大学）	平成24年1月28日
		35名	「漆でマグネットを作る」 講師：竹岡亜衣、舩岡真伊、都野夏未 (広島市立大学卒業生)	平成24年2月5日
		10名	「発砲スチロールで等身大の自分をつくろう」 講師：丸橋光生（広島市立大学）	平成24年2月11日
		21名	「季節の日本画を模写する」 講師：王 培、山浦めぐみ、嶋 浩美(広島市立大学)	平成24年2月19日

事業名			事業内容	実施期間
各種イベント	60名		「フクダシゲオのおもちづくり！」 講師：当館学芸員 山下寿水	平成24年2月26日
	48名		「トリックアートを描いてみよう！」 講師：当館学芸員 山下寿水	平成24年3月25日
			開催中の特別展にちなんだイベントを開催した。	
	15名		圓鋳作品探検ツアー in 平和公園 講師：宮迫卓督（圓鋳勝三彫刻美術館前館長）	平成24年12月23日
	25名		トリック・ポスター・コンテスト 審査委員長：浅葉克己（アートディレクター） 審査委員：縄田健次（広島アートディレクターズクラブ会長） オリシゲシュウジ（広島アートディレクターズクラブ正会員） 越智裕二郎（広島県立美術館長）	平成24年3月11日
	65名		絵本の読み語り 講師：藤村直己（広島テレビアナウンサー）	平成24年3月18日
コンサート			開催中の特別展に関連したコンサートや木管楽器や弦楽器などの演奏会を1階メインロビー等で開催することにより、来館者に美術鑑賞と一体となった憩いのひとときを提供した。	
	4,091名			
	2,635名		ロビーコンサート	平成23年4月23日
	(70名)		演奏者：木田景子	4月30日
	(80名)		演奏者：沖田孝司、沖田千春	5月3日
	(75名)		演奏者：古武志保、久貞祐子、丸山朋子	5月7日
	(75名)		演奏者：白井朝香	5月14日
	(90名)		演奏者：大峠涼子、岡野希美	5月21日
	(110名)		演奏者：木田景子	5月28日
	(85名)		演奏者：筒井まゆみ、笹口佳澄	6月4日
	(80名)		演奏者：筒井まゆみ、笹口佳澄	6月11日
	(115名)		演奏者：山本浩志	9月17日
	(75名)		演奏者：水川沙絵、山縣由季	10月1日
	(95名)		演奏者：杉田知穂、河野詩織	10月8日
	(75名)		演奏者：志波千華、米廣春花、藤井沙紀、酒井佑香里	10月15日
	(60名)		演奏者：石井翔太郎、徳重拓也、山崎史恵、福島千尋	10月22日
	(100名)		演奏者：中原恵住、柳井夢美、片岡千紘	10月29日
	(65名)		演奏者：市川果歩、泉 千佑、高島愛海、川谷琴子、黒田かや	11月12日
	(75名)		演奏者：志波千華、米廣春花、藤井沙紀、酒井佑香里	12月3日
	(55名)		演奏者：広島ウインドオーケストラ ～バスクラリネットアンサンブル「バスカル」	12月10日
	(120名)		演奏者：アンサンブルバックケン	12月17日
	(45名)		演奏者：高橋千絵、片岡千紘	12月24日
	(85名)		演奏者：野村友輝、桐原祐子	平成24年1月7日
	(125名)		演奏者：藤中亜希子、安部さくら、高西 望、大庭史善、須賀奈緒美	1月14日
	(110名)		演奏者：志波千華、米廣春花、藤井沙紀、酒井佑香里	2月4日
	(105名)		演奏者：広島ウインドオーケストラ～アンサンブル・ミュー	2月11日
	(135名)		演奏者：広島ウインドオーケストラ～打楽器アンサンブル	2月25日
	(65名)		演奏者：中野洋子、林内美織	3月3日
	(100名)		演奏者：佐古 萌、中村有沙、山田拓馬、仙田絵己子、山田佑己	3月10日
	(105名)		演奏者：濱保春香、今村彩美	3月17日
	(95名)		演奏者：安部さくら、南 貴男、泉 千裕	3月24日
	(70名)		演奏者：福島 成、山縣由季	3月31日
	(95名)		演奏者：山本浩志、金子美穂、山本敬子、山田佑希	

事業名			事業内容	実施期間
	440名 (20名)	定期コンサート 第116回 「緑樹と作品からの音～マリンバ・パーカッションによる～」 演奏者：木田景子	平成23年 5 月21日	
	(105名)	第117回 演奏者：本田久美、折坂裕子、橋本真希	7 月17日	
	(140名)	第118回 演奏者：中矢久喜子、森重 桂、藤田真衣	9 月24日	
	(65名)	第119回 演奏者：中村有沙、野村友輝、山田裕己	11月 5 日	
	(110名)	第120回 演奏者：山本浩志、鍋島絵里	平成24年 1 月28日	
	90名	クリスマスロビーコンサート 演奏者：山田一彦、宮中裕子	平成23年12月25日	
	240名 (120名)	新春ロビーコンサート 演奏者：①野村涼子、石谷安望、出雲朝子 ②専徳院知子	平成24年 1 月 2 日	
	(120名)	演奏者：①エリザベト音大学生 ②井上雅夫、中村あゆみ	1 月 3 日	
	116名 (38名)	トワイライトミニロビーコンサート 演奏者：さらさ	平成23年 4 月15日	
	(23名)	演奏者：山本浩志、山田裕記	10月21日	
	(15名)	演奏者：山田拓馬、野村友輝、佐喜里穂、宮本真衣	12月16日	
	(40名)	演奏者：安芸木管五重奏	平成24年 2 月24日	
	250名	原田真二コンサート（復興支援ソング披露）	平成23年 5 月27日	
	130名	スタンフォード大学室内合唱団コンサート	平成23年 6 月26日	
	190名 (100名)	広響ギャラリーコンサート 演奏者：広島交響楽団（弦楽四重奏）	平成23年10月22日	
	(90名)	ク （フルート四重奏）	11月 5 日	
ハイビジョンブース			当館制作のハイビジョン番組（22番組）の視聴	常時
デジタルミュージアム			当館の案内や所蔵作品の検索、世界的美術館の情報などを検索	常時
美術館ホームページ運用			当館のホームページで、当館の情報を自由に検索 http://www1.hpam-unet.ocn.ne.jp/	常時
児童・生徒				
美術作品鑑賞学習キット 運用事業				
	ネットワーク美術館展	県立美術館が所蔵する優れた芸術作品を地域の身近な美術館で鑑賞する機会を提供した。今年度は「児玉希望と広島ゆかりの日本画家展」と題し、奥田元宋・小由女美術館で開催した。	平成23年12月 2 日 ～平成24年 1 月9 日	
	団体学習鑑賞会 (美術作品鑑賞教室B)	ネットワーク美術館展会場において、こどもガイドブックを活用しながら鑑賞会を開催した。		
	62名			
	16名	三次市立甲奴小学校 6 年生	平成23年12月19日	
	14名	三次市立甲奴小学校 5 年生	平成23年12月20日	
	32名	三次市立八幡小学校 全校児童	平成23年12月21日	
	美術作品鑑賞教室 A	当館の所蔵作品を学校へ持ち込み、学芸員が自ら解説を行うことにより、児童生徒が豊かな感性を育む機会を提供するとともに、学校連携を深めることに努めた。		
	288名			
	70名	呉市立三津口小学校 全校児童	平成23年12月 6 日	
	47名	尾道市立木ノ庄小学校 全校児童	平成23年12月15日	

事業名				事業内容		実施期間
			48名	尾道市立瀬戸田小学校 6年生		平成24年1月13日
			123名	呉市立音戸小学校 3・4年生		平成24年1月17日
	親子ギャラリートーク			子どもたちが保護者とともに美術作品に親しめるよう、主に小学5、6年生（特別支援学校の相当学年を含む。）を対象として、学芸員又は友の会ギャラリーガイドが所蔵作品展示をわかりやすく解説した。		毎月第4土曜日 （11：00～）
	39名（うち小中高生20名）					
	ワークシートの作成			所蔵作品を鑑賞する児童・生徒に対し、学習補助教材として主要作品のワークシートを作成し、提供した。 （現在276種）		
	日本伝統工芸展出張授業			希望校に日本工芸会正会員等が出向いて授業を行うことで、児童の制作の現場に接する機会を提供し、伝統工芸への理解を促進した。		
			208名			
			24名	呉市立昭和東小学校	講師：菅坂 安子（七宝）	平成23年10月31日
			30名	海田町立海田西小学校	講師：小原よう子（陶芸）	平成23年11月 8 日
			41名	東広島市立河内西小学校	講師：馬舩 宏明（漆芸）	平成23年11月22日
			41名	三原市立和木小学校	講師：はたおと会（染織・備後紉）	平成23年11月24日
			28名	坂町立小屋浦小学校	講師：小林 利幸（木工）	平成23年12月 2 日
			44名	廿日市市立阿品台東小学校	講師：山根 宏造（陶芸）	平成24年1月18日
	手で見る展覧会			縮景園の「梅実収穫行事」に併せ、特別支援学校（視覚障害）の児童・生徒が作品に直接触れて美術を鑑賞する機会を提供した。		平成23年5月24日
各種リーフレット作成				施設案内、年間スケジュール等の美術館の活動について、広く県民へ告知した。		
美術館ネットワーク事業				県内に所在する美術館等が相互に連携を深めることにより、各施設の運営の充実と美術館活動の活性化を図った。 主な活動として、加盟館共同のパンフレットの作成、職員研修等を行った。		
アート・トライアングル				広島市内にある当館、ひろしま美術館、広島市現代美術館の3館の合同活動。共同事業を実施することにより、広報・集客効果の相乗効果を期する。		
	三館共同パンフレット			3館の展覧会スケジュールを併せて掲載・提供することにより、県民の利便性を図った。		
友の会ギャラリーガイド				県立美術館友の会のボランティアのギャラリーガイドにより所蔵作品展の解説をした。		
			（一般ガイド） 765名 （団体ガイド） 401名	火～金曜日の14:00から実施（土・日・祝日は11:00からも実施）		
展示施設等貸出				展示施設等（県民ギャラリー・講堂）を貸出することにより、生涯学習の発表の場及び機会を提供し、県民の創作活動を支援した。		
	観覧者等			県民ギャラリー 利用団体数 98団体、利用日数 延 588日		平成23年4月4日 ～平成24年4月2日
			150,669名	講堂（県民ギャラリー全室利用に併せ、展示室として利用）		
	利用者			講堂 利用団体数 35団体、利用日数 65日		平成23年4月1日 ～平成24年3月31日

8 県民ギャラリー利用状況

平成23年4月4日から平成24年4月2日まで

利 用 団 体 数		延べ開催日数	入場者数
入場有料の場合	12団体	72日	59,503人
入場無料の場合	86団体	516日	91,166人
計	98団体	588日	150,669人

平成23年度県民ギャラリー利用団体一覧表

番号	展 覧 会 名	会 期	展 示 室	内 容	入 場 料 金	入場者数
1	第64回 日本アンデパンダン展	4 / 4 ~ 4 / 11	1 2 3 4 5	絵画、彫塑、工芸、書、写真、 その他（インсталレーション・パフォーマンス）	188点 無料	1,434
2	第95回 二科展（第55回広島展）	4 / 11 ~ 4 / 18	1 2 3 4 5	絵画、彫塑、写真、 その他（デザイン）	567点 一 般 600円 高・大生 500円 中学生以下無料	7,276
3	第50回 大調和会広島巡回展	4 / 18 ~ 4 / 25	1 2 3	絵画	210点 無料	2,124
4	第46回 広島形象派展	4 / 18 ~ 4 / 25	4	絵画	40点 無料	738
5	第8回 むいち会展	4 / 18 ~ 4 / 25	5	絵画	44点 無料	742
6	第74回 自由美術巡回展	4 / 25 ~ 5 / 2	1 2 3 4 5	絵画	107点 無料	513
7	第13回 グループ「宙遊」展	5 / 2 ~ 5 / 9	1	絵画	41点 無料	610
8	第20回 波の会展	5 / 2 ~ 5 / 9	2 3 4 5	絵画	210点 無料	1,576
9	第53回 新協展	5 / 9 ~ 5 / 16	1 2 3 4 5	絵画、工芸、写真	324点 一 般 600円 高・大生 500円 中学生以下無料	3,310
10	第46回 虹の会絵画展	5 / 16 ~ 5 / 23	1	絵画	11点 無料	452
11	第3回 臨床美術との出会い作品展	5 / 16 ~ 5 / 23	2	絵画、彫塑	711点 無料	551
12	公募・第32回 関西綜美会展	5 / 16 ~ 5 / 23	3 4 5	絵画、彫塑、工芸、写真、 その他（水墨）	116点 無料	1,190
13	第42回 広島県日本画展	5 / 23 ~ 5 / 30	1 2 3	絵画	71点 無料	1,182
14	第40回 合同美術展	5 / 23 ~ 5 / 30	4 5	絵画、工芸、書、写真、その他（水墨、つまみ絵）	139点 無料	774
15	第59回 光陽展	5 / 30 ~ 6 / 6	1 2 3 4 5	絵画	143点 一般・大学生500円 高校生以下無料	1,548
16	武蔵野美術大学校友会広島支部 第40回 MUSABI展	6 / 6 ~ 6 / 13	1	絵画、彫塑、工芸、写真、 その他（立体）	18点 無料	1,297
17	第14回 広島県伝統工芸能面展	6 / 6 ~ 6 / 13	2	工芸	88点 無料	842
18	第51回 新制作広島グループ展	6 / 6 ~ 6 / 13	3 4	絵画、彫塑	54点 無料	1,248
19	第1回 CROSS ART展	6 / 6 ~ 6 / 13	5	絵画、その他（インсталレーション）	47点 無料	726
20	第97回 光風会展	6 / 13 ~ 6 / 20	1 2 3 4 5	絵画、工芸	173点 一 般 600円 高・大生 500円 中学生以下無料	8,390
21	第16回 墨林会水墨画展	6 / 20 ~ 6 / 27	1	絵画	58点 無料	546
22	第46回 グループいしがき展	6 / 20 ~ 6 / 27	2 3	絵画	87点 無料	1,039
23	第46回 広島県写真連盟展	6 / 20 ~ 6 / 27	4 5	写真	303点 無料	1,251
24	第51回 日本版画会展（広島会場）	6 / 27 ~ 7 / 4	1 2 3	絵画	136点 無料	1,496
25	第45回 みのん展	6 / 27 ~ 7 / 4	4	絵画	91点 無料	485
26	第34回 グループ「集」展	7 / 4 ~ 7 / 11	1	絵画	26点 無料	597
27	小笠原忠弘遺作展	7 / 4 ~ 7 / 11	2 3 4	絵画	81点 無料	932
28	第77回 東光展	8 / 1 ~ 8 / 8	1 2 3 4 5	絵画	209点 一 般 600円 高・大生 500円 中学生以下無料	4,518

番号	展 覧 会 名	会 期	展 示 室	内 容	入 場 料 金	入場者数
29	第20回 新構造ひろしま展	8 / 8 ~ 8 / 15	1 2	絵画、写真 53点	無料	943
30	第7回 墨韻会展	8 / 8 ~ 8 / 15	3 4	絵画、書 72点	無料	956
31	黄人展	8 / 8 ~ 8 / 15	5	絵画、彫塑 39点	無料	592
32	平成23年度 広島県特別支援学校美術・工芸展	8 / 15 ~ 8 / 22	1 2	絵画、彫塑、工芸、書、写真 629点	無料	874
33	第83回 北翔展	8 / 15 ~ 8 / 22	3 4	絵画 53点	無料	780
34	第40回 福岡教育大学瀬戸内県人会書作展	8 / 15 ~ 8 / 22	5	書 19点	無料	410
35	第63回 毎日書道展中国展	8 / 22 ~ 8 / 29	1 2 3 4 5	書 930点	一 般 800円 高・大生 500円 高校生以下無料	4,931
36	第29回 ARGグループ絵画展	8 / 29 ~ 9 / 5	1	絵画 50点	無料	451
37	第36回 2011 JPS展	8 / 29 ~ 9 / 5	2 3 4 5	写真 750点	一 般 700円 大学生・65歳以上400円 高校生以下無料	1,473
38	第25回 日洋展広島会場	9 / 5 ~ 9 / 12	1 2 3 4 5	絵画 156点	一 般 600円 高・大生 400円 中学生以下無料	5,100
39	第37回 ヒロシマ・ラボ・クラブ写真展	9 / 12 ~ 9 / 19	1	写真 56点	無料	669
40	第23回 クロッキー同好会作品展	9 / 12 ~ 9 / 19	2	絵画 80点	無料	600
41	第5回 新展広島公募展	9 / 12 ~ 9 / 19	3	絵画、工芸、書、写真 49点	無料	754
42	第57回 広島戦場美術展	9 / 12 ~ 9 / 19	4 5	絵画、工芸、書、写真、 その他(染色、はり絵、コンピューターグラフィックス) 160点	無料	907
43	第23回 滴展	9 / 19 ~ 9 / 26	1	絵画 41点	無料	1,266
44	社団法人新興美術院広島支部 第27回展	9 / 19 ~ 9 / 26	2	絵画 21点	無料	1,226
45	第15回 グループ「Z」水彩展	9 / 19 ~ 9 / 26	3	絵画 24点	無料	950
46	第54回 広島県児童画連盟展	9 / 19 ~ 9 / 26	4	絵画、工芸 394点	無料	1,054
47	第30回 互の会 日本画展	9 / 19 ~ 9 / 26	5	絵画 73点	無料	1,268
48	Petals VIII	9 / 26 ~ 10 / 3	1	絵画 20点	無料	400
49	「躍動する太陽社展」 ～竹澤丹一先生13回忌追悼～	9 / 26 ~ 10 / 3	2 3	工芸、書、その他 118点	無料	1,544
50	第39回 広島彫刻会展	9 / 26 ~ 10 / 3	4	彫塑、写真、その他(パネル) 35点	無料	878
51	第6回 広島県水墨作家協会展	9 / 26 ~ 10 / 3	5	絵画、書 28点	無料	1,298
52	第17回 NHK文化センター広島写真教室(Ⅱ)作品展	10 / 3 ~ 10 / 10	2	写真 114点	無料	1,067
53	第22回 風の会写真展四季讃歌	10 / 3 ~ 10 / 10	3	写真 60点	無料	1,006
54	第41回 渦展	10 / 3 ~ 10 / 10	4	絵画 77点	無料	589
55	第47回 広島形象派展	10 / 3 ~ 10 / 10	5	絵画 36点	無料	549
56	第57回 チャーチル会広島絵画展	10 / 10 ~ 10 / 17	1	絵画 34点	無料	342
57	第19回 ROSÉ野ばら会作品展	10 / 10 ~ 10 / 17	2 3	絵画 85点	無料	818
58	広島YMCA学園 2011生徒作品展 「芸大美術受験科」「児童美術」	10 / 10 ~ 10 / 17	4 5	絵画、写真、その他(立体) 351点	無料	724
59	第26回 NOA展	10 / 17 ~ 10 / 24	1	写真 69点	無料	1,207
60	第33回 一般社団法人二科会写真部 広島支部公募展	10 / 17 ~ 10 / 24	2 3 4 5	写真 443点	無料	2,371
61	第28回 産経国際書展瀬戸内展	10 / 24 ~ 10 / 31	1 2 3 4 5	書 318点	無料	1,752
62	第12回 創手人・染展	10 / 31 ~ 11 / 7	1 2	工芸 45点	無料	881
63	京都造形芸術大学通信教育部 広島学習会 第7回歩展	10 / 31 ~ 11 / 7	3	絵画、その他(陶芸) 44点	無料	547

番号	展 覧 会 名	会 期	展 示 室	内 容	入 場 料 金	入場者数
64	第11回 凜の会展	10/31～11/7	4	絵画 40点	無料	678
65	第20回 ぐるーぶNAN作品展	10/31～11/7	5	絵画 52点	無料	740
66	第35回 広島県高等学校総合文化祭 第43回 広島県高等学校美術・工芸展	11/7～11/14	1 2 3 4 5	絵画、彫塑、工芸、その他 (デザイン) 590点	無料	501
67	第35回 広島県高等学校総合文化祭 第43回 広島県高等学校書道展	11/14～11/21	1 2 3 4	書 341点	無料	1,005
68	第35回 広島県高等学校総合文化祭 第43回 広島県高等学校写真展	11/14～11/21	5	写真 283点	無料	819
69	第15回 全陶展広島支部展	11/21～11/28	1	工芸 23点	無料	622
70	第42回 元陽展広島会場	11/21～11/28	2 3	絵画 96点	無料	2,949
71	第11回 守長グループ絵画展	11/21～11/28	4 5	絵画 112点	無料	1,009
72	第20回 広島県シルバー作品展 第22回 自慢の孫写真展	11/28～12/5	1 2 3 4 5	絵画、彫塑、工芸、書、写真 437点	無料	1,640
73	第75回 新制作絵画展	12/5～12/12	1 2 3 4 5	絵画 103点	一 般 600円 大学生以下無料	4,430
74	第64回 広島県児童生徒書道展	12/12～12/19	1 2 3 4 5	書 3,300点	無料	6,642
75	西村不可止と仲間たち展	12/19～12/26	1	絵画 47点	無料	626
76	第35回 広陽カメラクラブ写真展	12/19～12/26	2 3	写真 203点	無料	1,481
77	第3回 広島国展	12/19～12/26	4 5	絵画 40点	無料	524
78	第24回 広島日展会展	1/3～1/9	1 2 3 4 5	絵画、彫塑、工芸、書 147点	一 般 400円 高・大生 300円 中学生以下無料	4,699
79	第96回 二科展(第56回広島巡回展)	1/9～1/16	1 2 3 4 5	絵画、彫塑、写真、その他 562点	一 般 600円 高・大生 400円 中学生以下無料	7,527
80	比治山大学短期大学部美術科 第44回卒業制作展・第10回修了制作展	1/16～1/23	1 2 3 4 5	絵画、彫塑、工芸、 その他(グラフィック・メディア) 139点	無料	844
81	第65回記念二紀展 広島巡回展	1/23～1/30	1 2 3 4 5	絵画、彫塑 138点	一 般 600円 高・大生 500円 中学生以下無料	6,301
82	第30回 彩友会展	1/30～2/6	1 2	絵画 75点	無料	851
83	第46回 日本光画会写真展「光展」	1/30～2/6	3 4 5	写真 330点	無料	883
84	第43回 安田女子大学書道文化専攻卒業制作展 併催 安田女子大学書道文化専攻展 安田学園小・中・高等学校併設展	2/6～2/13	1 2 3 4 5	書 354点	無料	1,229
85	平成23年度 広島県立熊野高等学校 芸術類型美術・書道コース卒業作品展	2/13～2/20	1 2	絵画、彫塑、工芸、書 85点	無料	1,348
86	2012全日本写真連盟広島県本部展	2/13～2/20	3 4 5	写真 423点	無料	1,286
87	第60回 書の友全国書道展覧会	2/20～2/27	1 2 3 4 5	書 3,900点	無料	3,711
88	穴吹デザイン専門学校卒業修了制作展 2012	2/27～3/5	1 4	その他(デザイン、マンガ、イラスト) 230点	無料	630
89	第50回 広島大学大学院教育学部研究科 造形芸術教育学専修教育学部 第四類造形芸術系 コース修了・卒業制作展/論文発表会	2/27～3/5	2 3	絵画、彫塑、工芸、 その他(デザイン、パネル、論文) 94点	無料	818
90	第36回 広島県工芸美術作家協会展	2/27～3/5	5	工芸 32点	無料	424
91	ひろしま美術研究所 広島芸術専門学校 合同作品展	3/5～3/12	1 2 3	絵画、彫塑、工芸 350点	無料	836
92	シード展 シード美術研究所 平成23年度在籍生徒作品展	3/5～3/12	4 5	絵画 300点	無料	626
93	JPA展 第22回日本写真作家協会展 第9回日本写真作家協会公募展	3/12～3/19	1 2 3 4 5	写真 320点	無料	2,200

番号	展 覧 会 名	会 期	展 示 室	内 容	入 場 料 金	入 場 者 数
94	広島芸術学会「制作と思考」第8回展	3 / 19 ~ 3 / 26	1 2 3 4	絵画、工芸、書、 その他（版画、立体、三味線） 28点	無料	751
95	第32回 路展	3 / 19 ~ 3 / 26	5	絵画 58点	無料	914
96	鬼頭純平絵画展	3 / 26 ~ 4 / 2	1	絵画 100点	無料	1,180
97	第15回 広島水墨画会展	3 / 26 ~ 4 / 2	2 3	絵画 98点	無料	932
98	第4回 ピカソ塾合同芸術展	3 / 26 ~ 4 / 2	4 5	絵画、工芸、書 121点	無料	449

9 友の会事業報告

「すぐれた美術作品に接し、それを鑑賞する楽しさを分かち合いながら自分自身を高めてゆく」ことを目的に昭和47年1月21日に発足した。平成3年から平成8年までの新館工事中は会自体が休止状態にあったが、リニューアルオープンを機に友の会もボランティアで運営する新しい組織となり、会員相互の親睦と、美術館の事業にも協力・支援することを目的として平成9年4月1日付で再出発した。

会員数869人（個人577人 家族273人 学生6人 賛助12人 特別賛助1人）

1. 会報の発行

発行 55号、56号、57号、58号 配布先 会員、美術館関係他

2. 美術情報の発行及び催し物の案内

美術情報88号、89号他

3. 広島県立美術館所蔵作品展のボランティアによるギャラリーガイド

- ・定時 火曜日～金曜日は毎日 14時から実施
土曜日、日曜日、祝日 11時及び14時から実施
但し、第4土曜日11時は親子ギャラリーガイド
- ・臨時 団体申し込み及び美術館の要請により随時実施

4. ボランティア・ギャラリーガイド研修会（美術館と共催）

- ◆所蔵作品展研修（展示替えの時期）
◇平成23年 6／4、9／17、12／3 平成24年 3／24
- ◆ギャラリーガイド研修
◇平成23年7月9日（土）「広島美術 1940—1960」

講師：金田 晋（広島大学名誉教授）



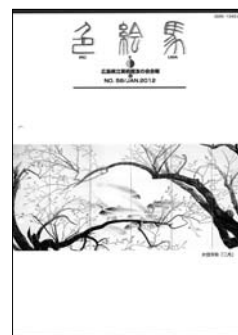
『色絵馬』No.55



『色絵馬』No.56



『色絵馬』No.57



『色絵馬』No.58

5. 日本伝統工芸出張授業の支援

平成23年 10／31(月)	菅坂 安子 — 七宝	呉市立昭和東小学校
11／8(火)	小原よう子 — 陶芸	海田町立海田西小学校
11／22(火)	馬船 宏明 — 漆芸	東広島市立河内西小学校
12／2(金)	小林 利幸 — 木工	坂町立小屋浦小学校
平成24年 1／18(水)	山根 宏造 — 陶芸	廿日市市立阿品台東小学校

6. 講演会（美術館と共催）

- ◆平成23年10月8日（土）「ウクライナの至宝」展 関連
演題：「ようこそウクライナへ」
講師：マリア・ペプナ（ウクライナ大使館文化担当）
- ◆平成23年11月5日（土）「抱きしめたい！ 近代日本の木彫展」関連
演題：「木 — その神秘と魅力」
講師：関 太郎（広島大学名誉教授）

◆平成23年12月17日(土)「抱きしめたい！ 近代日本の木彫展」関連

演題：アーティストトーク

講師：三沢厚彦（彫刻家）

◆平成24年1月29日(日)「第59回日本伝統工芸展」関連

演題：「紬織に魅せられて」

講師：佐々木苑子（重要無形文化財保持者）

◆平成24年3月10日(土)「福田繁雄大回顧展」関連

演題：「デザインは生き続ける。」

講師：浅葉克己（アートディレクター）



7. 「もっと知ろうシリーズ」（美術館と共催）

◆平成23年6月19日(日)

演題：「日本画家 児玉希望 魅惑の世界」

講師：川口直宜（泉屋博古館 分館長）

◆平成24年2月4日(土)

演題：「岩崎氏染織コレクションにみるアジアの裂の魅力」

講師：岩崎 博（茶人・コレクター） 福田浩子（広島県立美術館主任学芸員）

8. 友の会オリジナル版画の頒布（70部以上の申し込みで実施）

版画作家：山本美次

申し込み数：70部

9. 美術鑑賞の旅

◆日帰り美術鑑賞旅行

◇姫路市立美術館「酒井抱一と江戸琳派の全貌」

華鶴大塚美術館「待月一名月とともに」

第1班 平成23年8月31日(水) 第2班 平成23年9月4日(日)

◇笠岡市立竹喬美術館「アンリ・ルソーと素朴な画家たち」展

高梁市成羽美術館「マリーローランサンとその時代展」

第1班 平成23年11月16日(水) 第2班 平成23年11月19日(日)

◇田部美術館「四季の茶道具 梅一輪」

島根県立美術館「没後40年 伊東深水展」

第1班 平成24年2月5日(日) 第2班 平成24年2月8日(水)

◇今治市玉川近代美術館「所蔵作品Ⅳ」

愛媛県美術館「地上の天空 故宫博物院」

平成24年3月9日(金)

◆宿泊美術鑑賞旅行

◇MIHOミュージアムと秋の特別展めぐり 2泊3日

平成23年9月28日(水)～9月30日(金)

◆海外美術鑑賞旅行（友の会協賛事業）

第11回世界の美術館めぐり

◇「台北 故宫博物院」を巡る2泊3日の旅

第1班 平成24年1月25日～1月27日 第2班 平成24年1月30日～2月1日



Ⅳ 業務一覧

広島県立美術館学芸員が平成23年度に行なった業務を報告する。

内容は、1. 美術館内での業務等（館主体事業）、2. 美術館外での業務等（他からの招聘等）、3. 調査・研究活動、4. 社会貢献活動等、に分類・配列し、記載している。

学芸員の構成及び担当分野は次のとおり。

松田 弘（課長、西洋美術）	宮本真希子（主任学芸員、工芸）
角田 新（主任学芸員、日本洋画）	石橋健太郎（主任学芸員、工芸）
福田 浩子（主任学芸員、工芸）	石川 哲子（主任学芸員、彫塑）
永井 明生（主任学芸員、日本画）	藤崎 綾（主任学芸員、日本洋画）
周々木朝香（主任学芸員、西洋美術）	山下 寿水（学芸員、西洋美術）

■ 松田 弘

1 美術館内での業務

【担当業務】

- ・学芸課の総括

【教育支援（教育普及）】

- ・博物館実習講義「美術館と学芸業務」（8／17）

2 美術館外での業務

【講座・講演・シンポジウム等】

- ・広島大学講座「アートと哲学」（年間2回）
- ・広島市立大学講座「アートマネジメント」（年間2回）

3 調査研究活動

- ・学芸課研究会「平山郁夫におけるジョルジュ・スーラの影響」（7／26）

4 社会貢献活動

【所属学会・外部委員等】

- ・広島芸術学会委員
- ・財団法人五島記念文化財団の「美術新人賞候補者推薦委員」
- ・VOCA展推薦委員
- ・損保ジャパン美術財団選抜奨励展推薦委員
- ・「広島文化奨励賞」（けんしん文化財団主催）推薦委員
- ・広島市立大学収集評価委員

【公募展審査・作品評価】

- ・岩国市美術展審査員
- ・広島県建築文化賞選考委員

■ 宮本 真希子

1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・所蔵作品展第4室第1期「焼き物の諸相～館蔵品でつづる日本陶磁紀行～」
- ・特別展「ウクライナの至宝～スキタイ黄金美術の煌き」（副担当）
- ・特別展「第58回日本伝統工芸展」（主担当）

- ・平成24年度特別展「NHK大河ドラマ50年特別展『平清盛』」(H24. 4/21～6/3) (副担当)

【教育支援(教育普及)】

- ・「復興への願いをこめて」展ギャラリートーク：6/9
- ・「ウクライナの至宝～スキタイ黄金美術の煌き」展ギャラリートーク：9/16、9/17、9/23、9/24、9/30、10/14、10/22、10/28、10/29、11/5、11/12
- ・「ウクライナの至宝～スキタイ黄金美術の煌き」展団体鑑賞レクチャー：10/22、10/27
- ・「第58回日本伝統工芸展」ギャラリートーク：1/27、2/3、2/6(食とアートと音楽と)、2/10
- ・「第58回日本伝統工芸展」小学校団体鑑賞レクチャー：2/2、2/7、2/8
- ・「第58回日本伝統工芸展」親子ガイドブック作成：B6判16ページ、6,000部
- ・所蔵作品展ミニギャラリートーク：8/6、8/27、9/3、9/24、10/8、10/29、11/20、11/27、12/18、2/19、2/26、3/4、3/25

【広報活動】

- ・「ウクライナの至宝～スキタイ黄金美術の煌き」展：RCCラジオ出演(9/16、10/8)、情報誌 Cue インタビュー掲載(11/4)
- ・「第58回日本伝統工芸展」：県内入選作品解説①～⑦(朝日新聞1/19～1/26)
- ・広島県立美術館ホームページ・ブログ投稿：「ウクライナの至宝～スキタイ黄金美術の煌き」ワークショップ(10/12、10/29)、「第58回日本伝統工芸展」ギャラリートーク・ワークショップ(1/29、2/5、2/7、2/8、2/18、2/22、2/25)
- ・中国化薬(株)社報『ふれあい』No. 62(秋号)作品解説寄稿「北大路魯山人『織部魚鱗文俎板角皿』」

2 美術館外での業務等

【講座・講演・シンポジウム等】

- ・広島市立大学芸術学部工芸概論講師(10/24、11/28、1/16、1/30)

【その他】

- ・「NHK大河ドラマ50年特別展『平清盛』」企画委員

3 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

- ・六角紫水の技法・材質調査(広島市立大学指定研究「文化財学、保存修復に関する研究、教育プログラム導入に関する調査・研究」による文化財調査プログラム)：2/22

【館内出版物等への執筆】

- ・第1期所蔵品展目録「焼物の諸相～館蔵品でつづる日本陶磁紀行」
- ・広島県立美術館館蔵品データベース作品解説(22作品)

【館外出版物等への執筆】

- ・「NHK大河ドラマ50年特別展『平清盛』」図録作品解説(26作品)：1/2(NHK・NHKプロモーション発行)

4 社会貢献活動

【所属学会、外部委員、審査員など】

- ・日本漆工史学会、全国美術館会議教育普及部会

■ 角田 新

1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・所蔵作品展第2室第1期「表現と技法 ツルツルからデコボコまで」
- ・所蔵作品展第2室第4期「旅」
- ・特別展「復興への願いを込めて」展(主担当)
- ・「ウクライナの至宝～スキタイ黄金美術の煌き」展(主担当)
- ・「抱きしめたい！近代日本の木彫展」(副担当)
- ・平成24年度特別展「木を植えた男 フレデリック・バック展」(主担当)

【教育支援（教育普及）】

- ・「復興への願いを込めて」展：ギャラリートーク 4/22～6/10（毎週金曜日、8回）
- ・「ウクライナの至宝～スキタイ黄金美術の煌き」展ギャラリートーク：9/16、9/23、9/30、10/7、10/15、10/21、10/28、11/4、11/5（ギャラリーコンサート）、11/11
- ・「ウクライナの至宝～スキタイ黄金美術の煌き」展レクチャー：ちゅーピー美術サロン（9/30）、よくわかる解説付き鑑賞会（10/1）、手話通訳解説付き鑑賞会（10/29）、学校団体鑑賞（江田島小学校（10/7）、安田女子高等学校（10/31、11/2、11/4））
- ・所蔵作品展ミニギャラリートーク：8/7、8/14、8/28、9/4、9/18、9/25、10/9、11/5、11/19、12/25、1/7、2/4、2/26、3/4、3/11
- ・所蔵作品展ボランティアガイドレクチャー：12/3（第4期）

【研修・自己啓発】

- ・公開シンポジウム「市民と共にミュージアムIPM」参加（1/14）
- ・第4回 文化財害虫セミナー「昆虫概論・身近な虫たち」受講（1/14）

【広報活動】

- ・「ウクライナの至宝～スキタイ黄金美術の煌き」展
新 聞：中国新聞朝刊文化面「ウクライナの至宝展に寄せて」寄稿（10/22）
テレビ：RCC「エンタがR」みどころ案内（8/28）、
CATVふれあいチャンネル「ア・ミュージアム・レター」（9/13～11/13）
ラジオ：FM尾道電話インタビュー（9/15）、ひろしまFM「アヤノスタイル」（9/16）、
RCCラジオ「午前様通信」（9/19）、RCCラジオ「バリシャキ」（9/22）、
FM廿日市「よくばりファクトリー」展（9/21）、FMふくやま電話インタビュー（9/27）、
ひろしまFM「オーバー・ザ・レインボー」（10/1）、
・「復興への願いを込めて」展：中国新聞朝刊文化面「復興への願いを込めて展に寄せて」（5/20）寄稿
・プレスネット「情報クラブ」（8/27）
・ウインク10月号コラム（9/23）
・「旬遊」2012年4月号 所蔵作品展紹介（檜山武男「プラットホーム」）
・広島県立美術館ホームページ・ブログ投稿：「ウクライナの至宝～スキタイ黄金美術の煌き」展関連（9/7、9/14、9/18、9/26、9/27、10/10、11/5、11/7、11/11、12/4）、「近代日本の木彫展」関連（12/7、12/8、2/13）、木版技法（1/9）、LED照明（2/2）、磯江毅展（3/12）

2 美術館外での業務等

【講座・講演・シンポジウム等】

- ・アートアンドイートの会「ウクライナ展」レクチャー：9/23
- ・比治山大学公開講座「ウクライナ展」レクチャー：9/25
- ・広島市立大学非常勤講師：12/20

3 調査研究活動

【館内出版物への執筆】

- ・第1期所蔵作品展目録「表現と技法 ツルツルからデコボコまで」
- ・第4期所蔵作品展目録「旅」
- ・館蔵品データベース作品解説（14作品）

4 社会貢献活動

【公募展審査・作品評価など】

- ・広島県環境ポスター審査員
- ・日本赤十字社 献血ポスター審査員
- ・Aコープ「野菜大好き」絵画展審査員
- ・美術ひろしま編集委員

■ 石橋 健太郎

1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・所蔵作品展第4室第2期「広島にまつわる工芸作家」
- ・特別展「夏休み子ども美術館」（主担当）
- ・特別展「第58回日本伝統工芸展」（副担当）
- ・平成24年度特別展「NHK大河ドラマ50年 平清盛」（主担当）

【教育支援・教育普及】

- ・「復興への願いをこめて」展ギャラリートーク：6／5
- ・「夏休み子ども美術館」展作品鑑賞会：8／23、8／24、8／25
- ・「第58回日本伝統工芸展」ギャラリートーク：1／30（食とアートと音楽と）
- ・所蔵作品展ミニギャラリートーク：8／13、9／24、10／8、10／22、11／6、11／13、12／4、12／11、1／8
- ・所蔵作品展ボランティアガイドレクチャー：6／4（第2期）

【研修・自己啓発】

- ・美術教育研究会参加（比治山大学）：隔月第三水曜日（年間6回）

2 美術館外での業務等

- ・「NHK大河ドラマ50年特別展『平清盛』」企画委員
- ・「NHK大河ドラマ50年特別展『平清盛』」展示撤収指導：江戸東京博物館（1 - 2月）、神戸市立博物館（2 - 3月）

3 調査・研究活動

【館内出版物への執筆】

- ・第2期所蔵作品展目録「広島にまつわる工芸作家」
- ・館蔵品データベース作品解説（9作品）

【館外出版物への執筆】

- ・「NHK大河ドラマ50年特別展『平清盛』」図録（1／2、NHK・NHKプロモーション発行）：論考「貴族政権から武家政権へー平氏政権の特質」、作品解説ほか各種解説

4 社会貢献活動等

【所蔵学会・外部委員など】

- ・茶の湯文化学会、日本史研究会、日本歴史学会、史学研究会、藝能史学会

■ 福田 浩子

1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・所蔵作品展彫刻展示スペース第2期「空から海まで紺碧宇宙∞～加藤卓男・宮永理吉・木村芳郎」
- ・所蔵作品展第4室第3期「騎馬の民・トルクメン人の世界ー装身具と民族衣装」
- ・所蔵作品展第4室第4期「岩崎博染織コレクション受贈記念 シルクロードをめぐる布の旅」
- ・「第63回広島県美術展」（主担当）

【教育支援（教育普及）】

- ・友の会講演会「岩崎博氏染織コレクションに見るアジアの裂の魅力」（12／4）
- ・所蔵作品展ボランティアガイドレクチャー（6／4、9／17、12／3、3／24）
- ・石田あさきトータルファッション専門学校染織作品解説（12／7）
- ・復興展ギャラリートーク（6／11）
- ・所蔵作品展ギャラリートーク（10／15、10／22、11／12、11／26、12／3、12／10、12／24、1／7、1／28、2／4、2／18、3／17、3／24）
- ・手で見える鑑賞会（5／24）
- ・館蔵品データベースの構築とインターネットでの公開

【研修・自己啓発】

- ・全国美術館会議セミナー「企画セミナーⅢ「美術情報・資料の活用ー展覧会カタログからWebまで」(12/16-17)

【広報活動】

- ・社団法人広島西法人会発行『西法人会会報』作品解説 1月号「インド『クリシュナ文更紗』」、3月号「草花蒔絵螺鈿書見台」
- ・広島県立美術館友の会会報『色絵馬』第58号「所蔵作品紹介 岩崎博氏寄贈染織コレクションから」
- ・美術館連絡協議会『美連協ニュース』第112号「新提案企画紹介 シルクロードのテキスタイルとジュエリー」
- ・NHK広島放送局「ひろもり」出演(10/31)
- ・NHKローカルニュース(2/14)
- ・広島県立美術館ホームページ・ブログ投稿:「ウクライナの至宝〜スキタイ黄金美術の煌き」展関連(9/7、9/12、10/11)、託児サービス関連(10/6、10/9)、第1期所蔵作品展関連(展示技法、9/8、9/28)、第3期所蔵作品展関連(9/20、展示関連ゲーム(ナンプレ)-10/24、11/1)、美術館業務関連(防火設備-11/28、IPM-12/21、3/31)、所蔵作品展舞台裏(1/2)、岩崎氏染織コレクション講演会(2/8)、福田繁雄大回顧展関連(2/18)

2 美術館外での業務等

【講座・講演・シンポジウム等】

- ・文化服装学院広島校「中央アジアの民族服」講師(5/18)
- ・社団法人広島県専修学校連盟 現職教育講演会講師(8/25)

3 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

- ・漆工作品調査(5/20)
- ・陶磁作品調査(6/25)
- ・染織作品調査(8/23)

【館内出版物への執筆】

- ・『岩崎博氏寄贈 染織コレクション』編集(1/2発行)
- ・「アジアの裂に注がれたまなざしー岩崎博染織コレクションについて」(『岩崎博氏寄贈 染織コレクション』)
- ・「染織品の展示と方法についてー所蔵作品展 岩崎博染織コレクション受贈記念 シルクロードをめぐる布の旅の場合」(『広島県立美術館研究紀要』第15号)
- ・第2期所蔵作品展目録「空から海まで紺碧宇宙∞〜加藤卓男・宮永理吉・木村芳郎」
- ・第3期所蔵作品展目録「騎馬の民・トルクメン人の世界ー装身具と民族衣装」
- ・第4期所蔵作品展目録「岩崎博染織コレクション受贈記念 シルクロードをめぐる布の旅」
- ・館蔵品データベース作品解説(27作品)

【館外出版物への執筆】

- ・「巻頭特集:数寄者 鶴庵・古布への情熱ー岩崎博染織コレクション受贈記念展「シルクロードをめぐる布の旅より」(『小さな蕾』2012年2月号)

【口頭発表】

- ・「内国勸業博覧会関係文献に見られる三代金城一國齋の活動について」学芸研究会(3/14)

4 社会貢献活動

【所属学会】

- ・日本中央アジア学会、漆工史学会、全国美術館会議情報・資料研究部会

■ 石川 哲子

1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・所蔵作品展彫刻展示スペース第1期「芥川永の彫刻」
- ・所蔵作品展彫刻展示スペース第3期「彫刻家 圓鋳勝三の世界 Part 1」
- ・所蔵作品展彫刻展示スペース第4期「彫刻家 圓鋳勝三の世界 Part 2」

- ・特別展「抱きしめたい！ 近代日本の木彫展」（主担当）

【教育支援（教育普及）】

- ・美術講座「圓鋸作品いろいろ」：12／24
- ・美術講座「木彫なう。一同時代木彫の動向」：1／7
- ・「抱きしめたい！ 近代日本の木彫展」ギャラリートーク：12／2（2回）、12／9（2回）、12／10、12／16（2回）、12／23（2回）、1／6（2回）、1／13（2回）、1／14
- ・所蔵作品展ミニギャラリートーク：8／21、9／4、10／15、10／16、10／29、11／5、12／10、1／15、2／18、2／25、3／18（2回）

【広報活動】

- ・「抱きしめたい！ 近代日本の木彫展」
新聞：中国新聞ふれあい面（12／9）、中国新聞文化面寄稿「抱きしめたい！ 近代日本の木彫展」（12／20）
テレビ：NHK広島「ひろもり」（12／2）、広島ホームテレビ「Jステーション」（12／9）、
広島ケーブルテレビニュース（12／12～12／16）、
CATVふれあいチャンネル「A Museum Letter」（12／26～12／30）
ラジオ：FMふくやま「GO！GO！びんご」（11／24）、FMちゅーピー「広島すまいるパフェ」（12／1）、
ひろしまFM「Over The Rainbow」（12／14）、FMはつかいち「よくばりファクトリー」（12／21）
雑誌等：「抱きしめたい！ 近代日本の木彫展」（友の会会報「色絵馬」N0. 57）、社団法人広島西法人会発行
『西法人会会報』作品解説 11月号
- ・広島県立美術館ホームページ・ブログ投稿：「抱きしめたい！ 近代日本の木彫展」関連（9／21、10／28、1／13）

2 美術館外での業務等

【講座・講演・シンポジウム等】

- ・「抱きしめたい！ 近代日本の木彫展」シンポジウム「木彫の過去・現在・未来」（碧南市藤井達吉現代美術館）：10／22

3 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

- ・近代木彫作品調査 5回

【館内出版物への執筆】

- ・所蔵作品展第1期目録「芥川永の彫刻」
- ・所蔵作品展第3期目録「彫刻家 圓鋸勝三の世界 Part 1」
- ・所蔵作品展第4期目録「彫刻家 圓鋸勝三の世界 Part 2」
- ・館蔵品データベース作品解説（2作品）

【館外出版物への執筆】

- ・「広島の近代木彫を見る」（抱きしめたい！ 近代日本の木彫展カタログ）

4 社会貢献活動

【所属学会、外部委員、審査員など】

美術史学会、美学会

■ 永井 明生

1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・所蔵作品展第3室第1期「児玉希望」、第2期「鳥を描く／花を愛でる」、第3期「孤高の日本画家 船田玉樹／深まりゆく秋」、第4期「歴史を彩る人々」
- ・平成23年度ネットワーク美術館展「児玉希望と広島ゆかりの日本画家展」（主担当）
- ・平成24年度特別展「生誕100年 船田玉樹展」の開催準備（主担当）
- ・平成25年度文化庁助成 共同企画展「絆と再生」（仮題）の開催準備（副担当）

【教育支援（教育普及）】

- ・美術館の仕事について（学芸員の仕事、教育普及活動など）レクチャー：6／2（広大大学院学外授業）、7／20（広島県立井口高等学校、館内ツアー付き）、11／4（広島市南区教頭会）、2／2（廿日市市立大野中学校）
- ・「見方や感じ方を広げる日本の美術作品の鑑賞方法」レクチャー（主催：広島県立教育センター）：7／15
- ・「復興への願いを込めて」展ギャラリートーク：6／10
- ・所蔵作品展ミニギャラリートーク：8／13、8／27、9／17、10／1、10／22、10／30、11／20、11／26、12／18、1／22、1／29、2／5、2／19、3／31
- ・所蔵作品展ボランティアガイドレクチャー：6／4（第2期）、9／17（第3期）、12／3（第4期）
- ・広島県立賀茂高等学校生徒実習対応（1名）：8／6
- ・美術作品鑑賞教室（出張授業）：12／6（呉市立三津口小学校）、12／15（尾道市立木ノ庄東小学校）、1／13（尾道市立瀬戸田小学校）、1／17（呉市立音戸小学校）
- ・ネットワーク美術館展団体鑑賞：12／19-20（甲奴小学校）
- ・アートカードの活用推進、パワーポイント教材の開発

【研修・自己啓発】

- ・全国美術館会議教育普及研究部会第38回会合参加（宮城県美術館）：9／1-2

【広報活動】

- ・第1期所蔵作品展「児玉希望」：CATVふれあいチャンネル「ア・ミュージアムレター」（6／11～7／3）、CATV・HI-CAT「ぐるあそ」（6／20～7／3）
- ・NHK平山郁夫特集番組：3／15
- ・広島テレビ「食とアートと音楽と」（県政番組）：（9／11）
- ・文化財レスキュー参加について：読売新聞（10／4）、広島経済レポート（10／25）
- ・奥田元宋について：共同印刷（5／14、彩美版《溪潤春耀》《溪潤秋耀》パンフレット）
- ・広島県立美術館友の会会報『色絵馬』：第55号「近代日本画壇の巨匠 児玉希望」、第58号 作家・作品解説（片田天玲）
- ・広島県立美術館ホームページ・ブログ投稿：9／14（ウクライナの至宝展）、9／28（文化財レスキュー参加報告）、10／18（他館・岩崎英遠／平山郁夫展）、11／13（所蔵作品展）、12／13（ネットワーク美術館展）、1／19（学芸業務－調査研究）

2 美術館外での業務等

【講座・講演・シンポジウム等】

- ・「児玉希望と広島ゆかりの日本画家」展（奥田元宋・小由女美術館）ギャラリートーク：11／2、12／11（各2回）

3 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

船田辰子氏宅（船田玉樹作品調査 5／9）、江田島市内（船田玉樹作品調査 5／18）、呉市内（船田玉樹作品調査 5／19）、広島銀行本店調査（児玉希望、奥田元宋等 6／20）、広島芸術学会第96回例会（小磯良平作品等調査）、呉市内各所（船田玉樹作品調査 12／16-17）、東京都内各所（船田玉樹作品調査 1／23-24）、江田島及び呉市内各所（船田玉樹作品調査 2／3-4）、船田辰子氏宅（船田玉樹作品調査 3／5）、広島市内各所（船田玉樹作品調査 3／7-9）、船田辰子氏宅（船田玉樹作品調査 3／26）、船田辰子氏宅（船田玉樹作品調査 3／31）

【館内出版物への執筆】

- ・研究紀要第14号「児玉希望と戊辰会（一）－資料紹介・原田信造著「戊辰会史」
- ・所蔵作品展目録：第1期「児玉希望」、第2期「鳥を描く／花を愛でる」、第3期「孤高の日本画家 船田玉樹／深まりゆく秋」、第4期「歴史を彩る人々」
- ・館蔵品データベース作品解説（39作品）

【館外出版物への執筆】

- ・「広島芸術学会会報第115号」11／30「第96回例会報告～大野ギャラリーとヒロセコレクションを巡る」
- ・「Hiroshima Ex-cite」11／12「広島から東北を見つめて」
- ・「奥田元宋・小由女美術館夢スタッフニュースVOL. 70」1／23「文化財レスキューについて」

【口頭発表】

- ・学芸課研究発表会「船田玉樹一人と作品」：11/2

4 社会貢献活動

【所属学会、外部委員、審査員など】

- ・大正イマジユリィ学会、広島芸術学会
- ・日経日本画大賞展推薦委員
- ・全国美術館会議教育普及部会
- ・文化財レスキュー参加（9/20～24）
- ・社会教育功労者表彰（11/18）

■ 藤崎 綾

1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・所蔵作品展第2室第2期「画家の自画像と創作の現場」
- ・所蔵作品展第2室第3期「没後100年 広島洋画界の先達・小林千古」
- ・特別展「フレデリック・バック展」（副担当）
- ・平成24～25年度「夏目漱石の美術世界展」（仮称）（開催準備・主担当）

【教育支援（教育普及）】

- ・博物館実習（統括）：6/7、6/11、6/17、8/17～8/23
- ・学校団体利用への美術館紹介・所蔵品解説会：6/1、11/24、12/7、12/21、1/13、1/17、1/20、1/31、2/1、2/7、2/9、2/10、2/15、2/17、2/24、3/1、3/5、3/13、3/19、3/21
- ・『広島県立美術館アートカード入門ー観賞学習へのヒントー』（観賞学習補助教材の活用事例集）発行：7/31
- ・所蔵作品展ボランティアガイドレクチャー：6/4（第2期）、9/3（第3期）
- ・「復興への願いを込めて」展ギャラリートーク：6/8
- ・所蔵作品展ミニギャラリートーク：8/7、8/14、8/28、9/11、9/25、10/2、10/9、10/30、11/27、12/4、12/11、2/12、3/10

【研修・自己啓発】

- ・鑑賞教材開発のための研究会出席：3回

【広報活動】

- ・作品解説「中西利雄『中野風景』」社団法人広島西法人会発行『西法人会会報』5月号
- ・「アート・トライアングルひろしま」『ひろしま市民と市制』：6/15
- ・「アート・トライアングルひろしま連携企画について」『広島ケーブルテレビ』：7/6
- ・「アート・トライアングルひろしま連携企画について」『ふれあいチャンネル』：7/20
- ・広島県立美術館ホームページブログ投稿：9/28（所蔵作品展・小林千古）、11/14（他館・小林千古展）、12/12（学校団体利用報告）、12/29（他館・池田快造展）
- ・「小林千古」広島県立美術館友の会会報『色絵馬』第57号

2 美術館外での業務等

- ・平成22年度～平成24年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）「教員養成・美術館・小中連携による批評力を育むグローバル時代の美術教育カリキュラム・研究協力者

3 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

- ・広島ゆかり作家・作品調査：山路商、殿敷侃ら（5/21、6/21、8/3、8/7、8/8、9/4、1/17）
- ・藤田嗣治作品調査（2/15）
- ・鑑賞教材活用授業調査（2/28、3/14）

【館内出版物への執筆】

- ・「黒川節司の美術活動ー昭和戦前期の広島における美術家支援と美術館構想ー」（当館研究紀要）
- ・第2期所蔵作品展目録「画家の自画像と創作の現場」

- ・第3期所蔵作品展目録「没後100年 広島洋画界の先達・小林千古」
- ・館蔵品データベース作品解説（26作品）

【口頭発表】

- ・学芸課研究発表会「小林千古」：（11月2日）

■ 周々木 朝香

1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・所蔵作品展第1室第1期「アリスティード・マイヨール《ウェルギリウスの農耕歌》～のどかなる情景～」
- ・所蔵作品展第1室第3期「ナチスに『退廃』の烙印をおされた美術家たち」
- ・特別展「印象派の誕生～ミレー、クールベ、モネ、ルノワール、ゴッホ」（主担当）
- ・特別展「ウクライナの至宝～スキタイ黄金美術の煌き」（副担当）
- ・特別展「夏休み子ども美術館」（副担当）
- ・特別展「ユーモアのすすめ～福田繁雄大回顧展」（副担当）
- ・平成23年度美術館ネットワーク美術館展「児玉希望と広島ゆかりの日本画家展」（副担当）
- ・平成24年度特別展「永田萌展」（開催準備、主担当）

【教育支援（教育普及）】

- ・美術作品鑑賞教室（副担当）：呉市立三津口小学校（12／6）、尾道市立木ノ庄東小学校（12／15）、尾道市立瀬戸田小学校（1／13）、呉市立音戸小学校（1／17）
- ・「福田繁雄大回顧展」ギャラリートーク：3／17
- ・所蔵作品展ミニギャラリートーク：8／6、9／3、9／17、10／1、10／16、11／6、11／12、12／17、12／25、1／14、1／21、2／11、3／3（2回）、3／10
- ・所蔵作品展ボランティアガイドレクチャー：9／17（第3期）
- ・館蔵品キャプション製作

【研修・自己啓発】

- ・第4回文化財害虫セミナー「昆虫概論・身近な虫たち」受講（1／14）

【広報活動】

- ・広島交響楽団プログラム「エル・リシツキー」
- ・広島県立美術館ホームページ・ブログ投稿：美術館業務紹介（ネットワーク美術館展／美術作品鑑賞教室、11／18、12／1、12／19）、「福田繁雄大回顧展」関連（2／19、2／27、3／4）

2 美術館外での業務等

【講座・講演・シンポジウム等】

- ・比治山大学公開講座講師「印象派の誕生」（5／21）

3 調査・研究活動

【館内出版物への執筆】

- ・第1期所蔵作品展目録「アリスティード・マイヨール《ウェルギリウスの農耕歌》～のどかなる情景～」
- ・第3期所蔵作品展目録「ナチスに『退廃』の烙印をおされた美術家たち」
- ・館蔵品データベース作品解説（14作品）

【館外出版物への執筆】

- ・「印象派の誕生」展カタログ執筆（章解説1件、作家解説9件、作品解説1点）

【口頭発表】

- ・学芸課研究発表会「退廃芸術」（10／12）

4 社会貢献活動等

【所蔵学会・外部委員など】

- ・美術史学会

■ 山下 寿水

1 美術館内での業務

【担当展覧会】

- ・所蔵作品展第1室第2期「哲学するアート～アタマで楽しむ西洋美術」
- ・所蔵作品展第1室第4期「寓意としての機械～エルンスト《流行に栄あれ、芸術よ墜ちろ》」
- ・特別展「印象派の誕生～ミレー、クールベ、モネ、ルノワール、ゴッホ」(副担当)
- ・特別展「復興への願いを込めて～コレクションで辿る広島県立美術館の歩み」(副担当)
- ・特別展「第63回広島県美術展」(副担当)
- ・特別展「ユーモアのすすめ～福田繁雄大回顧展」(主担当)
- ・平成24年度特別展「世界遺産 ヴェネツィア展」(主担当・開催準備)
- ・平成25年度特別展「ピース・ミーツ・アート (仮)」(主担当・開催準備)
- ・シンポジウム「アートによる街づくりと美術館」：7/24 (担当)

【教育支援 (教育普及)】

- ・「復興への願いを込めて」展ギャラリートーク：6/12
- ・「夏休み子ども美術館」ワークショップ「はじめてのお能体験！」講師：8/20
- ・「福田繁雄大回顧展」ギャラリートーク：2/22、2/24 (2回)、2/27、3/2 (2回)、3/3、3/6、3/9 (2回)、3/12、3/16、3/21、3/23 (2回)、3/30 (2回)、3/31
- ・「福田繁雄大回顧展」レクチャー：2/25 (よくわかる解説付き鑑賞会)、3/24 (美術講座)
- ・「福田繁雄大回顧展」ワークショップ講師：2/26、3/25 (各日2回)
- ・「福田繁雄大回顧展」美術作品鑑賞授業：2/24、3/1、3/5、3/19、3/21
- ・所蔵作品展ミニギャラリートーク：8/21、9/11、10/2、10/23、11/13、11/19、12/3、12/17、12/24、1/21、1/22、1/29、2/11、2/12、3/31
- ・所蔵作品展ボランティアガイドレクチャー：6/4 (第1期)、12/3 (第4期)

【広報活動】

- ・「福田繁雄大回顧展」：ラジオ出演 (2/16、3/7、3/13、3/20)、テレビ出演 (2/20、2/22、3/2、3/3、3/9、3/16、3/17、3/19-22、3/26-29)、作品解説連載①～⑤ (読売新聞、3/3-7)、展覧会紹介 (毎日新聞 3/15、広島経済新聞 3/19、広島県立美術館友の会会報『色絵馬』(NO. 53)、『Wink』2012年4月号)
- ・広島県立美術館ホームページ・ブログ投稿：ヨーロッパ・アート紀行 (9/18、9/29、10/7)、ギャラリーコンサート & 所蔵作品展紹介 (10/23)、「ユーモアのすすめ～福田繁雄大回顧展」関連 (11/10、12/23、2/11、3/2、3/14)

2 美術館外での業務等

【講座・講演・シンポジウム等】

- ・「ART&EAT 学芸員に聞く 復興への願いを込めて展」コンダクター：6/3
- ・「第6回翠雲現代美術館」イベント出演 (仕舞・謡)：10/10
- ・「ART&EAT ナイトトリックアートミュージアム」コンダクター：3/30

3 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

- ・福田繁雄作品調査 (岩手県立美術館、二戸市シビックセンター)：6/19

【館内出版物への執筆】

- ・「シンポジウム アートによる街づくりと美術館」報告書編集
- ・第2期所蔵作品展目録「哲学するアート～アタマで楽しむ西洋美術」
- ・第4期所蔵作品展目録「寓意としての機械～エルンスト《流行に栄あれ、芸術よ墜ちろ》」
- ・館蔵品データベース作品解説 (7点)

【館外出版物への執筆】

- ・「印象派の誕生」展カタログ執筆 (作家解説7件、作品解説3点、コラム1点)
- ・「福田繁雄大回顧展」カタログ執筆 (作品解説13点、コラム1点)

- ・「タスマニアの性と死と生～新設美術館MONAから浮かび上がるもの」『広島芸術学会会報』（第112号）

【口頭発表】

- ・学芸課研究発表会「サルバドール・ダリ《ヴィーナスの夢》の新発見について」：1／25

4 社会貢献活動等

【所属学会、外部委員、審査員など】

- ・広島芸術学会

V 入館者数一覧

展 覧 会 名		所蔵作品展	特 別 展			
			復興への願いを込めて展 ーコレクションで迎える 広島県立美術館の歩みー	第63回 広島県美術展	夏休み子ども美術館	ウクライナの至宝 ースキタイ黄金美術の煌きー
開 催 期 日		H23.4.1 ～ H24.3.31	H23.4.21 ～ H23.6.12	H23.7.19 ～ H23.7.31	H23.8.11 ～ H23.8.28	H23.9.13 ～ H23.11.13
開 催 日 数		327 日	47 日	12 日	16 日	62 日
個 人	一 般	1,676	2,796	3,608	—	8,346
	高・大学生	172	187	82	—	376
	小・中学生	—	—	162	—	371
	小 計	1,848	2,983	3,852	—	9,093
団 体	一 般	2,445	23,187	1,091	—	19,684
	高・大学生	394	90	21	—	918
	小・中学生	—	—	19	—	515
	小 計	2,839	23,277	1,131	—	21,117
有 料 入 館 者 数		4,687	26,260	4,983	—	30,210
招 待 者 等		57,188	5,062	2,046	8,870	4,521
合 計 (観 覧 者 総 数)		61,875	31,322	7,029	8,870	34,731
一 日 あ た り 観 覧 者 数		189	606	586	554	560

(注) 1日あたり観覧者数は、小数点以下第1位を四捨五入。

所蔵作品展及び県単独主催特別展の団体人数には、所蔵作品展と縮景園・特別展と縮景園の共通入館者を含む。

所蔵作品展の「高・大学生」欄は、平成14年度の条例改正の無料化により、高校生を含まない。

所蔵作品展の招待者等には、減免及び無料入館者を含む。(平成14年度の条例改正により無料化した小・中・高校生で内数。)

「第63回広島県美術展」、「夏休み子ども美術館」以外は実行委員会主催。

団体人数には、前売り及び割引入館者を含む。

「夏休み子ども美術館」は入館料を無料とした。

「復興への願いを込めて展」、「福田繁雄大回顧展」は中学生以下を無料とした。

展 覧 会 名		特 別 展				総 計
		抱きしめたい！ 近代日本の木彫展	第58回 日本伝統工芸展	ユーモアのすすめ 福田繁雄大回顧展	合 計	
開 催 期 日		H23.11.29 ＼ H24. 1 .15	H24. 1 .25 ＼ H24. 2 .12	H24. 2 .21 ＼ H24. 3 .31		
開 催 日 数		41 日	19 日	40 日	237 日	564 日
個 人	一 般	2,544	3,954	13,939	35,187	36,863
	高・大学生	227	99	1,635	2,606	2,778
	小・中学生	156	57	—	746	746
	小 計	2,927	4,110	15,574	38,539	40,387
団 体	一 般	3,339	3,467	7,575	58,343	60,788
	高・大学生	142	143	500	1,814	2,208
	小・中学生	156	358	—	1,048	1,048
	小 計	3,637	3,968	8,075	61,205	64,044
有 料 入 館 者 数		6,564	8,078	23,649	99,744	104,431
招 待 者 等		3,836	2,057	10,129	36,521	93,709
合 計 （ 観 覧 者 総 数 ）		10,400	10,135	33,778	136,265	198,140
一 日 あ た り 観 覧 者 数		254	533	844	575	351

Ⅵ 美術品等収集状況

分野別収集美術品数一覧

(平成24年3月31日現在)

種 目		一般購入	基金購入 (H2年度以降)	購入総数	寄 附	所 管 換	合 計	受 託
絵 画	日 本 画	46	60	106	222 (1)	3	331 (1)	14 (0-5)
	油 彩 画	230	62	292	470 (4)	4	766 (4)	199
	水 彩 画	89	4	93	52	0	145	1
	素 描	44	20	64	288 (3)	0	352 (3)	20
	パステル画・アクリル画	1	0	1	6	0	7	0
	版 画	53	180	233	205 (22)	0	438 (22)	0
	拓 本	26	0	26	51	0	77	0
	平面造形ほか	3	56	59	1	0	60	0
彫 塑		8	23	31	65 (3)	0	96 (3)	2
工 芸		112	1,184	1,296	88 (8)	4	1,388 (8)	5
書		5	0	5	88	1	94	0
美 術 資 料		2	2	4	641 (69)	0	645 (69)	2 (1-0)
合 計		619	1,591	2,210	2,177 (110)	12	4,399 (110)	243 (1-5)

※ () 内は23年度の収集点数。受託欄は、左側が受託数、右側が返還数、合計欄は差引数。

収蔵美術品一覧

No	分類	作者	作品名	制作年	寸法(cm)	材質・技法	数量	取得区分
1	日本画	宮川 啓五	太田川	1999～2000	各99.0×340	紙本彩色・額装	4 面	寄附
2	油彩画	鎌田 功治	風景A	不詳	21.2×27.2	油彩・板	1 面	寄附
3	油彩画	鎌田 功治	ライン河の夕暮	1967頃	60.8×91.0	油彩・画布	1 面	寄附
4	油彩画	小笠原忠弘	例えば扉《A》	1967	118.0×75.0	油彩・画布	1 面	寄附
5	油彩画	久保 俊寛	川岸の家(A)	1960代前半	65.0×91.5	油彩・画布	1 面	寄附
6	素描	殿敷 侃	作品(顔)	1973	13.8×17.4	インク・紙	1 面	寄附
7	素描	殿敷 侃	作品(身体)	1974	14.0×17.6	インク・紙	1 面	寄附
8	素描	殿敷 侃	予告	1974	5.6×24.2	インク・紙	1 面	寄附
9	版画	殿敷 侃	ドームのレンガ	1977	23.3×32.3	銅版画	1 面	寄附
10	版画	殿敷 侃	作品(石)	1977	17.8×22.4	銅版画	1 面	寄附
11	版画	殿敷 侃	のこ(1)		14.5×24.5	銅版画	1 面	寄附
12	版画	殿敷 侃	のこ(2)		13.5×36.2	銅版画	1 面	寄附
13	版画	殿敷 侃	釘(折れた)		5.4×8.0	銅版画	1 面	寄附
14	版画	殿敷 侃	釘(長い)		2.7×12.0	銅版画	1 面	寄附
15	版画	殿敷 侃	釘(二本)		5.6×7.9	銅版画	1 面	寄附
16	版画	殿敷 侃	釘(輪)		11.5×14.7	銅版画	1 面	寄附
17	版画	殿敷 侃	くし(1)		4.9×7.8	銅版画	1 面	寄附
18	版画	殿敷 侃	くし(2)		11.9×7.6	銅版画	1 面	寄附
19	版画	殿敷 侃	くし(3)		11.9×7.6	銅版画	1 面	寄附
20	版画	殿敷 侃	くし(4)		16.1×19.8	銅版画	1 面	寄附
21	版画	殿敷 侃	取っ手		14.7×19.5	銅版画	1 面	寄附
22	版画	殿敷 侃	針金		11.7×12.8	銅版画	1 面	寄附
23	版画	殿敷 侃	わっか		8.4×10.7	銅版画	1 面	寄附
24	版画	殿敷 侃	彼岸花		18.8×13.5	銅版画	1 面	寄附
25	版画	殿敷 侃	数珠		22.7×17.6	銅版画	1 面	寄附
26	版画	殿敷 侃	貝		9.5×9.8	銅版画	1 面	寄附
27	版画	殿敷 侃	釣針		4.2×4.8	銅版画	1 面	寄附
28	版画	殿敷 侃	霊地		37.8×54.0	シルクスクリーン	1 面	寄附
29	版画	殿敷 侃	作品(新聞)		54.7×39.8	シルクスクリーン	1 面	寄附
30	版画	殿敷 侃	ケロイド		47.3×38.7	シルクスクリーン	1 面	寄附
31	絵画資料	殿敷 侃 関係資料	書簡、個展案内葉書等				1 式	寄附
32	絵画資料	南 薫造	版木「舟おろし(1)」		25.5×15.5	木	1 面	寄附
33	絵画資料	南 薫造	版木「舟おろし(2)」		25.7×20.8	木	1 面	寄附
34	絵画資料	南 薫造	版木「舟おろし(3)」		14.7×11.8	木	1 面	寄附
35	絵画資料	南 薫造	版木「舟おろし(4)」		24.5×12.5	木	1 面	寄附
36	絵画資料	南 薫造	版木「舟おろし(5)」		23.9×12.0	木	1 面	寄附
37	絵画資料	南 薫造	版木「畑を打つ(1)」(両面)		19.3×30.1	木	1 面	寄附
38	絵画資料	南 薫造	版木「畑を打つ(2)」(両面)		19.4×30.2	木	1 面	寄附
39	絵画資料	南 薫造	版木「風景(1)」		22.2×31.3	木	1 面	寄附
40	絵画資料	南 薫造	版木「風景(2)」(両面)		20.1×30.3	木	1 面	寄附
41	絵画資料	南 薫造	版木「風景(3)」		19.1×30.1	木	1 面	寄附
42	絵画資料	南 薫造	版木「風景(4)」		15.1×27.2	木	1 面	寄附
43	絵画資料	南 薫造	版木「風景(5)」		20.5×29.9	木	1 面	寄附
44	絵画資料	南 薫造	版木「魚見」(両面)		27.3×20.3	木	1 面	寄附
45	絵画資料	南 薫造	版木「魚見／伊太利アッジ城」(両面)		27.2×20.3	木	1 面	寄附
46	絵画資料	南 薫造	版木「伊太利アッジの城」		30.2×19.3	木	1 面	寄附
47	絵画資料	南 薫造	版木「伊太利アッジの城」(両面)		21.6×20.0	木	1 面	寄附
48	絵画資料	南 薫造	版木「伊太利アッジの城／作品」(両面)		30.3×19.2	木	1 面	寄附
49	絵画資料	南 薫造	版木「夜ノ海／伊太利人形女」(両面)		17.9×11.5	木	1 面	寄附

No	分類	作者	作品名	制作年	寸法(cm)	材質・技法	数量	取得区分
50	絵画資料	南 薫造	版木「伊太利女／ピロード草」(両面)		18.0×11.9	木	1 面	寄附
51	絵画資料	南 薫造	版木「ピロード草／壺」(両面)		18.2×11.8	木	1 面	寄附
52	絵画資料	南 薫造	版木「働く女性」(両面)		20.1×27.0	木	1 面	寄附
53	絵画資料	南 薫造	版木「袋笛吹き土偶(伊太利)／働く女性」(両面)		27.1×20.1	木	1 面	寄附
54	絵画資料	南 薫造	版木「袋笛吹き土偶(伊太利)／花」(両面)		27.3×20.3	木	1 面	寄附
55	絵画資料	南 薫造	版木「風車のある風景(1)」		10.5×16.4	木	1 面	寄附
56	絵画資料	南 薫造	版木「風車のある風景(2)」		11.1×16.7	木	1 面	寄附
57	絵画資料	南 薫造	版木「風車のある風景(3)」		11.3×16.8	木	1 面	寄附
58	絵画資料	南 薫造	版木「風車のある風景(4)」		10.8×16.3	木	1 面	寄附
59	絵画資料	南 薫造	版木「於英国 明治四十一年四月」		14.0×21.1	木	1 面	寄附
60	絵画資料	南 薫造	版木「農家(1)」		9.5×24.8	木	1 面	寄附
61	絵画資料	南 薫造	版木「農家(2)」		11.0×24.0	木	1 面	寄附
62	絵画資料	南 薫造	版木「農家(3)」		10.8×23.5	木	1 面	寄附
63	絵画資料	南 薫造	版木「農家(4)」		10.3×23.6	木	1 面	寄附
64	絵画資料	南 薫造	版木「海を望む家」		24.5×16.3	木	1 面	寄附
65	絵画資料	南 薫造	版木「夜景」		25.2×20.5	木	1 面	寄附
66	絵画資料	南 薫造	版木「鶏舎」		20.4×27.2	木	1 面	寄附
67	絵画資料	南 薫造	版木「作品」		20.5×21.2	木	1 面	寄附
68	陶磁	宮永 理吉(3代東山)	東山遠望	1983	高32 41×22	青磁	1 点	寄附
69	陶磁	宮永 理吉(3代東山)	雲は夏	1988	高34 33×13.5	磁器、染付	1 点	寄附
70	陶磁	宮永 理吉(3代東山)	海方の日飾	1989	高63 22.5×16	磁器、染付	1 点	寄附
71	陶磁	宮永 理吉(3代東山)	空に架ける	1994	高53.5 47×16.5	磁器、染付	1 点	寄附
72	陶磁	宮永 理吉(3代東山)	天空の森	1997	高64 47.5×18.5	磁器、染付	1 点	寄附
73	陶磁	宮永 理吉(3代東山)	風の眼差し	2004	高45 20×21	青磁	1 点	寄附
74	工芸資料	宮永 理吉(3代東山)	天空の森型紙	1997	—	紙	1 式	寄附
75	染織	インド(バンジャール)	女性用衣装 ・上衣(チョリ) ・スカート(ガーガラ) ・ベール(オルナ)	1970以前	丈42.5幅54 丈85 胸囲72141×195	木綿、ミラーワーク、 刺繍等	1 式	寄附
76	工芸資料	インドネシア スマトラ島 パレンバン	緯緋金糸織布	19-20世紀	78×78	絹、金糸、緯緋、浮紋織、縫取織	1 点	寄附
77	工芸資料	インドネシア スマトラ島 パレンバン	緯緋金糸織布	19-20世紀	86×90	絹、金糸、緯緋、浮紋織、縫取織	1 点	寄附
78	工芸資料	インドネシア スマトラ島	経緋布	19-20世紀	108×49	木綿、経緋、経縞	1 点	寄附
79	工芸資料	インドネシア	金糸刺繍布	19-20世紀	52.5×51	木綿、金糸、不織布、 刺繍、スパンコール、ビーズ	1 点	寄附
80	工芸資料	インドネシア	金糸織布	19-20世紀	180.5×45	絹、金糸、浮紋織	1 点	寄附
81	工芸資料	インドネシア スマトラ島西部	縞布	19-20世紀	144×52	絹、金糸、緯縞、浮紋織	1 点	寄附
82	工芸資料	インドネシア	ガルーダ文布	19-20世紀	204×88	木綿、ロウケツ染	1 点	寄附
83	工芸資料	インドネシア	植物文布	19-20世紀	220×89	木綿、ロウケツ染	1 点	寄附
84	工芸資料	インドネシア ジャワ島	ハトラ文布	19-20世紀	268×78	木綿、ロウケツ染	1 点	寄附
85	工芸資料	インドネシア	縞裂	19-20世紀	162×109	木綿、緯縞	1 点	寄附
86	工芸資料	インドネシア	格子文金糸織裂	19-20世紀	168×64	木綿か、金糸、格子	1 点	寄附
87	工芸資料	インドネシア	格子文裂	19-20世紀	157×104	木綿、格子	1 点	寄附
88	工芸資料	タイ	腰衣	19-20世紀	94×筒幅83	絹、経縞、経緋	1 点	寄附
89	工芸資料	タイ	紋織裂	19-20世紀	154.5×42	絹、浮紋織	1 点	寄附
90	工芸資料	タイ	腰衣	19-20世紀	94×筒幅97	絹、経緋	1 点	寄附
91	工芸資料	タイ	腰衣	19-20世紀	88×筒幅98	絹、格子	1 点	寄附
92	工芸資料	タイ	腰衣	19-20世紀	96×筒幅97	絹、経縞、経緋	1 点	寄附
93	工芸資料	タイ	腰衣	19-20世紀	81×筒幅86	絹、緯緋	1 点	寄附
94	工芸資料	タイ	腰衣	19-20世紀	85×筒幅71.5	絹、経緋	1 点	寄附
95	工芸資料	タイ	腰衣	19-20世紀	92.5×筒幅102	絹、経緋	1 点	寄附
96	工芸資料	タイ	腰衣	19-20世紀	88×筒幅113.5	絹、経縞、経緋	1 点	寄附

No	分類	作者	作品名	制作年	寸法(cm)	材質・技法	数量	取得区分
97	工芸資料	タイ	腰衣	19-20世紀	88.5×筒幅78	絹、経緋	1点	寄附
98	工芸資料	ラオス	紋織布	19-20世紀	270×77.5	木綿、経緋、紋織	1点	寄附
99	工芸資料	ラオス	魚蛙文裂	19-20世紀	143×78	木綿、経緋、紋織	1点	寄附
100	工芸資料	ラオス	紋織布	19-20世紀	372×102	木綿、浮紋織	1点	寄附
101	工芸資料	ラオス	腰衣	19-20世紀	79.5×筒幅66	木綿、金糸、経縞、浮紋織	1点	寄附
102	工芸資料	ラオス	緯緋布	19-20世紀	272×82	絹、緯緋	1点	寄附
103	工芸資料	カンボジア	緯緋布	19-20世紀	272×92	絹、緯縞、緯緋	1点	寄附
104	工芸資料	フィリピン・ミンダナオ島	男性用ズボン	19-20世紀	48×60	素材不明、経縞、経緋	1点	寄附
105	工芸資料	フィリピン・ミンダナオ島	シャツ	19-20世紀	51×65	木綿、経縞	1点	寄附
106	工芸資料	中国、雲南	刺繍袋状布	19-20世紀	66×59	木綿、刺繍	1点	寄附
107	漆工	伝・河面冬山	扇面散し蒔絵料紙箱	不詳(昭和前期か)	40×32×35	木、漆、蒔絵	1合	寄附
108	彫塑	峯田敏郎	人間のためのモニュメント	1969	230×80×57	木	1躯	寄附
109	彫塑	峯田敏郎	記念撮影—終わらないアンコール・09のエリア	2009	100×130×80	木、彩色	1躯	寄附
110	彫塑	峯田敏郎	記念撮影—遠い日の風音・私の母と	2011	200×145×115	木、彩色	1躯	寄附

● 新収蔵作品より

宮川 啓五（みやがわ けいご 昭和2年― 1927年― ）

作者は、本県広島市安佐南区出身の日本画家。本名は啓吾。昭和20年に被爆。昭和25年に新制作展日本画部（現在の創画展）初入選。同年福田豊四郎に師事し、以後14回入選。昭和37年に院展初入選。昭和46年院友となり、岩橋英遠に師事する。その後、院展の無鑑査、特待となる。昭和55年院展広島支部長になるが、60年病気のため支部長退任。平成13年、画業50年宮川啓五展を開催（広島・福屋本店）。日本画創美会主宰。

本作品は、広島市内を流れる太田川がモチーフとなっている。左端から冬、春、夏、秋の順に、川の流れに沿うかたちで場面が展開している。自らの被爆体験をもとに、少年時代の思い出や原子爆弾に被災した光景、復興していく街の様子などが各場面に繊細な筆致で描き込められている。季節の移ろいだけでなく、画家の生涯における15年間の月日の流れが凝縮されて表されており、画家の深い思い入れを感じさせる作品である。画業50年の展覧会においても、画家の創作活動の集大成として本作品が位置づけられていた。

当館ではすでに宮川啓五作品を1点収蔵している（昭和38年作《残照》）が、画家の代表作とも言える本作品が加わることで、広島の生んだ日本画家の業績紹介に一層の厚みを持たせることが可能となる。



太田川（冬）



太田川（春）



太田川（夏）



太田川（秋）

鎌田 功治（かまだ こうじ 明治35年―昭和50年 1902年―1975年）

作者は、本県呉市出身。教職の傍ら、制作活動を行った。戦前・戦中期は、弟で同じく画家の鎌田知治とともに独立展に出品。中国大陆への従軍や移住を経て、戦後は郷里に戻り、呉美術協会などで活躍した。

《風景A》は、現存する稀少な戦前作。大胆で力強い筆遣いからは、当時の作風の特色が見て取れる。《ライン河の夕暮》は、1967年のヨーロッパ旅行で得た画題で、戦後を代表する作品として、『呉線沿線の美術』展（呉市立美術館 2007年）にも出品されている。

明治末から大正初期の呉は、鎌田兄弟のほか、宇根元警、岡部繁夫、空野八百蔵ら、昭和戦前・戦中期に独立展に出品を続け、広島洋画壇の代表的画家として活躍した作家を多く生み出している。当館では、平成16年度に作者の弟・鎌田知治の作品も収集しており、広島洋画史をたどる意味からも、有意義である。



風景A



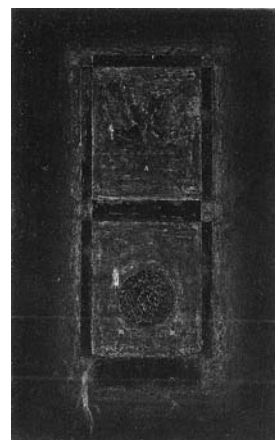
ライン河の夕暮れ

小笠原忠弘（おがさわら ただひろ 昭和15年―平成18年 1940年―2006年）

作者は、本県呉市出身。香川大学在学中の第12回展（1962年）入選以来、モダンアート展に出品を続けた。画業初期には油絵を描くが、スペイン留学を機に新しい素材を求めて、コンクリートや金属などを用いた制作を開始、胡粉やアクリルなどの時代を経て、晩年は再び油絵を制作した。

《例えば扉（A）》は、画業の転機となったスペイン留学中の作品で、ミネルバ画廊での個展出品作。画面上部の梵字状の形態は、当時の作品に頻繁に登場する舞い上がる蝶のイメージであるという。本作の黒を主調とする色調は留学中の作品の特色で、スペインで白や黒の諧調を学ぼうと制作に取り組んでいた、当時の研究意識がうかがわれる。作者の画業の出発点と位置づけられる作品である。

本県ゆかりの洋画家には具象傾向の作家が多く、一貫して抽象的作品を制作した作者は、やや異色の存在である。戦後の広島洋画壇の幅広い傾向を示すうえでも、有意義である。



例えば扉（A）

久保 俊寛（くぼ しゅんかん 昭和16年— 1941年—）

作者は、本県呉市出身。広島の洋画家・柿手春三や増田勉に学び、二科展に出品を続けたが、現在は無所属。近年はオブジェや、ライフワークである羅漢像の墨画などを制作している。広島県内の美術館では、呉市立美術館、はつかいち美術ギャラリー、三良坂平和美術館が、オブジェ作品を収蔵している。

《川岸の家（A）》は、広島駅近くに取材した作で、戦後、広島市内の川沿いに多く見られたバラック建ての住居密集地を描く。作者は当時、同所に頻繁に足を運び、スケッチを繰り返したが、本作は同画題を油彩で描いた最初期の作で、広島県美術展に出品している。



川岸の家（A）

原爆により壊滅的な影響を受けた広島市では、1970年代になっても一部のバラック街が中心部に残っており、'50年代から'60年代にかけて、多くの画家が画題としてその情景を描いたと伝えられる。本作は、作者の画家としての出発点を示すとともに、当時の広島の記憶や美術状況を伝える意味も併せ持つ作品である。

殿敷 侃（とのしき ただし 昭和17年—平成4年 1942年—1992年）

作者は、広島市出身。被爆体験を制作活動の原点とし、遺品や被爆地の記憶などを克明に描いた作品で注目を集めた。1980年代のヨーロッパ旅行を機に制作の幅を広げ、絵画だけではなく、現代社会や環境に対する問題意識をインスタレーションやイベントの形で表現した活動も行っている。

銅版画の制作を始めたのは1977年。緻密な点描技法による素描作品を見た久保貞次郎が銅版画の制作を勧めたもので、《ドームのレンガ》が版画の初作といわれる。後に、シルクスクリーンも手がけるようになり、1981年の第1回西部美術館版画大賞展では、新聞紙をつなげて使用したシルクスクリーンの作品で日本現代版画商協同組合賞を受賞している。



ドームのレンガ

当館では、殿敷の版画作品を5点所蔵している。版画制作以前の緻密な素描や、既蔵品とは異なる版画作品、さらには所蔵者と殿敷との交友を伝える資料などが加わることで、画業を多面的に紹介することが可能となる。

南 薫造（みなみ くんぞう 明治16年—昭和25年 1883年—1950年）

作者は、本県呉市安浦町出身。油彩画家、水彩画家として知られる一方、明治末期から大正初期頃までの短期間、木版画の制作を行った。美校・留学時代の友人・富本憲吉とともに、1910年頃から開始したと考えられる版画制作は、日本の創作版画の初期の活動に位置づけられている。

自作版画をやりとりしていた富本憲吉から南に宛てた書簡や、『白樺』、『美術新報』など当時の雑誌によると、明治末からの数年間、南はある程度まとまった数の版画を制作したと考えられる。一方、図版紹介されたものはごく少なく、現在、一般に知られるのは十数種である。このたびの版本の中には、これまで知られていない図像のものも含まれ、新たな作例を知る上でも興味深い。

当館では、南薫造の版画を2点所蔵しており、うち1点が《魚見》である。このたびの収蔵で、所蔵品の制作過程の一端を明らかにすることが可能になるとともに、展示効果を高めることが期待できる。

宮永 理吉（みやなが りきち 昭和10年— 1935年—）

作者は2代宮永東山の息子として京都市に生まれる。昭和33(1958)年 京都市立美術大学彫刻科卒業。同大専攻科へ進み、辻晋堂、堀内正和らに学ぶ。昭和35(1960)年渡米。アート・スチューデント・リーグに学ぶ。昭和39(1964)年国立近代美術館京都分館「現代美術の動向」に出品。磁器を素材とした作品を発表。昭和40(1965)年陶芸作品による初めての個展（東京ニューセンター）。昭和45(1970)年走泥社同人。その後、展覧会出品、個展開催多数。平成7(1995)年和歌山大学教授。平成10(1998)年京都府文化賞功労賞を受賞。平成11(1999)年 3代宮永東山を襲名。

「東山遠望」、「風の眼差し」は面と文様の彫刻で構成された青磁作品。「雲は夏」、「海方の日飾」、「空に架ける」、「天空の森」は吹墨（障子を貼る器具を使い、口で吹き付ける）が使われ、面と吹墨のコンビネーションが見られる。また、タタラを切る時に使われた「天空の森」の「紙製型紙」は、制作プロセスがわかる興味深い資料である。

当館では1991年に「断層」（1956(昭和31)年）、「土の歩み」（1957(昭和32)年）、「パイプ」（1972(昭和47)年）、「水中花」（1972(昭和47)年）、「三角錐の中のブルー」（1976(昭和51)年）を収蔵しているが、これら7点は既収蔵の5作品に続く時期の作品であり、合わせて活用することにより、展示の幅を広げることができる。

インド・バンジャラ・女性用衣装／東南アジアの染織（31点）

当館は、「日本とアジアの工芸」を収集方針のひとつに掲げ、広大なアジア全体の工芸を俯瞰する作品の収蔵を目指してきた。

重点収集期間中は質の高いコレクションを一括収蔵して館蔵品の充実を図ってきたものの、それ以降は収集が途絶えていた。なお、一昨年度、県内の個人コレクターからの寄贈を受け、久しぶりにこの分野の収集を行うことができた。

インド・バンジャラ・女性用衣装は寄贈者が1970年にインド中央部デカン高原で採集したもので、年代が明確である。元来遊牧を生業としてきたバンジャラ族の特徴的な要素を備え、一人の女性が着用していた頭布オルナ、ブラウスチョリ、スカートガーガラという3点が揃っている。バンジャラの民族衣装は、国内では神戸ファッション美術館、国立民族学博物館、文化学園服飾博物館等に類例があるが、インドの遊牧民ラバーリやアヒールの衣装と比較して所蔵数は多くない。現在、インド更紗の一群があるが、インド民族衣装の所蔵はなく、既収蔵作品と合わせて展示に活用して、展示の幅を広げることができる考える

東南アジアの染織（31点）は一昨年度寄贈の追加寄贈である。これらの作品の多くは、2000年頃以降インドネシア、フィリピン、タイといった東南アジア各地で入手されたもので、今回の作品寄贈受け入

れにより、当館のアジアの染織分野を一層充実し、既収蔵作品と合わせて展示に活用して、展示の幅を広げることができる作品が含まれている。

河面 冬山（こおも とうざん 明治15年—昭和30年 1882年—1955年）

河面冬山、本名冬一は、明治15年広島市に生まれ、東京美術学校漆工科で六角紫水に学んだ。帝展以来官展に出品し、無鑑査となったが、専ら宮内省御用品を制作して知られた。その主なものに大正天皇御即位式用御料車内賢所、昭和天皇御成婚奉祝高等文武官より献上御書棚がある。昭和27年文部省無形文化財保護の選定を受け（蒔絵に応用される乾漆成形）、また文化功労者に選ばれた。

本作「扇面散らし蒔絵料紙箱」の作者は、河面冬山と伝えられる。合口造りの料紙箱で、木製漆塗に金銀蒔絵が施され、合口部分に銀製覆輪が廻らされている。意匠は、箱表の天板から側面にかけて8柄、身の内側に3柄、蓋の内側に2柄の扇を散らし、それぞれの扇には菊、竜胆、紅葉、杜若など四季の植物や、歌文字を描く。文様部分の技法は高蒔絵を主体に、花卉や葉などに部分的に螺鈿を、歌文字には金貝を象嵌し、歌文字の背景には切金を散らす。地は、表は金平目地、内側と底裏は金梨地となっている。作者名は作品にも外箱にも記されていない。河面冬山の妻による書簡1通を伴い、この書簡が本作が河面冬山の手になることを類推する根拠となっている。

作者名が記されていないことから、ただちに河面冬山の作とは断定できないが、その蓋然性は高く、当館の収集方針である本県ゆかりの作家並びに日本及び東洋の工芸に合致する。

峯田 敏郎（みねた としろう 昭和14年— 1939年—）

作者は、早くより木を中心としながらも、舟越保武から塑像の技術を学び、またテラコッタ作品も多く手がけるなど、多様な素材に通じ、国画展を中心に意欲的に作品を発表してきた。高村光太郎賞、平櫛田中賞など、国内の代表的な彫刻賞を数々受賞。各地で後進の育成にも尽力した。

「記念撮影」は、1980年代後半より展開される作家の代表的シリーズ。「記念撮影」とは、記録やモニュメンタル的な意味ではなく、彫刻そのものがもつ象徴性と普遍性を表したもの。作品には作家自らの経験が織り込まれ、周囲の空間を活かした、背景に物語性を感じさせる構成が特徴的である。

今年度開催した「抱きしめたい！ 近代日本の木彫展」への出品や、これまでの広島との関係からこの度の寄贈につながった。

当館では、平櫛田中や圓鋸勝三、水船六洲など、広島ゆかりの彫刻作品には木彫が多い。そうした作品とあわせて新たな切り口で所蔵展示を活性化することができる。



記念撮影
—終わらないアンコール・
09のエリアー

Ⅶ 美術品等の貸出し

種別	作者名など	作 品 名	貸 出 先	目的（展覧会名）	会期・場所
油彩画	麻生 三郎	女	東京国立近代美術館 京都国立近代美術館 愛知県美術館	麻生三郎展	22.11.9～22.12.19(東京国立近代美術館) 23.1.5～23.2.20(京都国立近代美術館) 23.4.29～23.6.12(愛知県美術館)
油彩画	巖 光	コミサ(洋傘による少女)	平塚市美術館 下関市立美術館 碧南市藤井達吉現代美術館 美術館連絡協議会	画家たちの二十歳の原点展	23.4.16～23.6.12(平塚市美術館) 23.6.18～23.7.31(下関市立美術館) 23.8.9～23.9.19(碧南市藤井達吉現代美術館)
鑄 造	マックス・エルンスト	オイディプスI	福井県立美術館 札幌芸術の森美術館 株式会社アートプランニングレイ	森と芸術展	23.7.30～23.8.28(福井県立美術館) 23.9.3～23.10.23(札幌芸術の森美術館)
〃	〃	オイディプスII	〃	〃	〃
〃	ジャン(ハンス)・アルプ	目覚め	〃	〃	〃
彫 塑	平 櫛 田 中	落葉	「近代日本の木彫展」実行委員会	抱きしめたい! 近代日本の木彫展	23.8.10～23.9.19(高岡市美術館) 23.10.4～23.11.3(碧南市藤井達吉現代美術館) 23.11.29～24.1.15(広島県立美術館)
〃	〃	五柳先生	〃	〃	〃
〃	圓 鐔 勝 三	面	〃	〃	〃
〃	〃	月夜の僧	〃	〃	〃
〃	〃	星羅	〃	〃	(広島会場のみ)
〃	森野 圓 象	静かな海	〃	〃	〃
〃	水 船 六 洲	はつ雁抄	〃	〃	〃
日本画	菱 田 春 草	莊重(高士望岳)	長野県信濃美術館	没後100年 菱田春草展	23.9.10～23.10.16(長野県信濃美術館)
日本画	平 山 郁 夫	広島生変図	平山郁夫美術館	平山郁夫 パーミアンからの熱き思い	23.9.20～23.11.23(平山郁夫美術館)
油彩画	小 林 千 古	婦人座像	廿日市市文化スポーツ振興事業団	小林千古と1900年パリ・パステル展	23.10.7～23.11.13(はつかいち美術ギャラリー)
〃	〃	静物	〃	〃	〃
〃	〃	女子正面	〃	〃	〃
〃	〃	婦人像	〃	〃	〃
〃	〃	静物	〃	〃	〃
〃	〃	佛・伊風景小スケッチ	〃	〃	〃
〃	〃	佛・伊風景小スケッチ	〃	〃	〃
〃	〃	佛・伊風景小スケッチ	〃	〃	〃
〃	〃	佛・伊風景小スケッチ	〃	〃	〃
〃	〃	厳島大谷	〃	〃	〃
〃	〃	佛・伊風景小スケッチ	〃	〃	〃
〃	〃	佛・伊風景小スケッチ	〃	〃	〃
〃	〃	佛・伊風景小スケッチ	〃	〃	〃
素 描	〃	婦人像(横)	〃	〃	〃
〃	〃	婦人像	〃	〃	〃
〃	〃	婦人裸背面立像	〃	〃	〃

種別	作者名など	作 品 名	貸 出 先	目的（展覧会名）	会期・場所
素 描	小林 千古	男子裸立像	廿日市市文化スポーツ振興事業団	小林千古と1900年パリ・パンテオン会展	23.10.7～23.11.13(はつかいち美術ギャラリー)
〃	〃	石膏像	〃	〃	〃
〃	〃	婦人像	〃	〃	〃
〃	〃	婦人像	〃	〃	〃
〃	〃	婦人像半身	〃	〃	〃
パステル画	〃	装飾画下絵	〃	〃	〃
日本画	奥田 元宋	柳鷺	富山県水墨美術館	奥田元宋・小由女展 —響き合う風景と人形—	23.10.21～23.11.27(富山県水墨美術館)
〃	〃	筒石	〃	〃	〃
〃	〃	秋巒真如	〃	〃	〃
〃	〃	寂	〃	〃	〃
〃	〃	青山白雲	〃	〃	〃
日本画	里見 雲嶺	雨中山水図	頼山陽記念文化財団	近代・広島画人伝	23.10.27～11.27(頼山陽史跡資料館)
〃	〃	紀貫之蟻通社之図	〃	〃	〃
〃	〃	足柄山之月山姥之図	〃	〃	〃
〃	〃	管絃祭之図	〃	〃	〃
〃	〃	三保松原図	〃	〃	〃
日本画	丸木 位里	ラクダ	板橋区立美術館 美術館連絡協議会	20世紀検証シリーズNo.3 池袋モンパルナス展	23.11.19～24.1.9(板橋区立美術館)
水彩画	ベン・シャーン	四人の検事	神奈川県立近代美術館 名古屋市美術館	ベン・シャーン展	23.12.3～24.1.29(神奈川県立近代美術館・葉山館)
〃	〃	陪審員席	岡山県立美術館 福島県立美術館	〃	24.2.11～24.3.25(名古屋市美術館)
油彩画	〃	強制収容所	美術館連絡協議会	〃	24.4.8～5.20(岡山県立美術館)
工 芸	荒木 高子	石の聖書(黒)	兵庫陶芸美術館	荒木高子展	24.6.3～24.7.16(福島県立美術館)
〃	〃	石の聖書(白)	〃	〃	〃
〃	〃	砂の聖書	〃	〃	〃
油彩画	新田 稲実	風	新田稲実回顧展実行委員会	新田稲実回顧展	23.12.10～24.2.26(兵庫陶芸美術館)
工 芸	木村 芳郎	碧釉組鉢(6点組)	東広島市立美術館	現代の造形—Life&Art— 「ふれる器 Feel Ceramics」	24.1.16～24.1.22(広島県民文化センター 地下展示場)
工 芸	六角 紫水	松喰鶴蒔絵小唐櫃(模写)	東京都江戸東京博物館 神戸市立博物館 京都府京都文化博物館 NHK視聴者事業局事業部 NHKプロモーション	NHK大河ドラマ50年 特別展「平清盛」	24.2.4～24.3.18(東広島市立美術館)
					24.2.25～24.4.8(神戸市立博物館) 24.6.16～24.7.17(京都府京都文化博物館)

Ⅷ 関係法規

広島県立美術館条例

(昭和43年3月26日)
広島県条例第20号

全部改正 平成8年条例第16号

最終改正 平成23年7月11日

(設 置)

第1条 美術に関する県民の知識及び教養の向上に資するため、博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基づき、広島県立美術館（以下「美術館」という。）を設置する。

(位 置)

第2条 美術館の位置は、広島市中区上幟町とする。

(業 務)

第3条 美術館は、次の業務を行う。

- (1) 美術品等を収集し、保管し、又は展示して、県民の利用に供すること。
- (2) 美術品等の展示施設（以下「展示施設」という。）その他の美術館の施設を美術品等の展示等のための利用に供すること。
- (3) 美術品等に関する専門的及び技術的な調査研究を行うこと。
- (4) その他県民の美術に関する知識、教養、調査研究等に資するために必要な事業を行うこと。

(職 員)

第4条 美術館に、館長その他必要な職員を置く。

2 館長は、前条第1号及び第3号に掲げる業務並びに同条第2号及び第4号に掲げる業務のうち次条第2項第1号に掲げる業務を除いたものを掌理し、所属職員を指揮監督する。

(指定管理者による管理)

第5条 美術館の管理は、広島県公の施設における指定管理者の指定手続等に関する条例（平成16年広島県条例第28号）の定めるところにより、教育委員会が指定した法人その他の団体（以下「指定管理者」という。）に行わせるものとする。

2 指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 第三条第二号及び第四号に掲げる業務のうち教育委員会規則で定めるものを行うこと。
- (2) 美術館の展示施設及び講堂（以下「展示施設等」という。）並びに駐車場の利用の許可に関すること。
- (3) 展示施設等及び駐車場その他の美術館の施設並びに附属設備の維持及び修繕に関すること。
- (4) 美術館が所蔵する美術品等の展示（以下「所蔵作品展」という。）の観覧並びに展示施設等及び駐車場の利用に係る料金（以下「利用料金」という。）の収受に関すること。
- (5) 教育委員会が単独で開催する所蔵作品展以外の展示（以下「特別展」という。）の観覧に係る入館料（以下「入館料」という。）の徴収に関すること。
- (6) その他教育委員会が別に定める業務を行うこと。

(開館時間等)

第6条 美術館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、土曜日は、午後7時まで開館時間を延長する。

2 講堂及び駐車場の利用時間は、次のとおりとする。

- (1) 講 堂 午前9時から午後9時まで
- (2) 駐車場 午前9時から午後9時15分まで

3 前2項の規定にかかわらず、教育委員会又は指定管理者は、特に必要があると認めるときは、第1項の開館時間又は前項の利用時間を変更することができる。この場合においては、指定管理者は、あらかじめ教育委員会の承認を得なければならない。

(休館日等)

第7条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号。以下「祝日法」という。）に規定する休日に当たる場合を除く。）
- (2) 12月25日から翌年の1月1日までの日

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会又は指定管理者は、特に必要があると認めるときは、前項の休館日以外の日において臨時に休館し、又は同項の休館日において臨時に開館することができる。この場合においては、指定管理者は、あらかじめ教育委員会の承認を得なければならない。

(利用の許可)

第8条 展示施設等及び駐車場を利用しようとする者は、教育委員会規則及び指定管理者の定めるところにより、指定管理者の許可を受けなければならない。

2 指定管理者は、前項の許可（以下「利用許可」という。）をする場合においては、美術館の管理上必要な限度において条件を付することができる。

（利用許可の制限）

第9条 指定管理者は、展示施設等及び駐車場の利用の目的又は方法が、次の各号のいずれかに該当するときは、利用許可をしてはならない。

- (1) 公益を害し、又は風俗を乱すおそれがあると認められるとき、その他住民の福祉を増進する目的に照らし適当でないと認められるとき。
- (2) 展示施設等及び駐車場並びに附属設備を損傷するおそれがあると認められるとき。
- (3) 集团的に又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある組織の利益になると認められるとき。
- (4) その他美術館の管理及び運営上支障があると認められるとき。

（展示施設等の利用期間）

第10条 展示施設等の利用期間は、引き続き7日を超えることはできない。ただし、指定管理者が必要と認めるときは、この限りでない。

（入館料の納付等）

第11条 美術館の特別展を観覧する者は、1人1回2,030円以内で知事が定める入館料を納付しなければならない。

- 2 入館料は、知事が別に定める場合を除き、前納とする。
- 3 既納の入館料は、返還しない。

（利用料金の納付等）

第12条 美術館の所蔵作品展を観覧する者並びに展示施設等及び駐車場を利用する者は、指定管理者が別表第1から別表第3までに定める金額の範囲内で教育委員会の承認を受けて定める利用料金を納付しなければならない。

- 2 所蔵作品展に係る利用料金は、教育委員会が別に定める場合を除き、前納とする。
- 3 展示施設等及び駐車場に係る利用料金は、教育委員会が別に定める場合を除き、利用許可を受ける際に納付しなければならない。
- 4 既納の利用料金は、返還しない。ただし、利用許可を受けた者がその責めに帰することができない理由により利用できない場合その他教育委員会が別に定める場合には、指定管理者は、利用料金の全部又は一部を返還することができる。

（入館料の減免）

第13条 知事は、次の各号のいずれかに該当する者が特別展を観覧するときは、入館料を減免することができる。

- (1) 祝日法第2条に規定するこどもの日に入館する小学校の児童又は中学校の生徒
- (2) 祝日法第2条に規定する文化の日に入館する者
- (3) ひろしま教育の日を定める条例（平成13年広島県条例第40号）第3条に規定するひろしま教育ウィークに入館する小学校の児童又は中学校若しくは高等学校の生徒
- (4) その他知事が別に定める者

（利用料金の減免）

第14条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者が所蔵作品展を観覧するときは、所蔵作品展に係る利用料金を減免することができる。

- (1) 身体障害者手帳の交付を受けている者
 - (2) 戦傷病者手帳の交付を受けている者
 - (3) 療育手帳の交付を受けている者
 - (4) 精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者
 - (5) 65歳以上の者
 - (6) 県内の大学に在学する外国人留学生
 - (7) 小学校（特別支援学校の小学部を含む。以下同じ。）、中学校（特別支援学校の中学部を含む。以下同じ。）又は高等学校（特別支援学校の高等部を含む。以下同じ。）の校長が学校教育活動であることを証明した場合の小学校の児童又は中学校若しくは高等学校の生徒の引率者
 - (8) 祝日法第2条に規定するみどりの日又は文化の日に入館する者
 - (9) 特別展と併せて観覧する者
 - (10) その他教育委員会が別に定める者
- 2 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、展示施設等の利用料金を減免することができる。
- (1) 教育委員会が、主催する事業のために展示施設等を利用するとき。
 - (2) 前項第1号から第4号までに掲げる者（以下「身体障害者等」という。）又は身体障害者等が主体となつて構成する団体が、美術活動として展示施設等を利用するとき。
 - (3) 国又は地方公共団体が、身体障害者等の美術の振興を図る行事のために展示施設等を利用するとき。

- (4) 社会福祉事業を推進する団体が当該団体の設立の目的のために利用するとき。
 - (5) 幼稚園（特別支援学校の幼稚部を含む。）の園長（特別支援学校の幼稚部にあつては、校長）又は小学校若しくは中学校の校長が学校教育活動であることを証明した場合において、当該幼稚園の幼児又は当該小学校の児童若しくは当該中学校の生徒が利用するとき。
 - (6) その他教育委員会が別に定める場合
- 3 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、駐車場の利用料金を減免することができる。
- (1) 教育委員会が、主催する事業のために駐車場を利用するとき。
 - (2) 身体障害者等が、自ら車両を運転し、又は介護者の運転する車両に同乗して駐車場を利用するとき。

(利用料金の収入)

第15条 第12条第1項の規定により所蔵作品展を観覧する者並びに展示施設等及び駐車場を利用する者が納付する利用料金は、指定管理者の収入とする。

(利用許可の取消し等)

- 第16条 指定管理者は、利用許可を受けた者が次の各号のいずれかに該当するときは、利用許可の全部若しくは一部を取り消し、利用の方法を制限し、又は利用の停止を命じることができる。
- (1) 許可された利用目的以外に展示施設等を利用したとき。
 - (2) 第九条各号のいずれかに該当するに至つたとき。
 - (3) 偽りその他不正な手段により利用許可を受けたとき。
 - (4) この条例若しくはこの条例に基づく教育委員会規則の規定又は第8条第2項の規定により付された条件に違反したとき。
 - (5) 利用許可に基づく権利を譲渡し、又は他人に利用させたとき。
- 2 前項の規定により利用許可を取り消し、利用の方法を制限し、又は利用の停止を命じたことによつて、利用許可を受けた者に損失が生じることがあつても、県又は指定管理者は、これに対して補償する義務を負わない。

(遵守事項)

第17条 美術館においては、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 展示施設等及び駐車場その他の美術館の施設並びに附属設備をき損し、又は汚損しないこと。
- (2) 展示資料、展示設備等に触れないこと。
- (3) 許可を受けずに、展示資料の模写又は撮影をしないこと。
- (4) 館内においては、静粛にし、他人に迷惑を掛ける行為又は他人に嫌悪の情を催させる行為をしないこと。
- (5) 所定の場所以外の場所で喫煙し、又は飲食しないこと。
- (6) 指定管理者の指示に従うこと。
- (7) その他教育委員会が定める事項

(禁止行為)

第18条 美術館においては、次に掲げる行為をしてはならない。ただし、教育委員会の許可を受けた場合は、この限りでない。

- (1) 寄附の募集
- (2) 爆発物その他危険物等の持込み
- (3) 行商その他これに類する行為
- (4) 宣伝その他これに類する行為
- (5) 広告物等の掲示若しくは配布又は看板、立札類の設置

(入館の制限等)

第19条 教育委員会又は指定管理者は、前2条の規定に違反するおそれのある者又はこれらの規定に違反した者に対して、美術館への入館を拒否し、又は美術館からの退去を命じることができる。

(原状回復義務)

第20条 展示施設等の利用者は、その利用を終了したとき（利用許可を受けた者が第16条第1項の規定により利用許可を取り消されたときを含む。）は、直ちに利用場所を原状に復し、指定管理者の検査を受けなければならない。

(損害賠償義務)

第21条 展示施設等及び駐車場その他の美術館の施設、附属設備又は展示資料等をき損し、汚損し、又は滅失した者は、これによつて生じた損害を賠償しなければならない。

(委任規定)

第22条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

- 1 この条例は、昭和43年4月1日から施行する。
- 2 第5条第1項の規定にかかわらず、別表の通常の展示の場合に係る入館料は、この条例の施行の日後において知事とその徴収を開始すべき日を定めて公示するまでの間は、これを徴収しないものとする。

附 則（平成19年3月15日条例第21号抄）

（施行期日）

1 この条例は、規則で定める日から施行する。（平成20年1月規則第2号で、平成20年4月1日から施行）

（経過措置）

3 この条例の施行前にこの条例による改正前のそれぞれの条例（これに基づく規則その他の規程を含む。）の規定によってした処分、手続その他の行為であって、この条例による改正後のそれぞれの条例（これに基づく規則その他の規程を含む。）中相当する規定があるものは、それぞれこれらの相当する規定によってした処分、手続その他の行為とみなす。

4 この条例の施行前にこの条例による改正前のそれぞれの条例（これに基づく規則その他の規程を含む。）の規定により利用の許可を受けている者に係る使用料については、なお従前の例による。

附 則（平成19年12月25日条例第56号）

この条例は、学校教育法等の一部を改正する法律（平成19年法律第96号）附則第1条本文に規定する政令で定める日から施行する。（定める日＝平成19年12月26日）

附 則（平成22年6月28日条例第31号）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成23年7月11日条例第31号）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

別表第1（第12条関係）

所蔵作品展の利用料金の範囲

区 分	個 人	団体(20人以上の場合とする。)	広島県縮景園との 共通券による場合
大 学 生	1人1回につき 390円以内	1人1回につき 310円以内	1人1回につき 310円以内
その他満15歳以上の者 (中学校及び高等学校の生徒を除く。)	1人1回につき 650円以内	1人1回につき 520円以内	1人1回につき 520円以内

別表第2（第12条関係）

展示施設等の利用料金の範囲

施設区分		第1展示室	第2展示室	第3展示室	第4展示室	第5展示室	講 堂
入場料有料の場合	1時間につき	1,700円以内	2,900円以内	2,900円以内	2,900円以内	3,100円以内	4,700円以内
	1日につき	13,000円以内	23,200円以内	23,200円以内	23,200円以内	24,600円以内	
入場料無料の場合	1時間につき	900円以内	1,500円以内	1,500円以内	1,500円以内	1,600円以内	2,400円以内
	1日につき	6,500円以内	11,600円以内	11,600円以内	11,600円以内	12,300円以内	
電気設備を利用する場合		実費を基準として教育委員会が定める範囲とする。					

- 備考 1 この表において「1日」とは、美術館の開館時間とする。
2 日曜日、土曜日及び祝日法に規定する休日における入場料有料の場合の利用料金の額は、指定管理者が定める額の2割を加算する。
3 展示物の搬入及び撤去に係る利用料金の額は、指定管理者が定める額に2分の1を乗じて得た額とする。
4 利用料金の額に10円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てるものとする。

別表第3（第12条関係）

駐車場の利用料金の範囲

駐車することができる自動車の範囲	単 位	利用料金の範囲
道路運送車両法（昭和26年法律第185号）第3条に規定する自動車のうち、普通自動車並びに2輪自動車以外の小型自動車及び軽自動車	1台につき 1時間まで 1時間を超える時間 30分までごと	390円以内 200円以内

広島県博物館協議会条例

(平成13年3月26日)
広島県条例第3号

(設置)

第1条 広島県教育委員会（以下「教育委員会」という。）に、広島県博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、広島県立美術館、広島県立歴史民俗資料館、広島県立歴史博物館の運営に関し教育委員会の諮問に応じるとともに、教育委員会に対して意見を述べる機関とする。

(組織)

第2条 協議会は、委員15人以内で組織する。

2 委員は、教育委員会が任命する。

(委員の任期)

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が召集し、会長がその議長となる。

2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(雑則)

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成13年4月1日から施行する。

(広島県立美術館協議会条例の廃止)

2 広島県立美術館協議会条例（昭和43年広島県条例第38号）は、廃止する。

広島県立美術館管理運営規則

(昭和43年4月1日)
教育委員規則第1号

最終改正 平成24年4月1日教育委員会規則第7号

(趣 旨)

第1条 この教育委員会規則は、広島県立美術館（以下「美術館」という。）の管理及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(指定管理者が行う業務)

第2条 広島県立美術館条例（昭和43年広島県条例第20号。以下「条例」という。）第5条第2項第1号の教育委員会規則で定める業務は、次に掲げる業務とする。

- (1) 美術館の利用促進に関すること。
- (2) 美術館の利用案内に関すること。
- (3) 県民の美術に関する学習活動の支援に関すること。

(開館時間等の周知)

第3条 条例第6条第3項又は第7条第2項の規定により、美術館の開館時間若しくは講堂若しくは駐車場の利用時間を変更し、又は美術館の全部若しくは一部を臨時に休館し、若しくは休館日に開館する場合は、あらかじめ、その旨を美術館に掲示する等周知のために必要な措置を講じなければならない。

(展示施設等の利用の申込み等)

第4条 美術館の展示施設及び講堂（以下「展示施設等」という。）を利用しようとする者は、展示施設等利用申込書を指定管理

者に提出し、条例第8条第1項の許可（以下「利用許可」という。）を受けなければならない。

2 前項の規定による利用の申込みは、次に掲げる期間内にしなければならない。ただし、特別の事情があると指定管理者が認める場合は、この限りでない。

(1) 展示施設 利用開始日の1年前から1月前まで

(2) 講 堂 利用開始日の2月前から7日前まで

(展示施設等利用許可書の交付)

第5条 指定管理者は、利用許可をしたときは、展示施設等利用許可書を申込者に交付するものとする。

2 展示施設等利用許可書は、展示施設等を利用する際必ず携帯し、係員の請求があるときは、これを提示しなければならない。（駐車場の利用手続）

第6条 駐車場を利用しようとする者（以下「駐車場利用者」という。）は、自動車を入庫させる際、駐車券の発給を受けるものとする。この場合においては、当該発給を受けたときに利用許可を受けたものとみなす。

2 駐車場利用者が自動車を出庫させようとする際は、駐車時間に応じた利用料金を納付しなければならない。

(利用料金の周知)

第7条 指定管理者は、条例第12条第1項の規定により教育委員会の承認を受けて利用料金を定めたときは、美術館に掲示する等周知のために必要な措置を講じなければならない。

(利用料金の返還)

第8条 条例第12条第4項ただし書の規定により、指定管理者は、利用許可を受けた者がその責めに帰することができない理由により利用することができない場合は、当該利用料金の全額を返還する。

2 前項の規定により利用料金の返還を受けようとする者は、利用料金返還申請書に第5条第1項の展示施設等利用許可書を添えて、指定管理者に提出しなければならない。

(利用料金の減免)

第9条 条例第14条第1項第1号から第9号まで、同条第2項第1号又は同条第3項第1号若しくは第2号に該当する場合は、利用料金（条例別表第2に規定する電気設備を利用する場合の利用料金を除く。以下本条において同じ。）を免除する。

2 条例第14条第2項第2号又は第3号に該当する場合は、利用料金の額の2分の1に相当する額を減額する。

3 条例第14条第2項第4号又は第5号に該当する場合は、利用料金の額の5分の1に相当する額を減額する。

4 前2項の規定により算定した減額後の利用料金の額に10円未満の端数が生じたときは、その端数を切り捨てるものとする。

(利用料金の減免の申請)

第10条 前条第1項の規定により利用料金の免除を受けようとする者のうち条例第14条第1項第1号から第7号まで又は同条第3項第2号に該当するものは、該当することを証する書類を指定管理者に提示しなければならない。

2 前条第2項又は第3項の規定により利用料金の減額を受けようとする者は、第4条第1項の展示施設等利用申込書の提出時に併せて利用料金減額申請書を指定管理者に提出し、その承認を受けなければならない。

(補 則)

第11条 この教育委員会規則に定めるもののほか、美術館の管理及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

(施行期日)

1 この教育委員会規則は、広島県縮景園設置及び管理条例及び広島県立美術館条例の一部を改正する条例（平成19年広島県条例第21号）の施行の日から施行する。（施行の日＝平成20年4月1日）

附 則（平成21年3月24日教育委員会規則第3号）

この教育委員会規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成24年4月1日教育委員会規則第7号）

この教育委員会規則は、公布の日から施行する。

広島県立美術館美術品等収集評価委員会設置要領

最終改正 平成12年2月1日

(設 置)

第1条 広島県立美術館（以下「美術館」という。）に広島県立美術館美術品等収集評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(意見の聴取)

第2条 美術館長は、美術品等を収集しようとするときは、当該美術品等の収集及び評価についてあらかじめ委員会の意見を徴するものとする。但し、「文化財保護法」第27条の規定により指定された国宝・重要文化財及び「美術品の美術館における公開の促進に関する法律」第3条の規定により登録された美術品並びに広島県文化財保護条例第3条の規定により指定された広島県重要文化財はこの限りでない。

(委員の構成等)

第3条 委員会は、委員8人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから美術館長が委嘱する。

- (1) 美術館、博物館、大学、研究所等の職員
- (2) 美術評論家
- (3) その他、館長が適当と認める者

3 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は再任することができる。

(臨時委員)

第4条 美術館長が審議のため必要と認めた場合は、専門的知識を持つ者を臨時委員に委嘱できる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 委員長は、委員会の会議を総理する。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、必要に応じ美術館長が召集する。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、議事を開くことができない。

(守秘義務)

第7条 委員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

(庶務)

第8条 委員会に関する庶務は、美術館において行う。

(雑則)

第9条 この要領に定めるもののほか、委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、美術館長が別に定める。

附 則

この要領は、平成元年7月11日から施行する。

広島県立美術館美術品等収集基本方針

(昭和63年12月9日)

広島県立美術館の美術品等収集に関する基本方針を次のとおり定める。

- 1 本県ゆかりの作家の美術品等については、次項に準拠しつつ、各作家ごとの体系的なコレクションの形成につとめる。
- 2 次に掲げる美術品等の収集に主眼を置き、日本美術の特質を味わうことのできる体系的なコレクションの形成につとめる。
 - (1) 近現代作家の特色ある美術作品
近代から現代にいたる絵画等の平面・立体造形作品のうち、時代の特徴と制作意図の明確な作品。
 - (2) 近代の工芸作品
わが国工芸の特色を示す陶芸、染色、漆芸、金工等のうち、主として近代以降に制作された作品。
 - (3) 近代の彫塑作品
近代以降のわが国の彫塑界で特に重要と認められる作家の作品。
 - (4) その他の美術作品
上記(1)～(3)に掲げる美術作品のほか、美術館において収蔵するにふさわしいと認められる美術工芸作品。
 - (5) 美術資料
収蔵する美術品等に関する作家並びに美術作品を理解するうえで必要な日記、書簡、下絵等の美術資料等。
 - (6) 補助的関連資料
収集する美術品等に関する調査研究及び教育普及事業に必要な視聴覚教材、図書、複製品等の補助的関連資料
- 3 その他、美術館において所蔵するにふさわしい東洋・西洋の美術品等を収集する。

広島県立美術館展示施設等運営要領

(平成8年7月24日 館長決裁)

この要領は、広島県立美術館管理運営規則（昭和43年4月1日教育委員会規則第1号）に基づき美術館の展示施設及び講堂の適正かつ効果的な運営を図るため、利用の形態及び許可の基準その他の必要な事項を定めるものとする。

1 利用形態

① 常設展示室（2階）

第1から第4展示室及び彫刻展示スペースは、所蔵作品による常設展示を行う。

② 企画展示室（3階）

北、東、西及び展示前室は、美術館が企画・主催し又は共催する展覧会事業に使用する。ただし、美術館が共催する展覧会は、国若しくは地方公共団体（その機関を含む。）又は公共性の高い機関が企画・主催する事業で、美術館が共催するにふさわしい、開催意義の高い事業に限る。

なお、これらの展覧会を実施しても、なお、空室が生じる場合は、「広島県教育委員会の共催・後援・協賛に関する基準について（昭和54年3月29日）」に基づき共催・後援に該当する展覧会に限り使用することができる。

③ 県民ギャラリー（地階）

条例第1条により、団体又は個人が美術に関する事業を目的として利用する場合に、これを許可する。

④ 講堂兼ハイビジョンギャラリー（地階）

通常はハイビジョンギャラリーとして入館者が自由に鑑賞できるように毎日一定時間使用する。また、団体又は個人が芸術に関する県民の知識及び教養の向上に資する目的で講演会などの催しのために利用する場合には、美術館が企画・主催する事業に支障のない範囲内でこれを許可する。

⑤ 図書館（1階）

美術に関する図書及び参考図書を公開し、利用者に提供する。また、室内にハイビジョン・データ・ブースを設置し、美術館の所蔵品に関するデータベースを提供して利用者の学習の便を図る。

⑥ 情報ギャラリー（1階）

ポスター、パンフレットなど、さまざまな広報媒体を掲示して、利用者に情報を提供するとともに、時機に応じて比較的小規模の企画展示を行う。また、一部にハイビジョン・ブースを設置し、美術館の所蔵品に関するオリジナル番組を提供して、利用者の作品理解の一助とする。

2 利用の申込み

県民ギャラリーの利用の申込みは、原則として年度を前・後期に分け、前期については、前年度の9月1日から9月30日まで、後期については、前年度の3月1日から3月31日までの間に受け付けるものとする。

講堂の利用の申込みは、利用日の2ヶ月前から随時行うものとする。

3 利用の期間及び回数

県民ギャラリーの利用期間は原則2週間をこえないこととし、利用回数は同一の団体又は個人につき原則年1回とする。

広島県立美術館評価委員会設置要項

（設 置）

第1条 広島県立美術館（以下「美術館」という。）の業務の実績を評価し改善策を提示するとともに、美術館運営に関して助言を行うため、美術館に広島県立美術館評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（組 織）

第2条 委員会は、委員8名をもって組織する。

2 委員は、美術館の運営及び事業に係る分野に見識を有する者のうちから、美術館長が委嘱する。

3 委員の任期は、2年間とする。ただし再任を妨げない。

4 委員に欠員が生じた場合は、美術館長は新たに委員を委嘱することができる。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第3条 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、美術館長が指名する委員をもって充てる。

3 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

（会 議）

第4条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 委員会の会議は、委員の半数以上の出席を必要とする。

3 委員会は次の事項について審議する。

(1) 美術館の評価方法に関すること

(2) 美術館の事業計画の評価に関すること

(3) 美術館の事業実績の評価に関すること

(4) その他、美術館運営に関する助言・指導に関すること

4 委員長が必要と認めるときは、会議に必要な経験・知識を有する者を招き、意見を聴取することができる。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、美術館において行う。

(その他の事項)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に際し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

(施行期日)

この要領は、平成23年6月29日から施行する。

Ⅸ 名 簿

美術品等収集評価委員会

委員長	内 山 武 夫	前京都国立近代美術館長
委員	山 梨 俊 夫	国立国際美術館長
〃	金 田 晋	広島大学名誉教授
〃	白 石 和 己	山梨県立美術館長
〃	中 林 和 雄	東京国立近代美術館企画課長
〃	井 関 和 代	大阪芸術大学芸術学部教授
〃	谷 新	宇都宮美術館長

広島県立美術館評価委員会

委員長	酒 井 忠 康	世田谷美術館長
委員	岩穴口 一 夫	(社)日本旅行業協会中四国支部長
〃	河 野 高 信	己斐商事(株)代表取締役
〃	柴 川 敏 之	美術作家・就実短期大学教授
〃	竹 内 泰 彦	広島県立美術館友の会会長
〃	永 野 正 雄	(株)テレビ新広島代表取締役社長
〃	水 沢 勉	神奈川県立近代美術館長
〃	山 下 治 子	雑誌ミュゼ編集長

職 員

館 長	越 智 裕二郎
副 館 長 (兼)総務課長	前 田 宜 彦
学芸企画監 (兼)学芸課長	松 田 弘
専 門 員	西 岡 賢 一
〃	三 浦 緑
主 事	藤 本 悠 乃
主任学芸員	宮 本 真希子
〃	角 田 新
〃	石 橋 健太郎
〃	福 田 浩 子
〃	石 川 哲 子
〃	永 井 明 生
〃	藤 崎 綾
〃	周々木 朝 香
学 芸 員	山 下 寿 水

平成23年度

広島県立美術館年報

平成24年8月31日発行

発行者 **広島県立美術館**

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22
電話（082）221-6246

印刷所 **株式会社タクトープリントメディア**

〒730-0052 広島市中区千田町3丁目2-30
電話（082）244-1110

（人名については、敬称略）